豊田市子ども総合計画に関する市民意向調査結果

平成 21 年３月

豊田市

目　次

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ.１　調査の目的（子どもの権利擁護、青少年の自立支援、次世代育成支援）…… 3
Ⅰ.２　調査設計と回収状況…… 4
Ⅰ.３　調査を実施した学校…… 5
Ⅰ.４　調査結果の見方…… 5

Ⅱ　調査の結果

Ⅱ.１　回答者の属性（性・年齢、学校・居住地区、在住歴、調査票の記入者）…… 9

Ⅱ.２．調査対象児をとりまく家族等の状況
Ⅱ.２－１　家族…… 18
Ⅱ.２－２　就労状況…… 22
Ⅱ.２－３　主な養育者…… 24

Ⅱ.３．子どもの生活
Ⅱ.３－１　楽しいこと、熱中すること…… 25
Ⅱ.３－２　友達…… 27
Ⅱ.３－３　放課後の過ごし方、日曜日の過ごし方…… 30
Ⅱ.３－４　食事…… 32
Ⅱ.３－５　あいさつ、手伝い…… 33
Ⅱ.３－６　子どもが自分専用で持っているもの…… 33
Ⅱ.３－７　活動への参加…… 34
Ⅱ.３－８　ほっとできる場所…… 36
Ⅱ.３－９　生活の実感、自己認識…… 38

Ⅱ.４．子ども条例にかかわること
Ⅱ.４－１　親との関係…… 40
Ⅱ.４－２　学校で楽しいこと、嫌なこと…… 42
Ⅱ.４－３　いじめ、不登校…… 47
Ⅱ.４－４　悩みや不安…… 54
Ⅱ.４－５　いやな思い…… 55
Ⅱ.４－６　相談相手…… 59
Ⅱ.４－７　子どもの意見…… 60
Ⅱ.４－８　大切な子どもの権利…… 62
Ⅱ.４－９　子ども条例の認知…… 65

Ⅱ.４－10　子ども委員 …… 67
Ⅱ.４－11　子どもの権利の尊重…… 69
Ⅱ.４－12　権利学習…… 70
Ⅱ.４－13　地域の子育て支援への参加 …… 71

Ⅱ.５．子どもの自立について
Ⅱ.５－１　楽しいこと、熱中すること…… 72
Ⅱ.５－２　やってみたいこと …… 73
Ⅱ.５－３　大人について…… 74
Ⅱ.５－４　尊敬する人…… 75
Ⅱ.５－５　夢、やりたいこと…… 76
Ⅱ.５－６　職業…… 78
Ⅱ.５－７　将来のぞむ生き方…… 80
Ⅱ.５－８　子どもをもつこと…… 81

Ⅱ.６．母子手帳交付者の意識やニーズ
Ⅱ.６－１　家事分担、子どもへの関心…… 82
Ⅱ.６－２　教室への参加…… 83
Ⅱ.６－３　不妊…… 84
Ⅱ.６－４　出産予定…… 85
Ⅱ.６－５　突然死症候群…… 87
Ⅱ.６－６　マームの認知、カードの認知…… 88
Ⅱ.６－７　育児休業の取得予定…… 89

Ⅱ.７．子育てをめぐる状況
Ⅱ.７－１　子育てに対する思い…… 92
Ⅱ.７－２　子育てに関する心配や悩み…… 93
Ⅱ.７－３　子育て仲間…… 96
Ⅱ.７－４　ワーク・ライフ・バランスの現状…… 97
Ⅱ.７－５　ワーク・ライフ・バランスの推進のために企業などに求める環境整備 ‥ 98
Ⅱ.７－６　学校教育への期待…… 99
Ⅱ.７－７　最近の子育て、教育の課題…… 100
Ⅱ.７－８　子どもとのふれあい…… 101
Ⅱ.７－９　情報収集の方法…… 102

Ⅱ.８．地域子育て支援施設等の利用状況・利用希望
Ⅱ.８－１　地域子育て支援施設等の利用状況 103
Ⅱ.８－２　地域子育て支援施設等の利用希望 105
Ⅱ.８－３　広場事業に期待する機能 106

Ⅱ.９．豊田市の子育て支援
Ⅱ.９－１　地域活動への参加 107
Ⅱ.９－２　豊田市に期待する子育て支援 109
Ⅱ.９－３　豊田市は子育てしやすいまちか、３年前との比較 110

Ⅲ　就学前児童保育サービス、放課後児童クラブ等の利用状況・利用希望等

Ⅲ.１．就学前児童保育サービス等の利用状況・利用希望等
Ⅲ.１－１　就労希望、就労支援機関の利用 115
Ⅲ.１－２　育児休業の取得状況 119
Ⅲ.１－３　就学前児童保育サービスの利用ニーズ 123
Ⅲ.１－４　ファミリーサポートの利用ニーズ 133
Ⅲ.１－５　早朝、夜間保育 134
Ⅲ.１－６　ベビーシッターの利用状況・利用希望 135

Ⅲ.２．放課後児童クラブ等の利用状況・利用希望等
Ⅲ.２－１　就労希望、就労支援機関の利用 136
Ⅲ.２－２　放課後児童クラブの利用ニーズ 139
Ⅲ.２－３　ファミリーサポートの利用ニーズ 147
Ⅲ.２－４　ベビーシッターの利用状況・利用希望 148

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

この調査は、豊田市子ども条例に規定する「子ども総合計画」及び「次世代育成支援行動計画」の後期計画の策定にあたり、市民意向調査を行い、ニーズを把握するとともに、「とよた子どもスマイルプラン」及び「とよた子どもスマイルプラン青少年編」の政策や事業の進捗状況や評価を確認することを目的としている。

調査対象は、主に成人を想定した調査としては、すこやか親子手帳（母子健康手帳）交付対象者、就学前児童（０～５歳）の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者、一般市民を対象としている。妊娠や子育ての現状や、今後の保育ニーズを把握するとともに、一般市民の子育て支援に関する意識などを把握することにより、豊田市の子育て支援に関する施策の充実を図るために実施した。

また、各年代の子どもや青少年意識と生活実態を把握し、今後、児童生徒や青少年の健全育成に関する施策を総合的に展開するための基礎資料を得ることを目的としている。

「次世代育成支援行動計画」の策定後、平成 19 年 10 月 9 日に豊田市子ども条例が公布され、子どもの権利擁護及び子どもにやさしいまちづくりの仕組みが整った。

国の動向としては、近年、ワーク・ライフバランスの観点から、男性の子育てへの参画や、社会の子育てに対する理解や支援の充実が求められるようになっており、そうした動向についても分析を行う。その他、豊田市の施策や事業の評価についても調査を行った。

1　調査の概要

2　調査設計と回収状況

区　分	①小学生低学年	②小学生高学年	③－１中学生（学校配布）	③－２高校生
調査対象	豊田市在住の小学校１～３年生	豊田市在住の小学校４～６年生	豊田市在住の中学生	豊田市在住の高校生
抽出方法	12 地区別に学校を選定	12 地区別に学校を選定	12 地区別に学校を選定	地区別に 15、16、17 歳を抽出
調査方法	小学校で配布、回収	小学校で配布、回収	中学校で配布、回収	郵送配布・郵送回収
謝礼ハガキの送付	なし	なし	なし	あり
調査時期	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月
標本数	1,750 人	1,780 人	1,200 人	400 人
有効回収数	1,407 人	1,496 人	1,092 人	187 人
有効回収率	80.4%	84.0%	91.0%	46.8%
調査票名	とよたし　子どものせいかつについてのちょうさ	豊田市子どもの生活と意識に関する調査	豊田市子どもの生活と意識に関する調査	豊田市子どもの生活と意識に関する調査

区　分	④母子手帳交付被交付者	⑤就学前児童の保護者	⑥小学生（就学児）の保護者	⑦中学生の保護者	⑧一般市民
調査対象	母子手帳交付被交付者	豊田市在住の就学前児童の保護者	豊田市在住の小学生の保護者	豊田市在住の中学生の保護者	豊田市在住の 20～60 歳代
抽出方法	期間中全員配布	地区別、子ども年齢 0～5 歳別に各 500 人抽出	上記①、②対象者の保護者	上記③－１対象者の保護者	地区別、年代別に抽出
調査方法	手帳交付時に配布、回収	郵送配布・郵送回収	対象となった児童・生徒を通して配布・回収	対象となった児童・生徒を通して配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査時期	平成 20 年 12 月～平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月	平成 21 年 1 月
謝礼ハガキの送付	なし	なし	なし	なし	あり
標本数	450 人	3,000 人	3,250 人	1,200 人	4,000 人
有効回収数	433 人	2,028 人	2,896 人	1,054 人	2,273 人
有効回収率	96.2%	67.6%	89.1%	87.8%	56.8%
調査票名	豊田市子育て支援に関する市民意向調査	「豊田市子ども総合計画」に関する市民意向調査	「豊田市子ども総合計画」に関する市民意向調査	「豊田市子ども総合計画」に関する市民意向調査	「豊田市子ども総合計画」に関する市民意向調査

3　調査を実施した学校

小学生は全生徒を対象として、中学生は各学年１クラスを対象として実施した。

（1）小学校調査

小学校	地区
挙母	挙母
寿恵野	上郷
駒場	高岡
九久平	松平
加納	猿投
五ヶ丘	高橋
石畳	藤岡
道慈	小原
足助	足助
大沼	下山
小渡	旭
稲武	稲武
合計	

（2）中学校調査

中学校	地区
豊南	挙母
高橋	高橋
上郷	上郷
高岡	高岡
猿投台	猿投
松平	松平
藤岡	藤岡
小原	小原
足助	足助
下山	下山
旭	旭
稲武	稲武
合計	

4　調査結果の見方

（1）比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。そのためパーセントの合計が 100%にならないこともある。

（2）基数となるべき実数は、件数または調査数として掲載した。比率は、この件数を 100%として算出している。

（3）複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数（票数）とし、その項目を選び○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をした。そのため、各項目の比率の合計は通常 100%を超える。

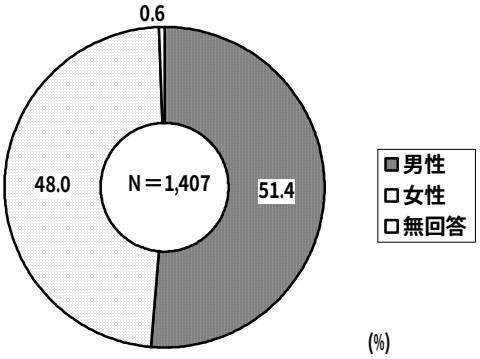
（4）本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合がある。

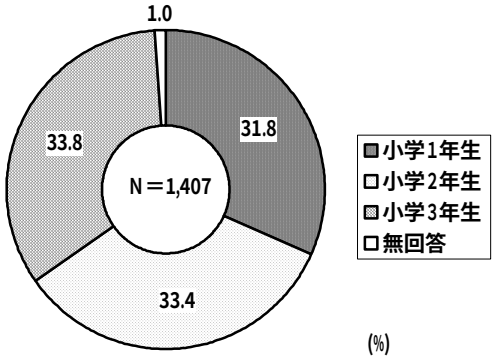
Ⅱ　調査の結果

1　回答者の属性

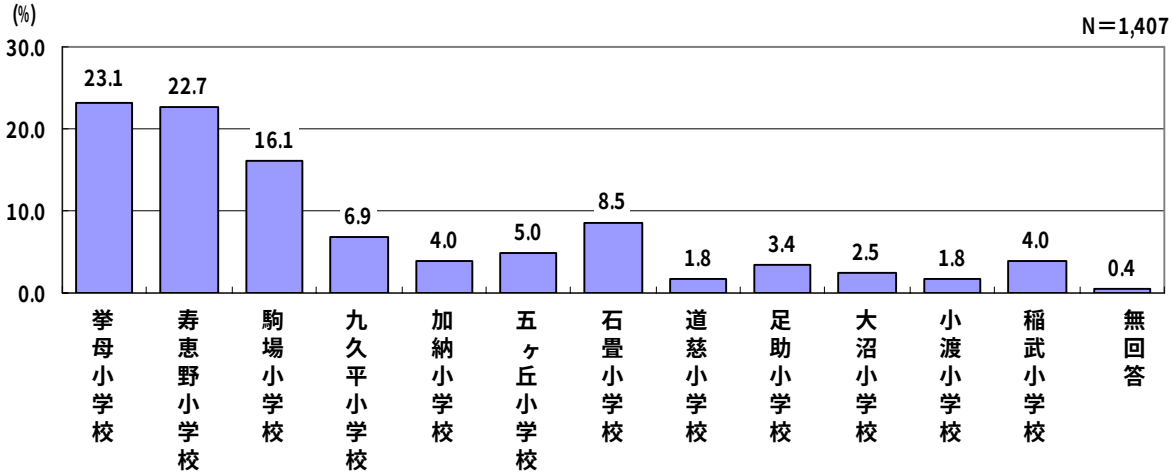
１－１
小学生低学年

（1）性・学年



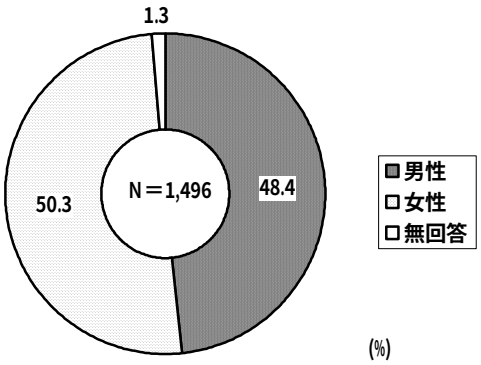


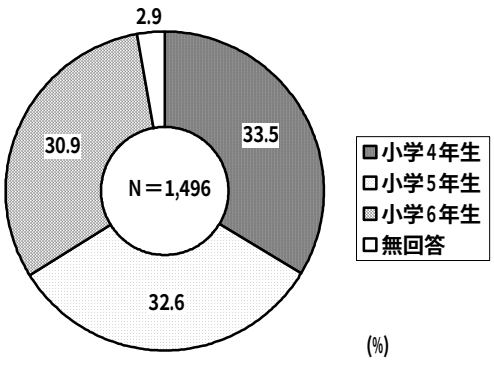
（2）学校



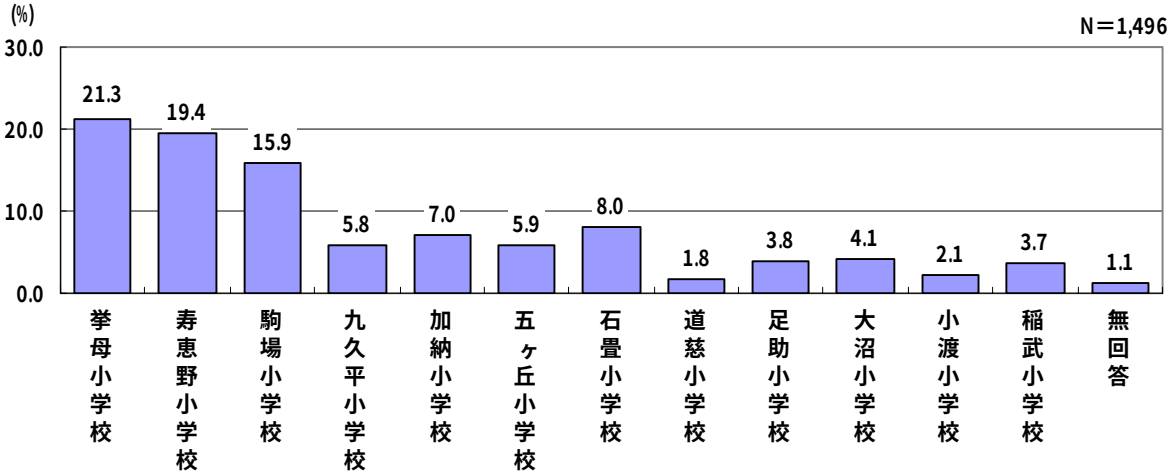
１－２　小学生高学年

（１）性・学年



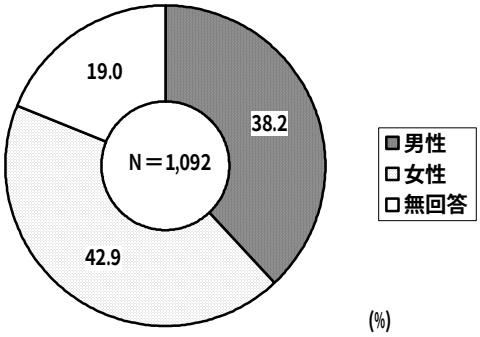


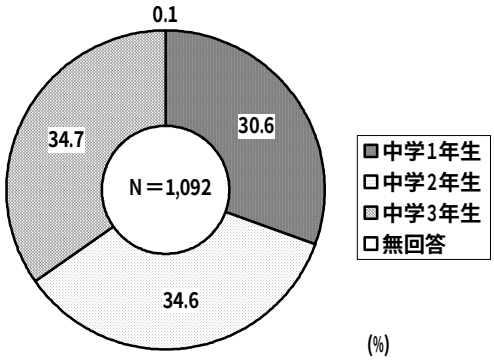
（２）学校



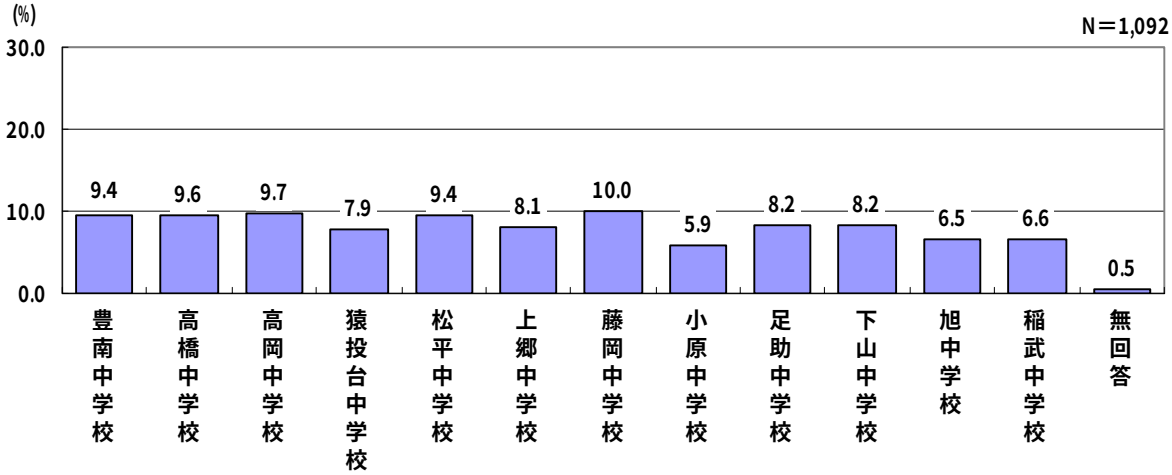
１－３　中学生

（１）性・学年



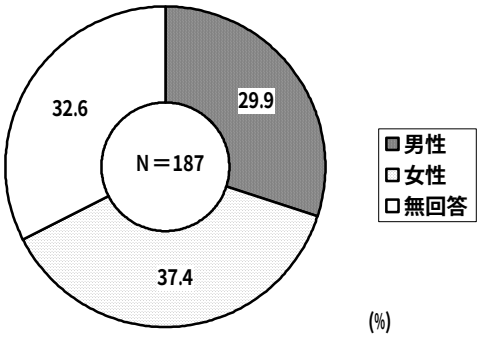


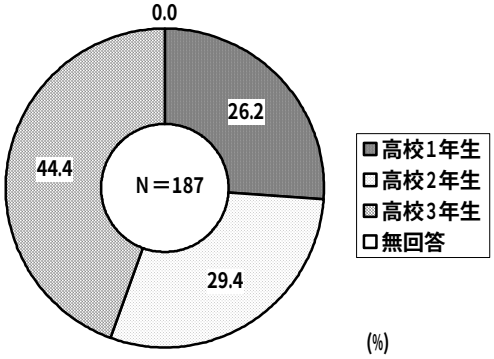
（２）学校



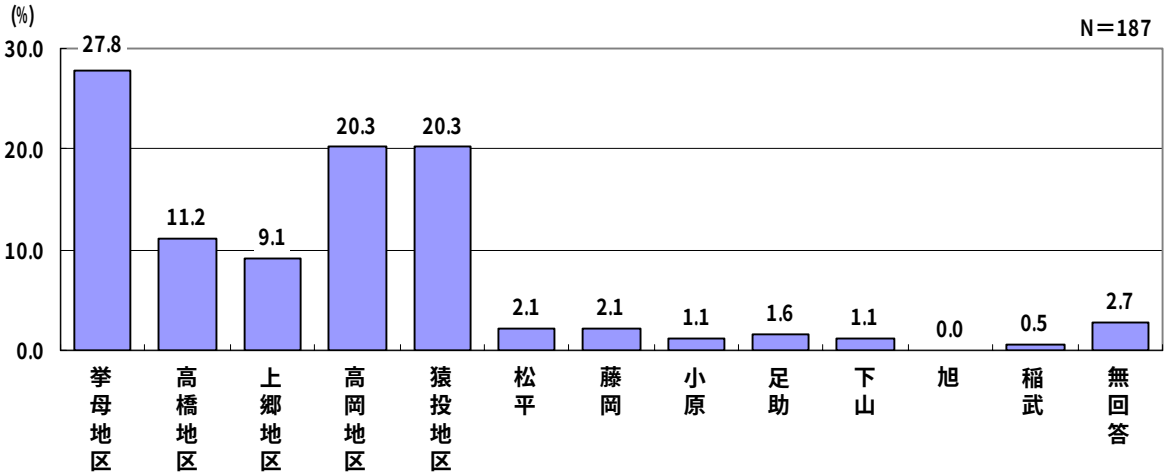
１－４　高校生

（１）性・学年



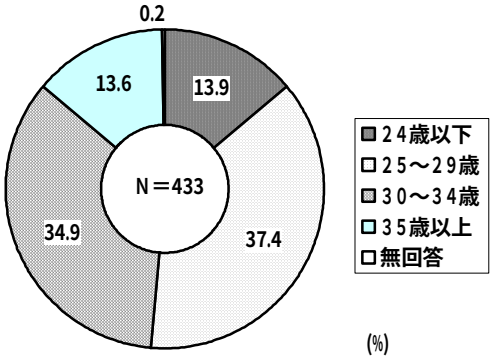


（２）居住地区

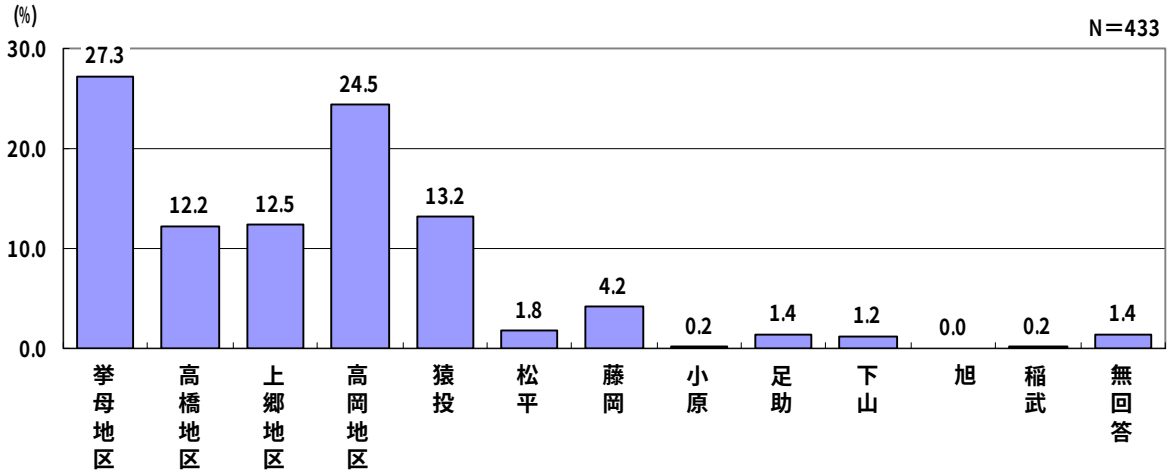


１－５　母子手帳交付被交付者

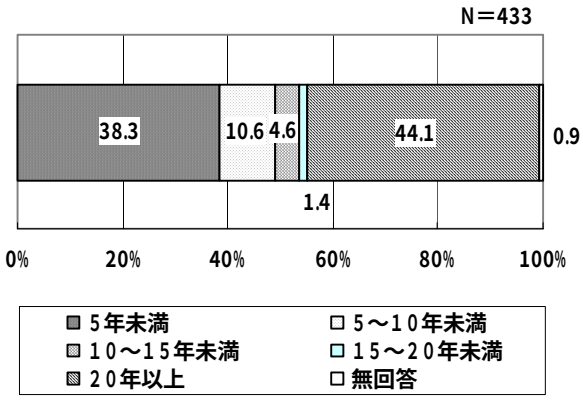
（１）年齢



（２）居住地区

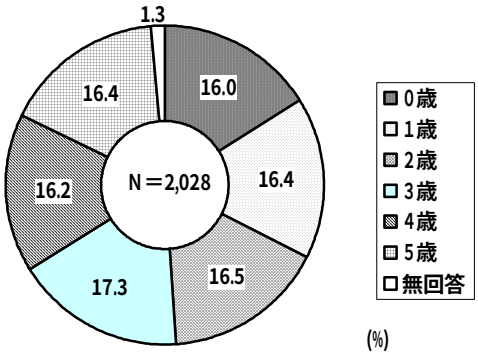


（３）在住歴

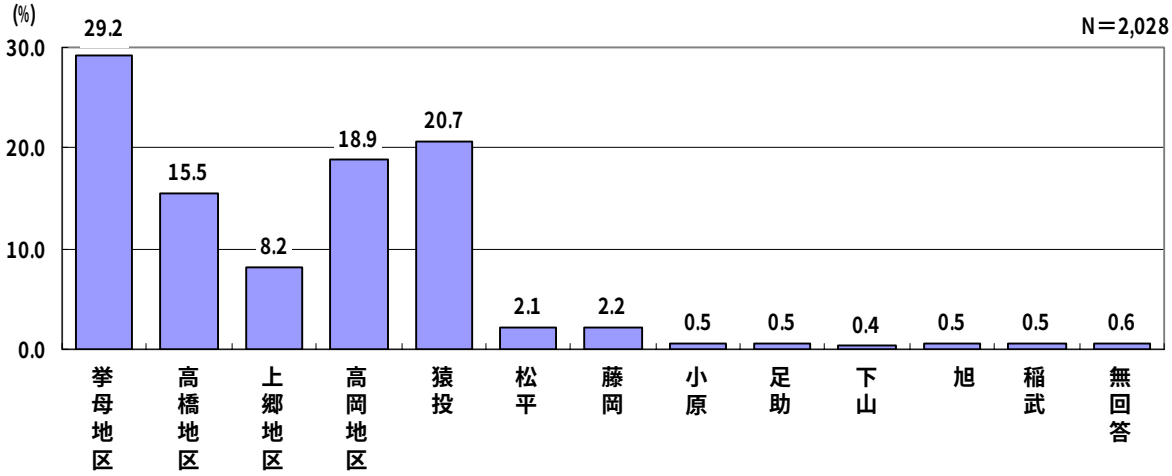


１－６　就学前児童の保護者

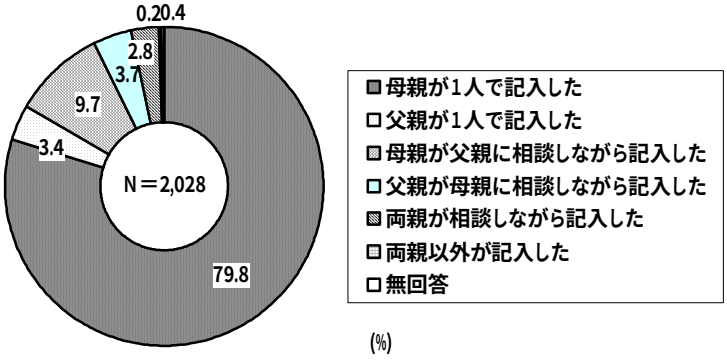
（１）調査対象児の年齢



（２）居住地区

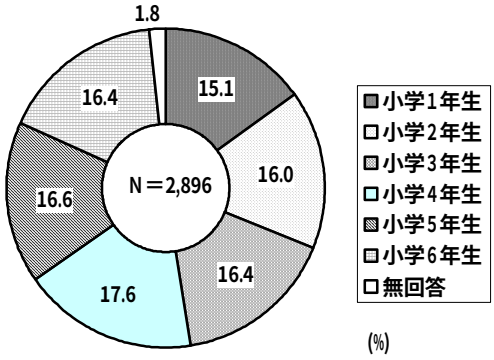


（３）記入者

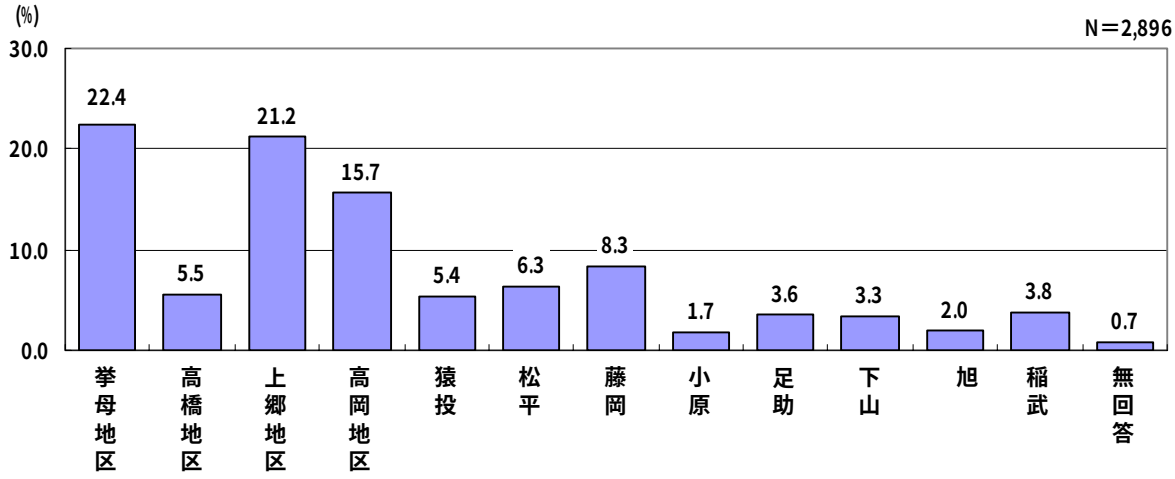


１－７　小学生（就学児）の保護者

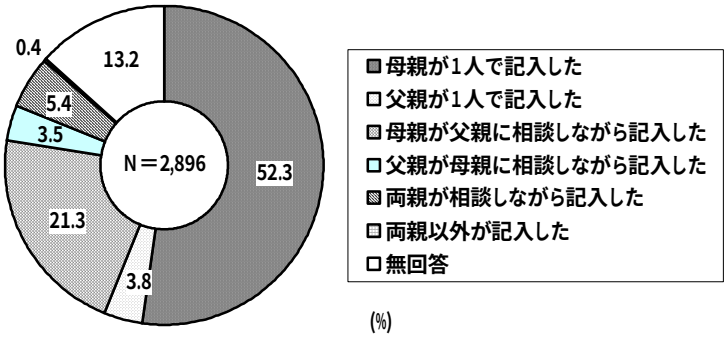
（１）調査対象児の学年



（２）居住地区

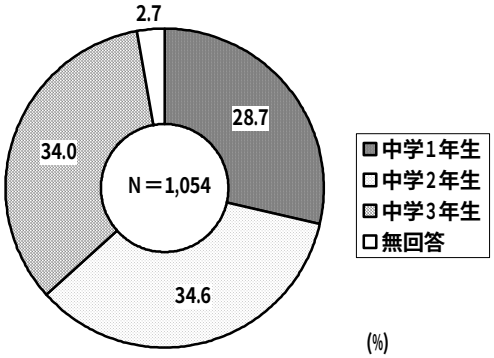


（３）記入者

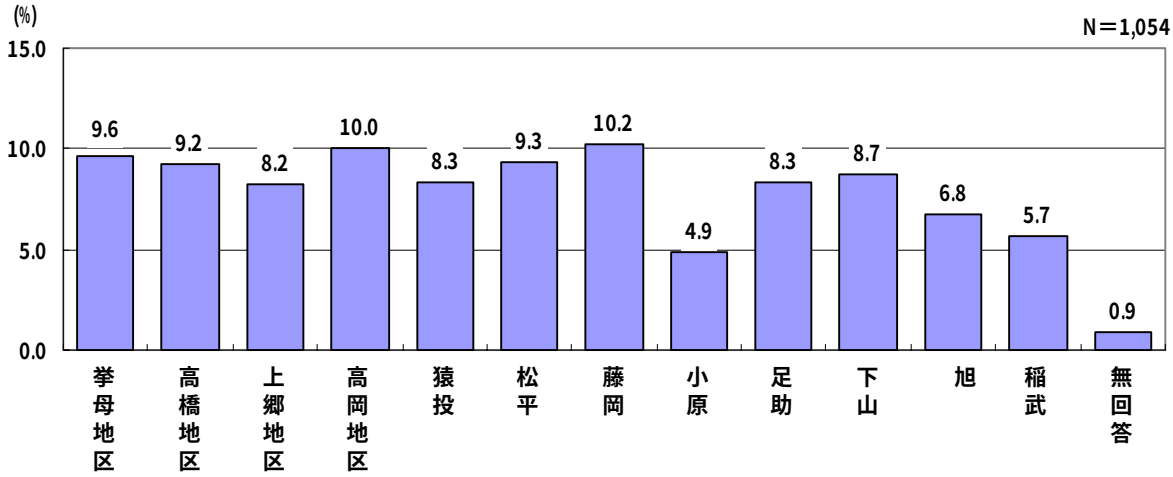


１－８　中学生の保護者

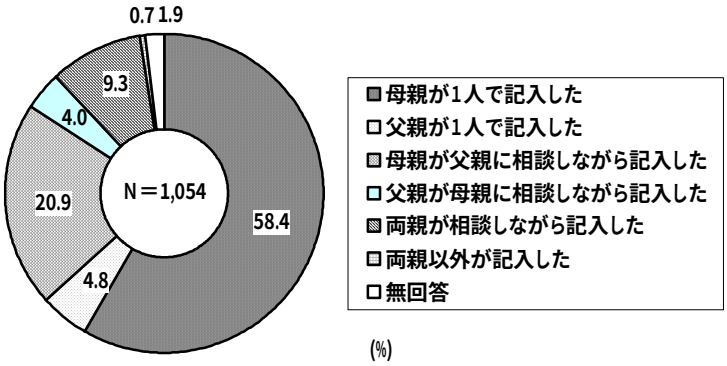
（１）調査対象児の年齢



（２）居住地区

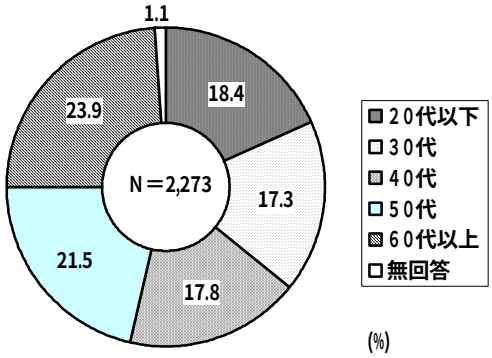


（３）記入者

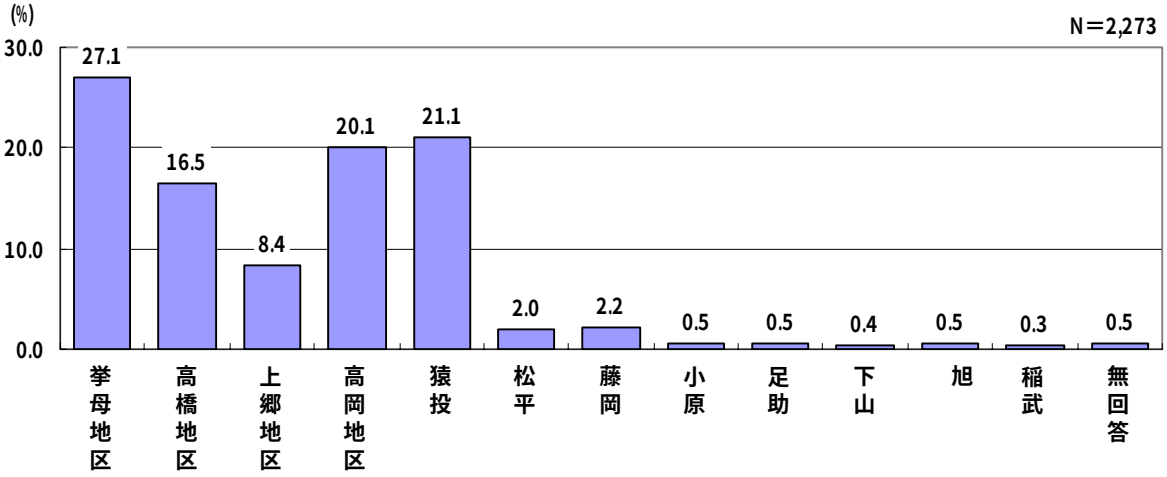


１－９　一般市民

（１）年齢



（２）居住地区

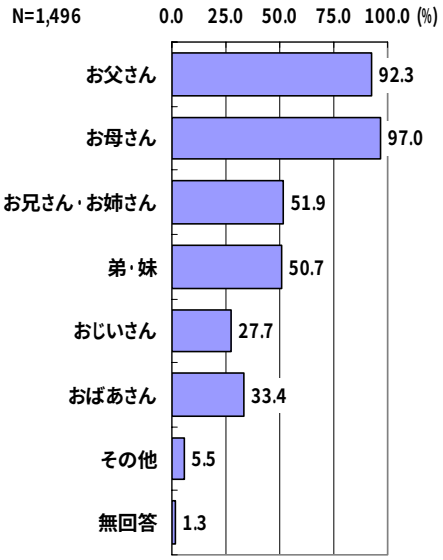


２　調査対象児をとりまく家族等の状況

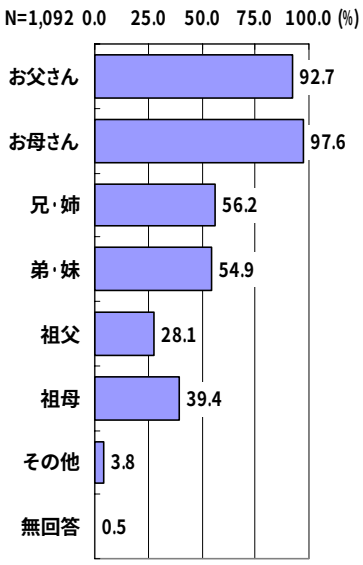
２－１　家族

（１）同居・近居家族

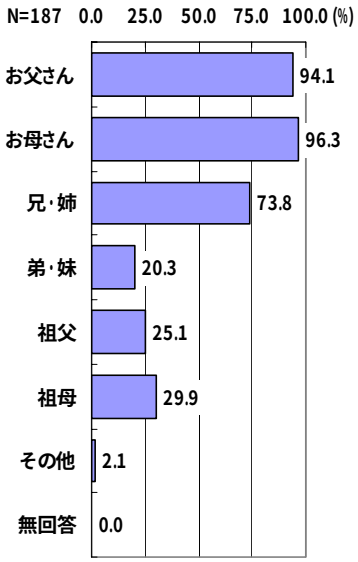
【小学生高学年】



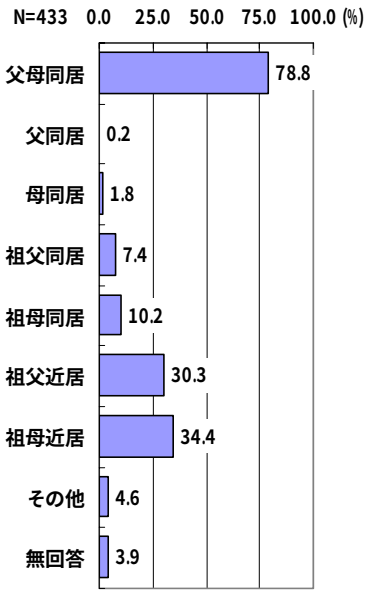
【中学生】



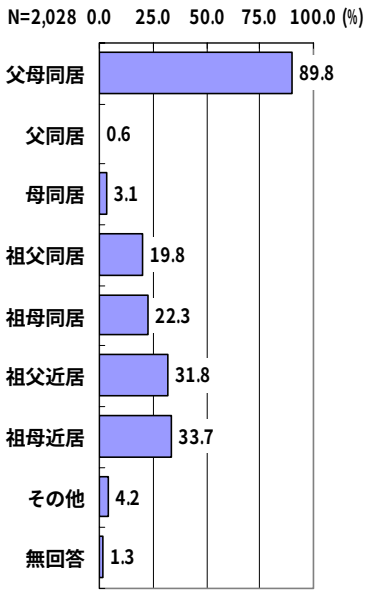
【高校生】



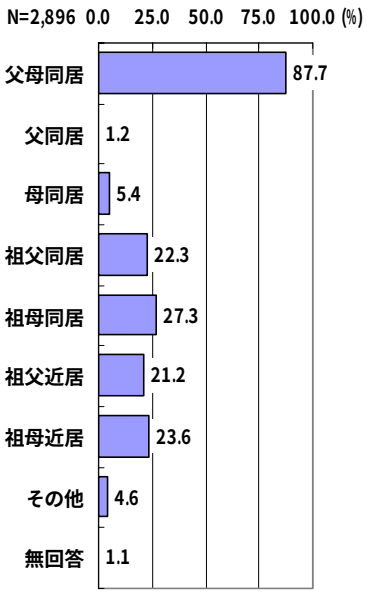
【母子手帳交付被交付者】



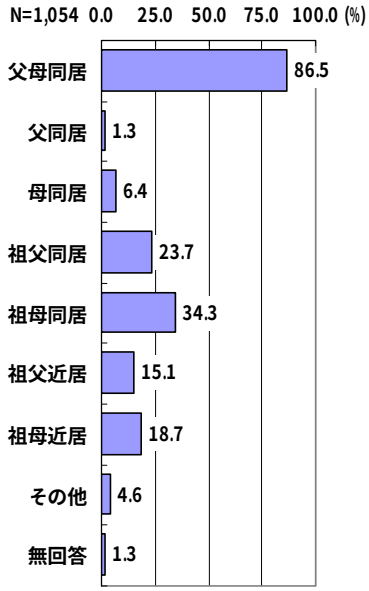
【就学前児童保護者】



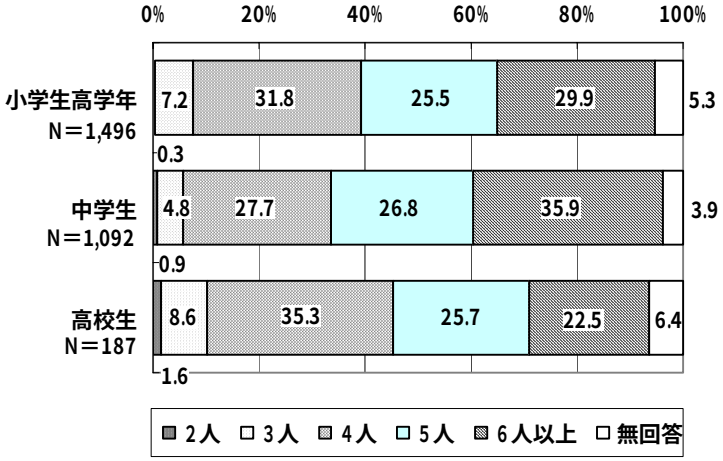
【小学生保護者】



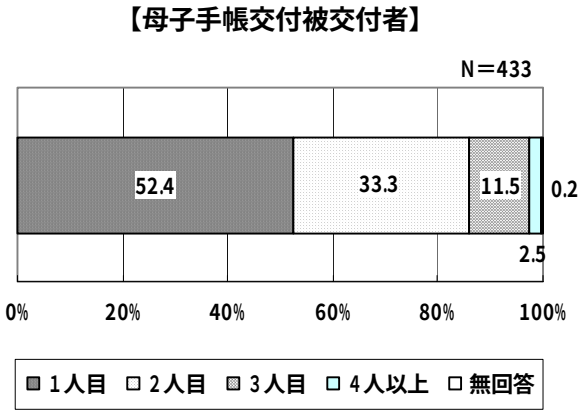
【中学生保護者】



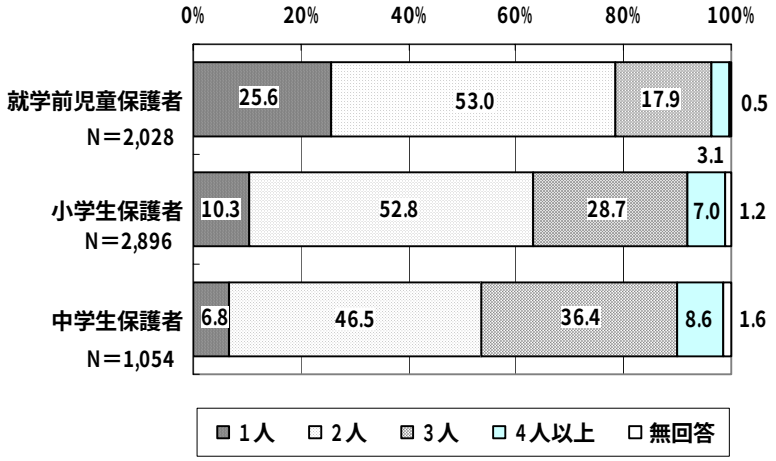
（２）家族の人数



（３）手帳交付を受けた時の子ども

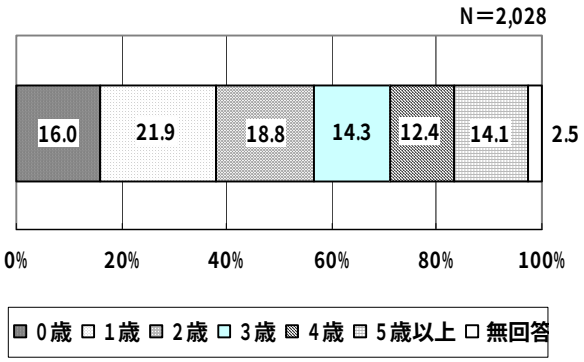


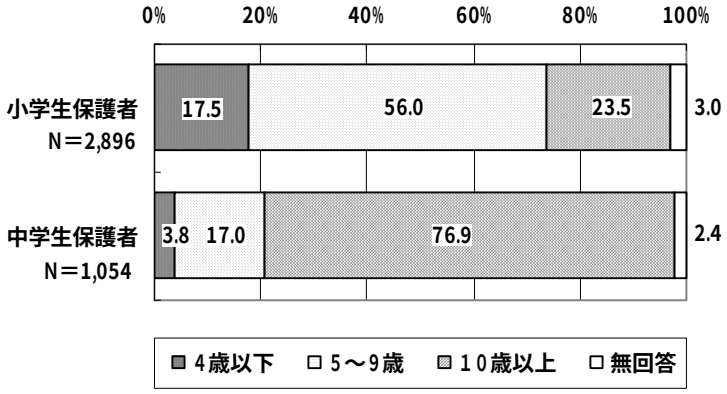
（4）子どもの人数



（5）末子の子どもの年齢

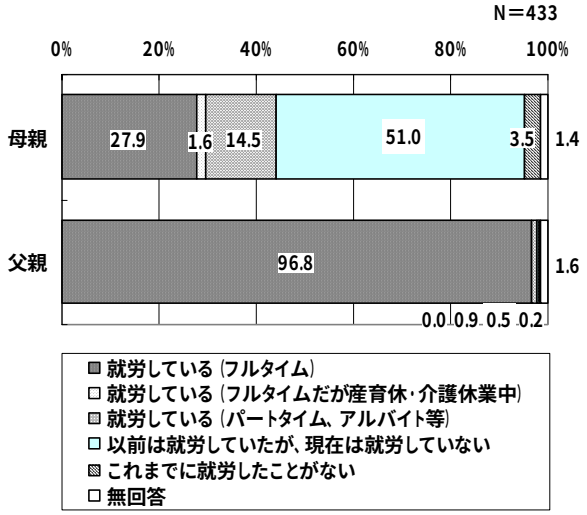
【就学前児童保護者】



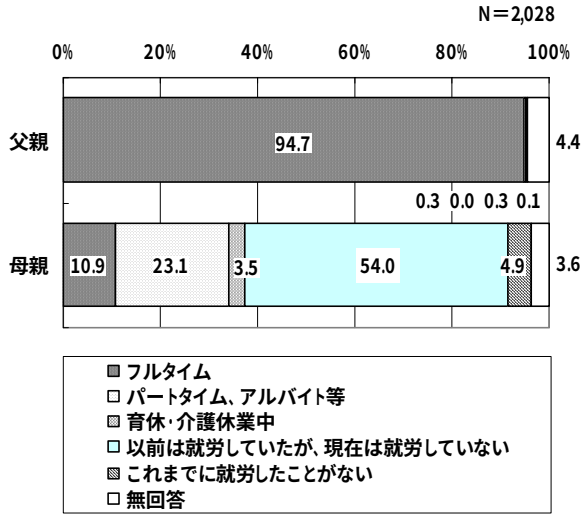


２－２　就労状況

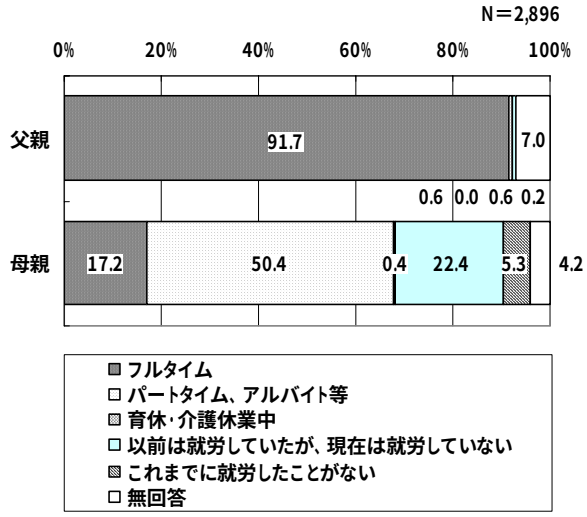
【母子手帳交付被交付者】



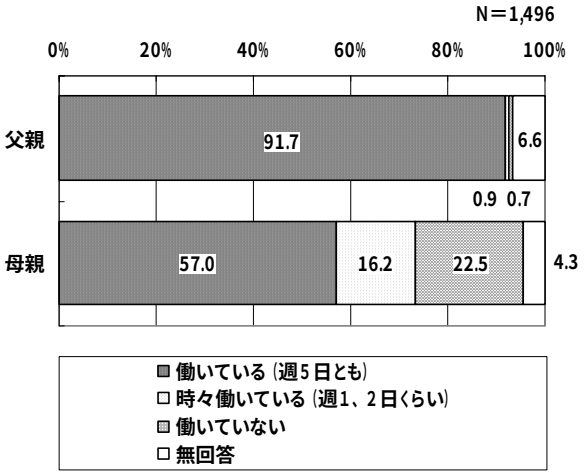
【就学前児童保護者】



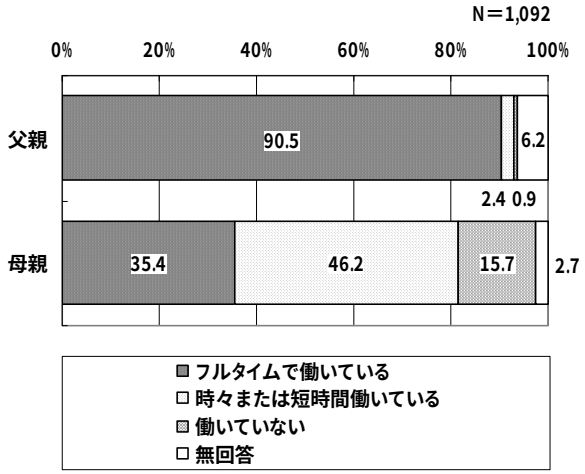
【小学生保護者】



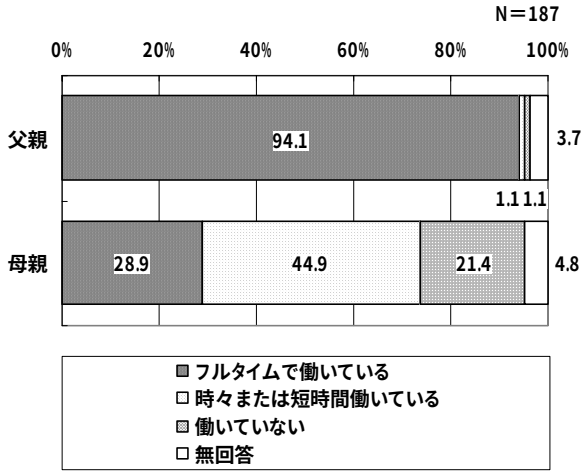
【小学生高学年】



【中学生】

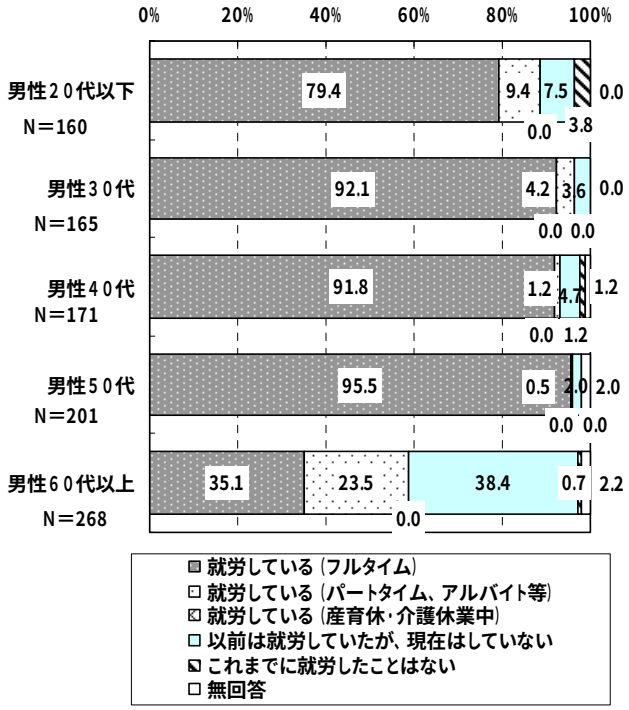


【高校生】

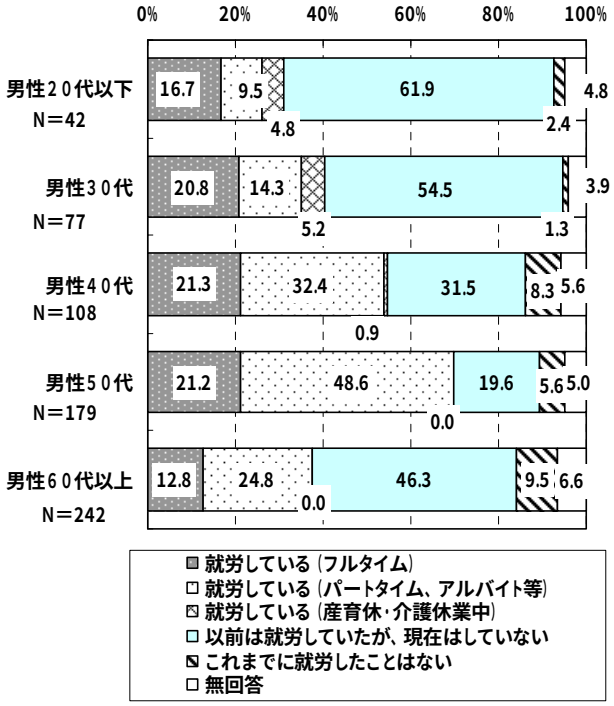


【一般市民】

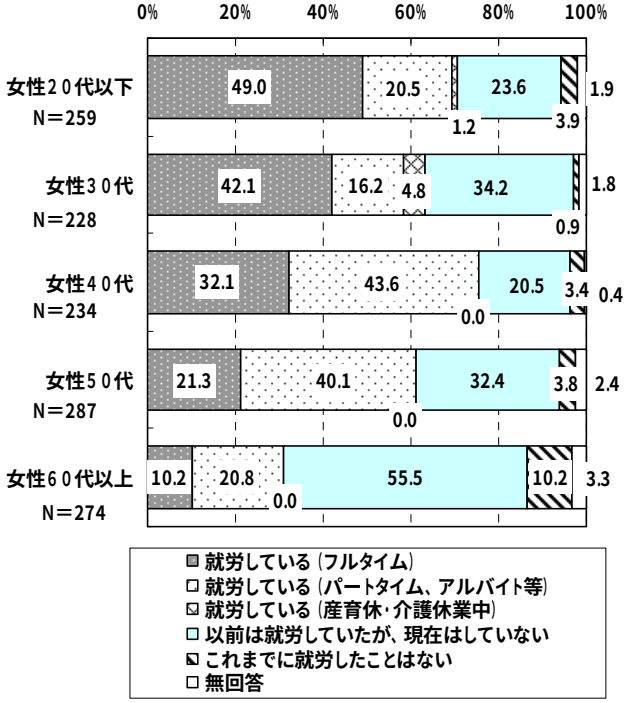
<男性の就労状況>



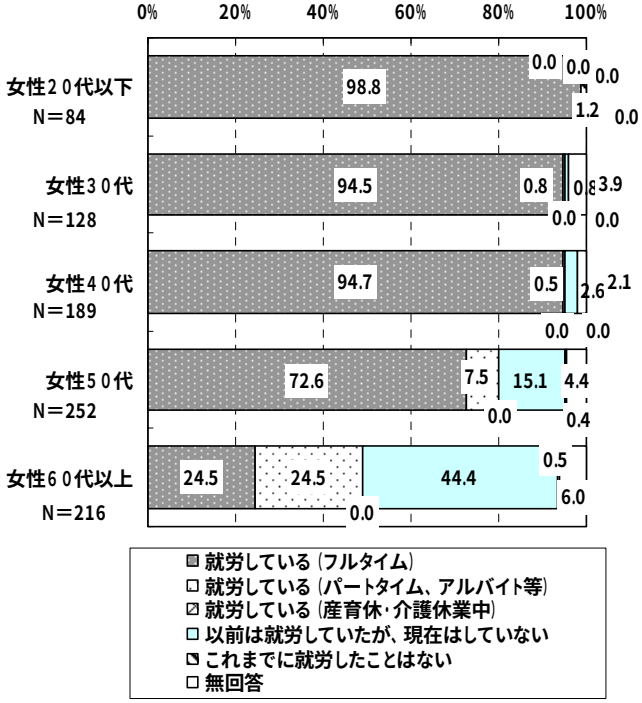
<女性配偶者の就労状況>



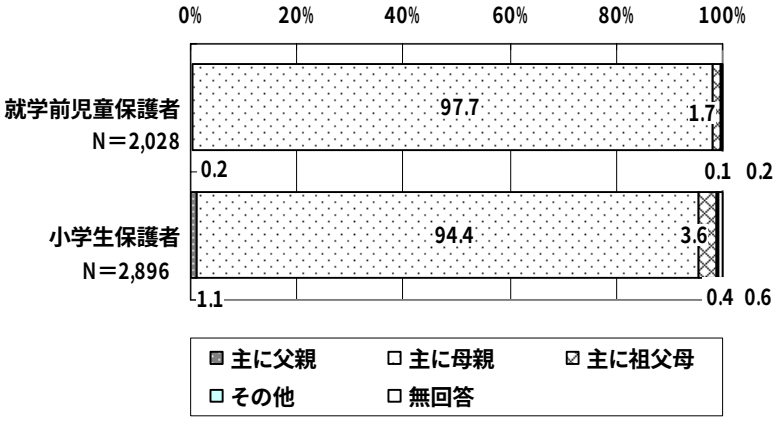
<女性の就労状況>



<男性配偶者の就労状況>



２－３　主な養育者

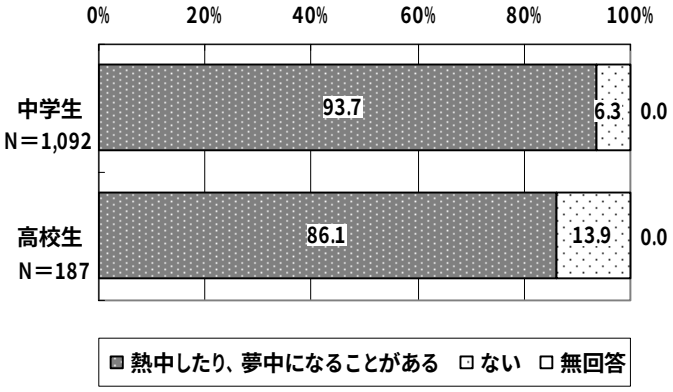


３　子どもの生活

３－１　楽しいこと、熱中すること

（１）熱中したり、夢中になったりすることの有無

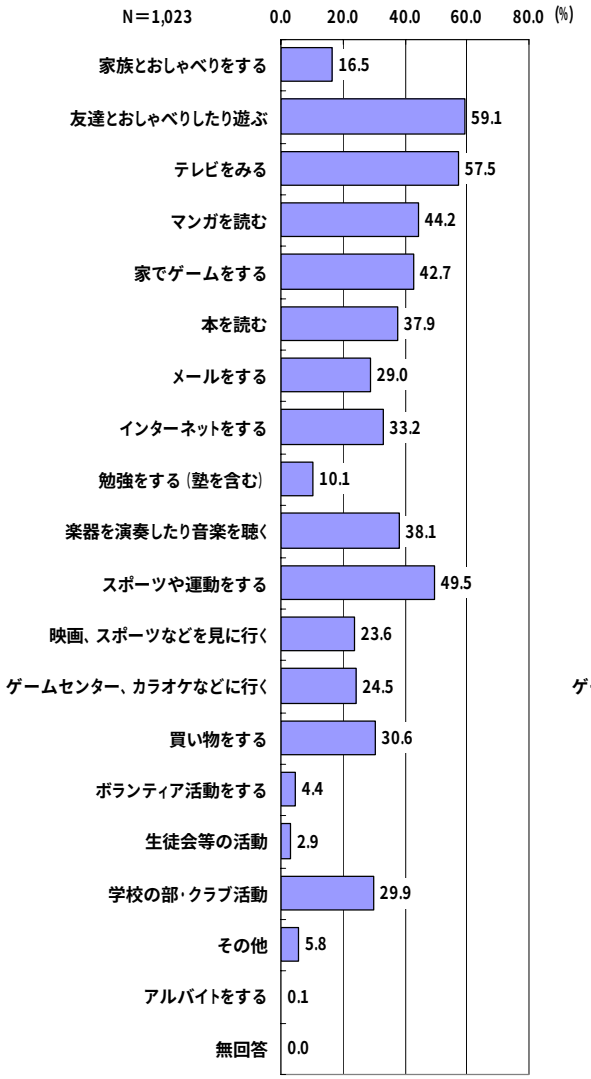
中学生では 93.7%が「熱中したり、夢中になったりすることがある」と回答しているが、高校生では 86.1%と低く、「ない」が 2 倍以上と高い。



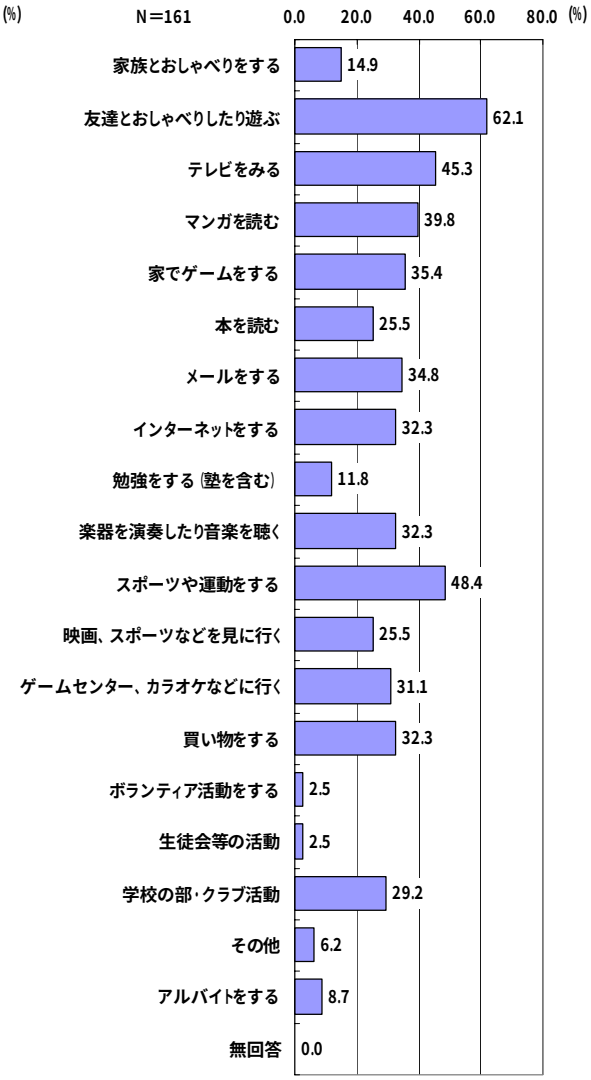
（2）【熱中したり夢中になったりすることがある人のみ回答】熱中したり、夢中になったりすることの内容

熱中したり、夢中になったりすることの内容については、中学生と高校生はほぼ同じ傾向を示しているが、高校生では「アルバイトをする」が 8.7%と高い。

【中学生】



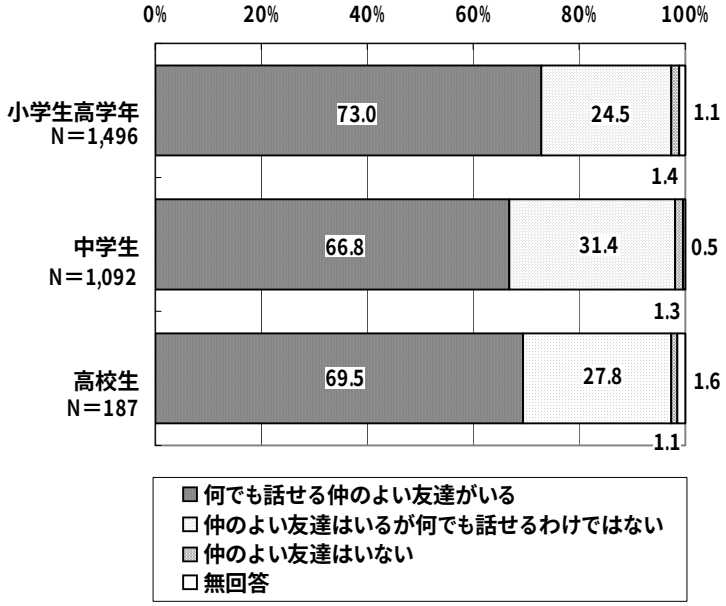
【高校生】



３－２　友達

（１）仲の良い友達の有無

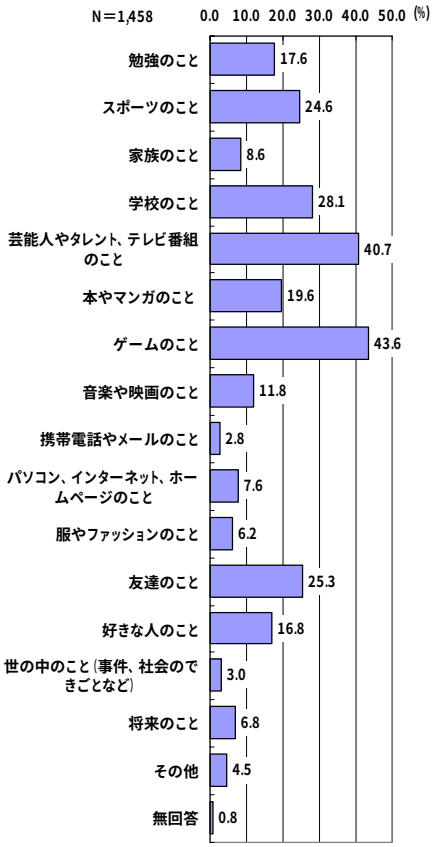
仲の良い友達の有無については、小学生高学年、中学生、高校生はほぼ同じ傾向を示している。友達がいないと回答している子どもは少数だが、長期にわたって友達との交流がない（あるいは少ない）子どもがいるのではないかが懸念される。



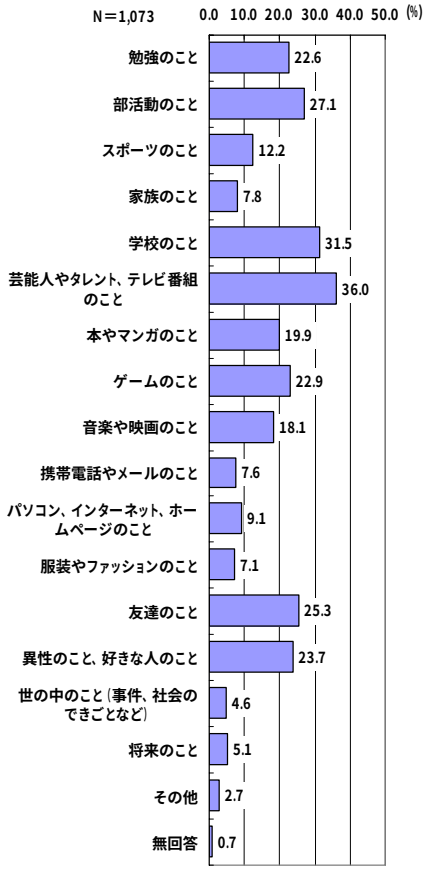
（２）【仲のよい友達がいる人のみ回答】仲の良い友達と話す内容

仲の良い友達と話す内容については、小学生高学年、中学生、高校生では若干、異なっている。小学生高学年は「ゲームのこと」と「芸能人やタレント、テレビ番組のこと」が４割以上で多い。中学生、高校生では「芸能人やタレント、テレビ番組のこと」、「学校のこと」、「勉強のこと」「部活動のこと」などさまざまな事柄を友達と話していることがわかる。

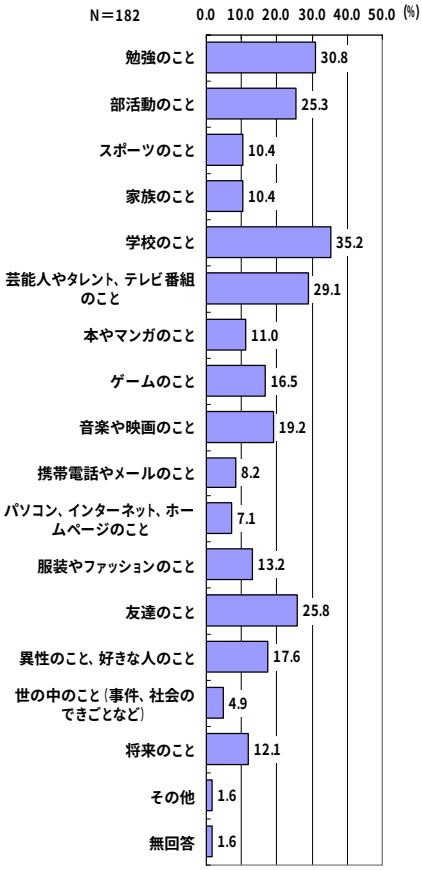
【小学生高学年】



【中学生】

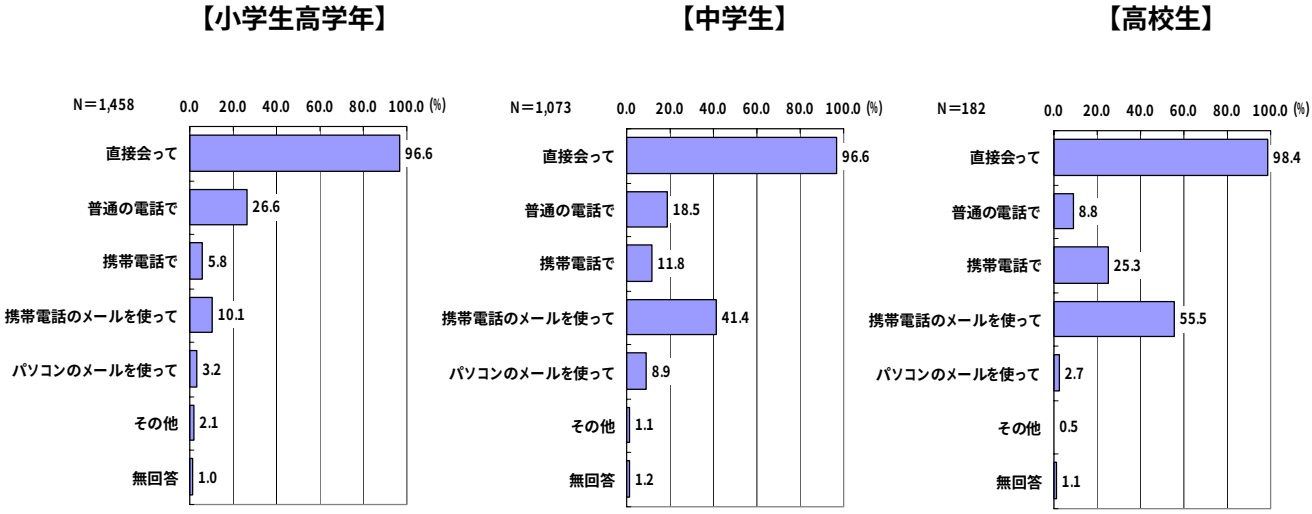


【高校生】

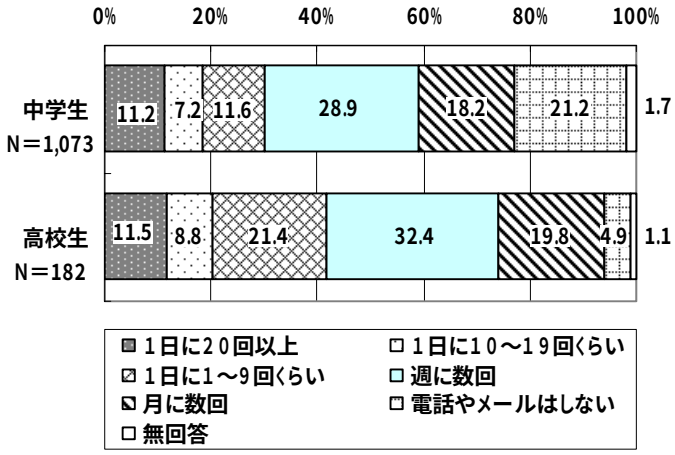


（３）【仲のよい友達がいる人のみ回答】仲の良い友達と話をする時の手段

仲の良い友達と話す手段については、小学生高学年、中学生、高校生とも「直接会って」が 95%以上で突出している。子どものコミュニケーションはフェイスツーフェイスが基本となっている。「携帯電話のメール」が小学生高学年、中学生、高校生で割合が多くなる。



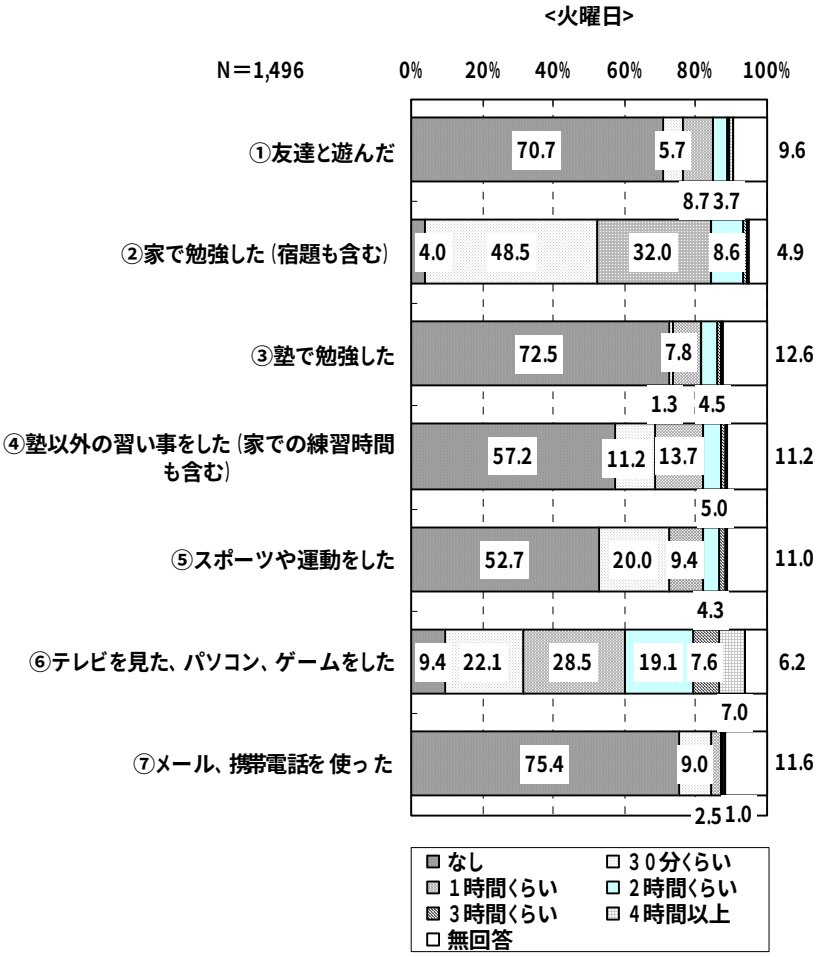
（４）仲の良い友達と電話やメールでやりとりする頻度



３－３　平日の放課後の過ごし方、日曜日の過ごし方

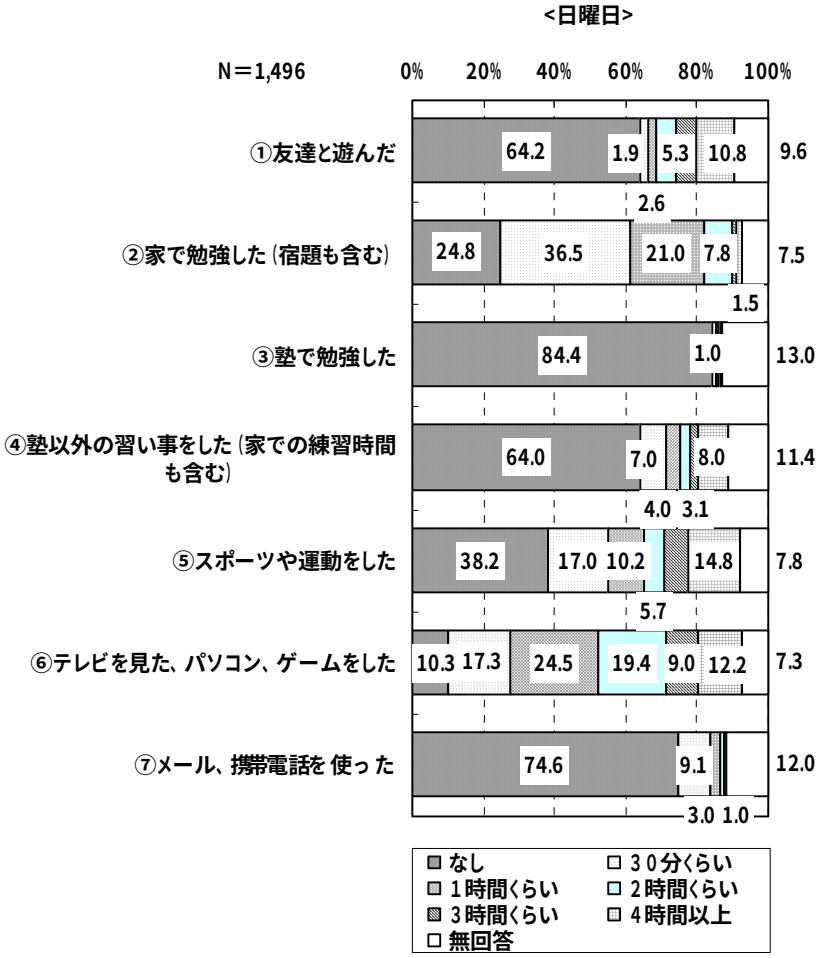
（１）平日の放課後の過ごし方

【小学生高学年】



（２）日曜日の過ごし方

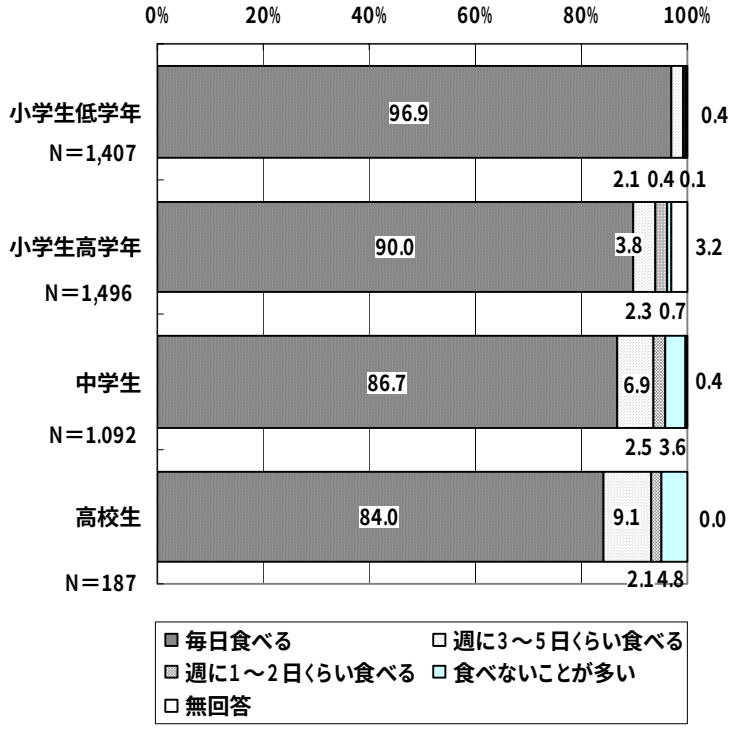
【小学生高学年】



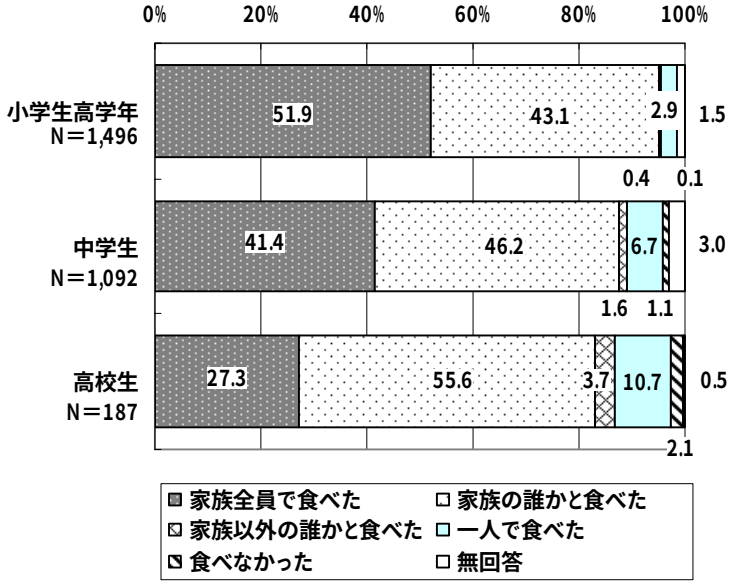
３－４　食事

（１）朝食について

朝食については、学年があがるにしたがって「毎日食べる」の割合が少なくなる。小さい頃は身についた生活習慣であっても、定着せず乱れる子どもが少しずつ増えていくことがうかがえる。

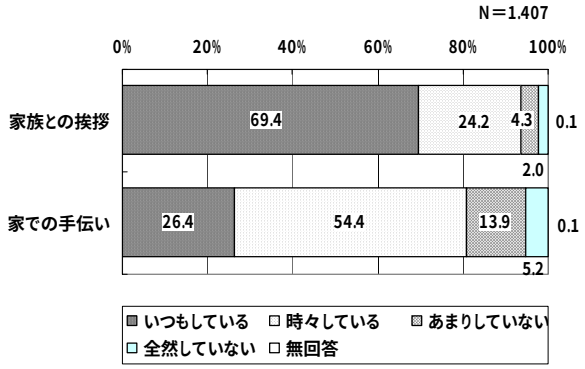


（２）火曜日の夕食について

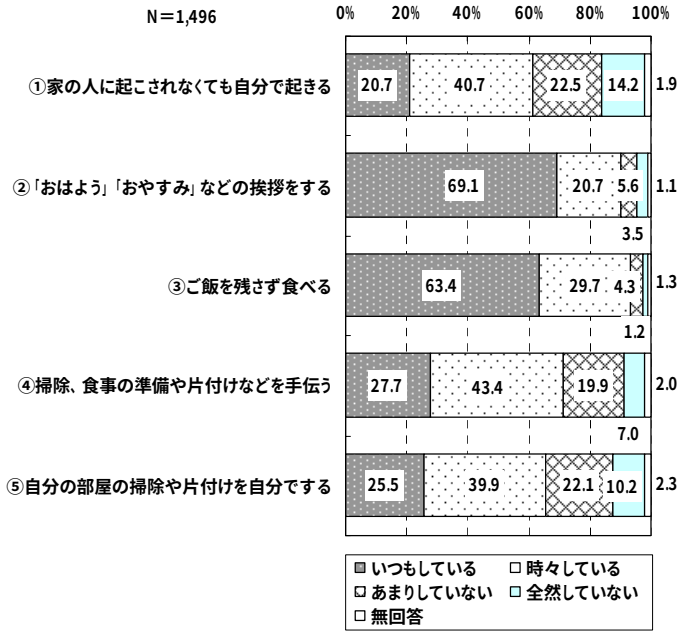


３－５　あいさつ、手伝い

【小学生低学年】

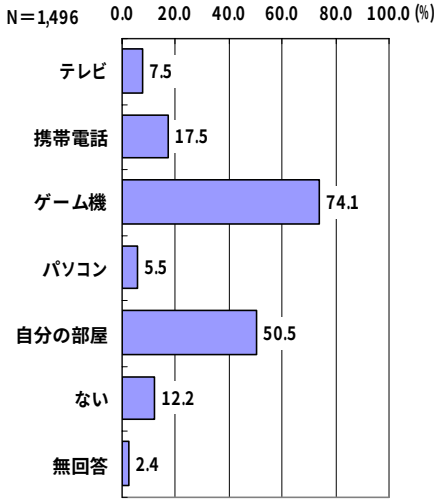


【小学生高学年】

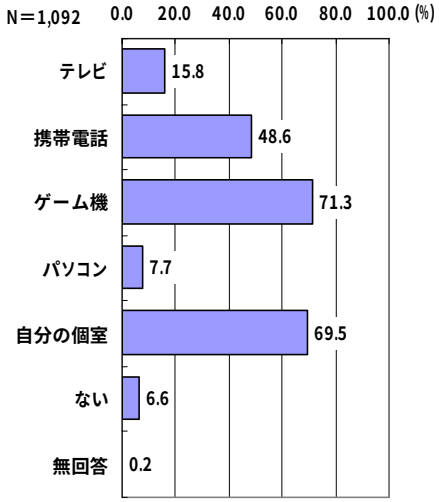


３－６　子どもが自分専用で持っているもの

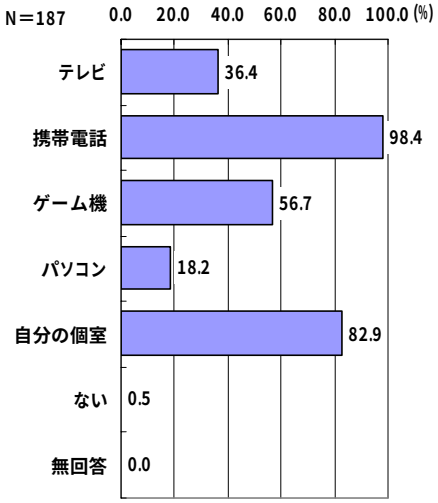
【小学生高学年】



【中学生】



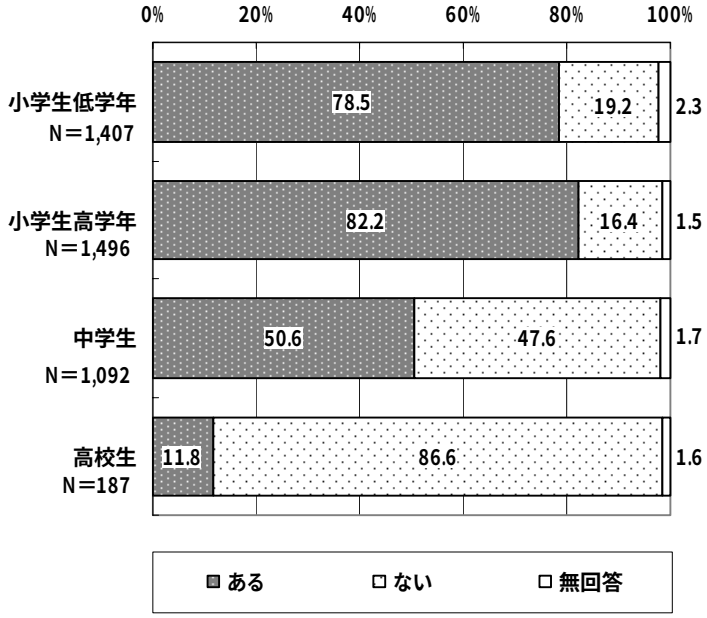
【高校生】



３－７　活動への参加

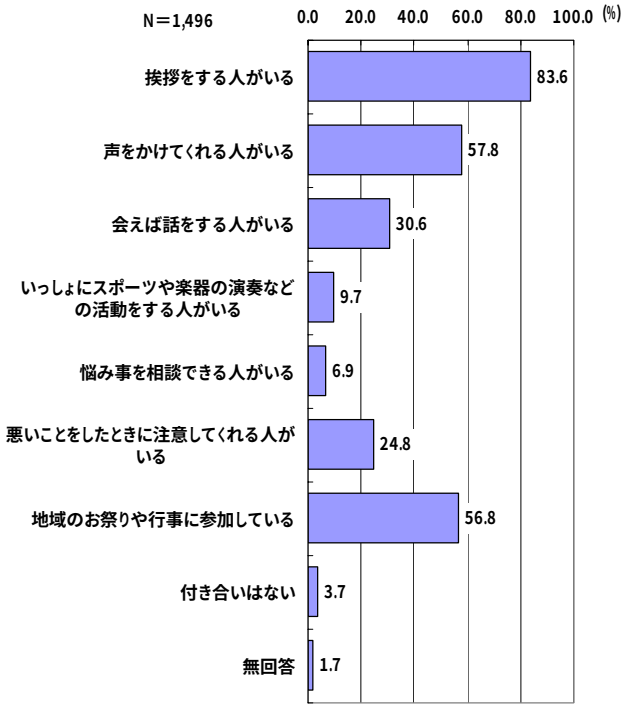
（１）地域で参加している活動の有無

地域で参加している活動の有無については、小学生は 8 割前後と高いが、中学生では約 5 割、高校生になると約 1 割に激減している。地域で高校生が参加できる機会や場が少ないことが原因の一つではないかと考えられる。

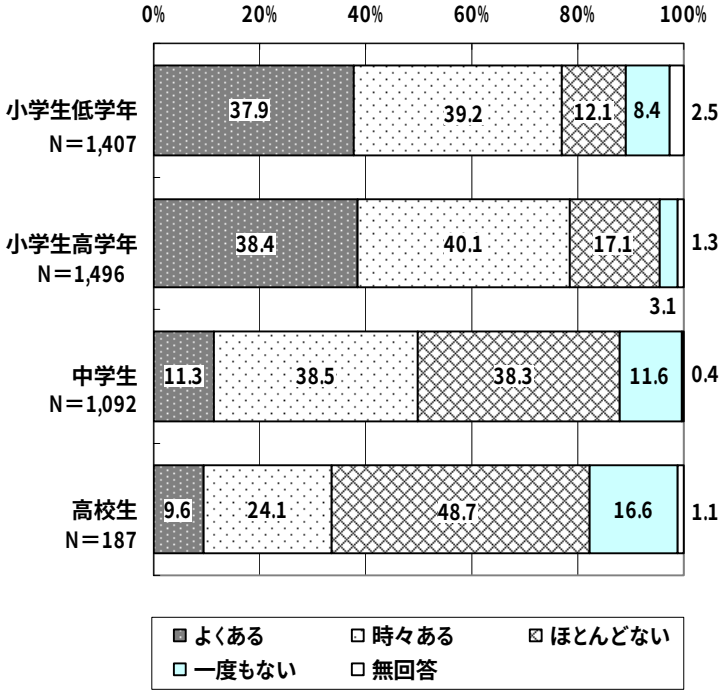


（２）近所や地域の大人との関わり

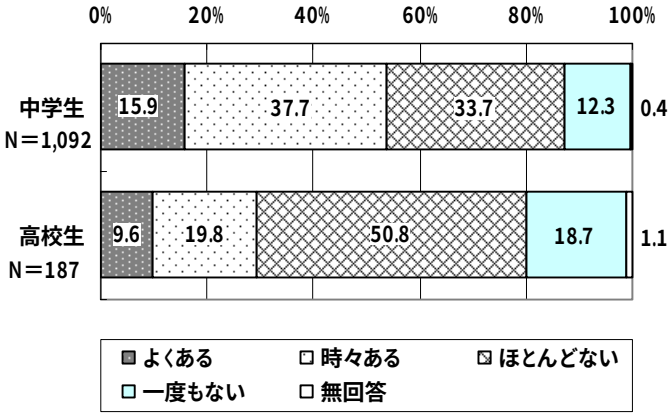
【小学生高学年】



（３）違う学年の人と遊ぶこと



（４）赤ちゃんや小さい子と遊ぶこと

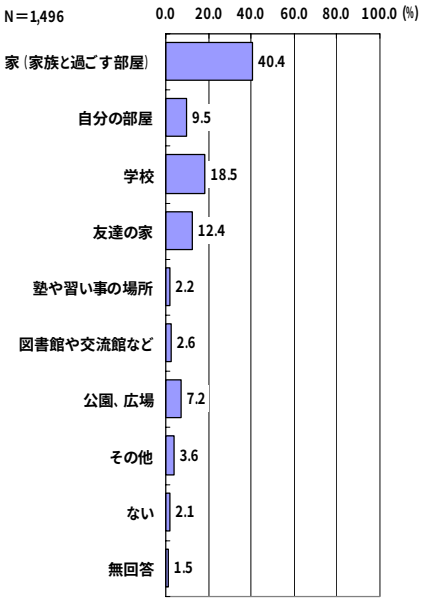


３－８　ほっとできる場所

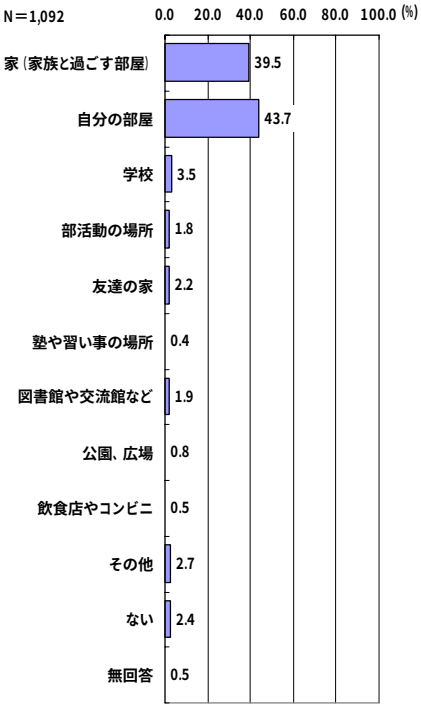
（１）ほっとできる場所

ほっとできる場所については、小学生は「家（家族と過ごす部屋）」が４割以上で最も高いが、中学生、高校生になると「自分の部屋」が最も多くなり、次いで「家（家族と過ごす部屋）」となっている。中学生、高校生は、自立期や反抗期で家族と一緒にいるとほっとする子どもとそうでない子どもにわかれるようである。

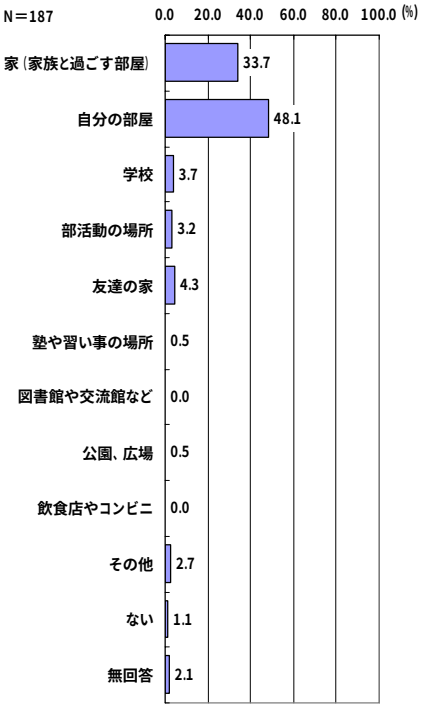
【小学生高学年】



【中学生】

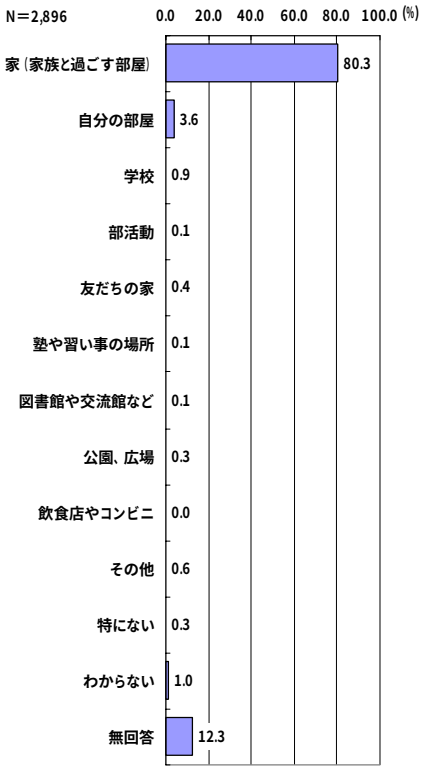


【高校生】

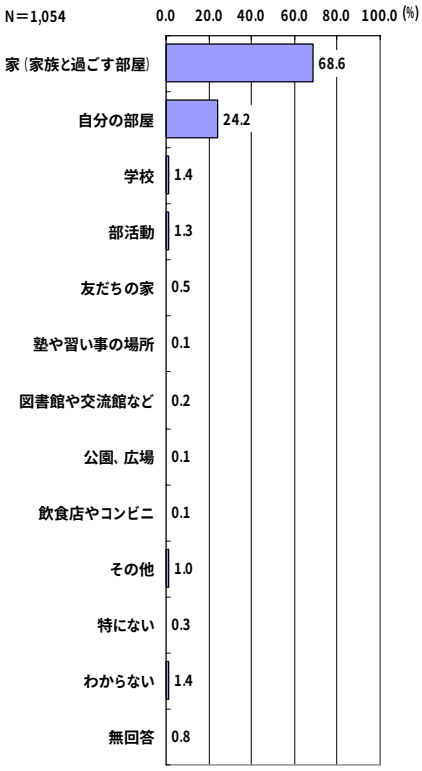


子どもがほっとできる場所については、小学生・中学生の保護者は「家（家族と過ごす部屋）」だと思っているが、前述したように中学生、高校生になると「自分の部屋」が最も多くなっていて、そのことに気付いていない親が少なくないようである。

【小学生保護者】

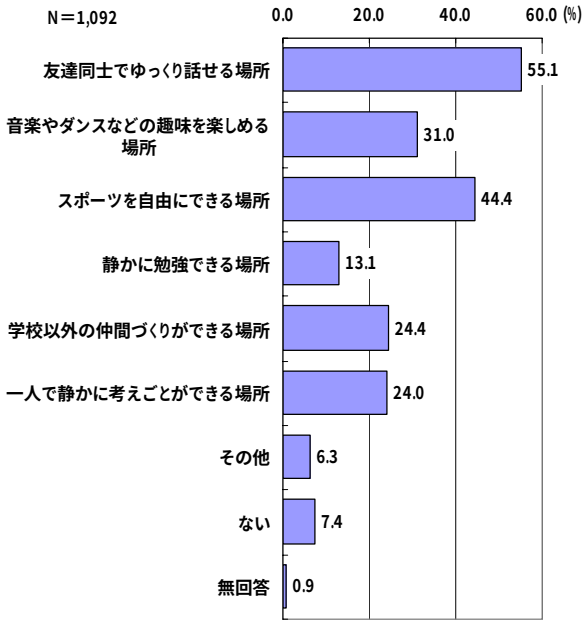


【中学生保護者】

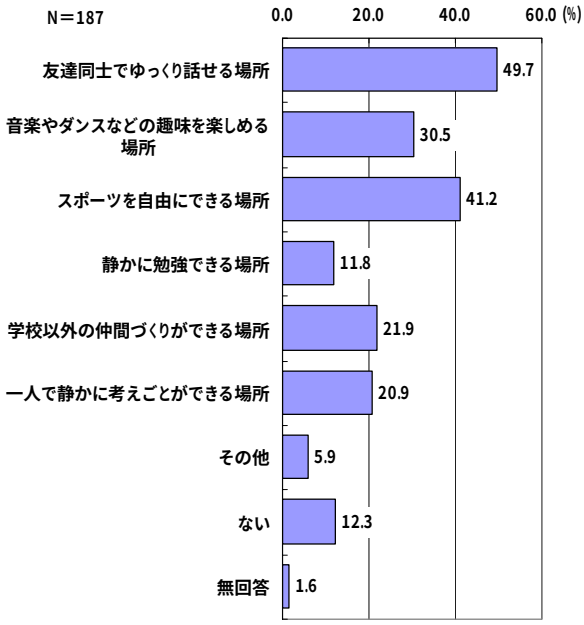


（2）あったらよいと思う場所

【中学生】



【高校生】

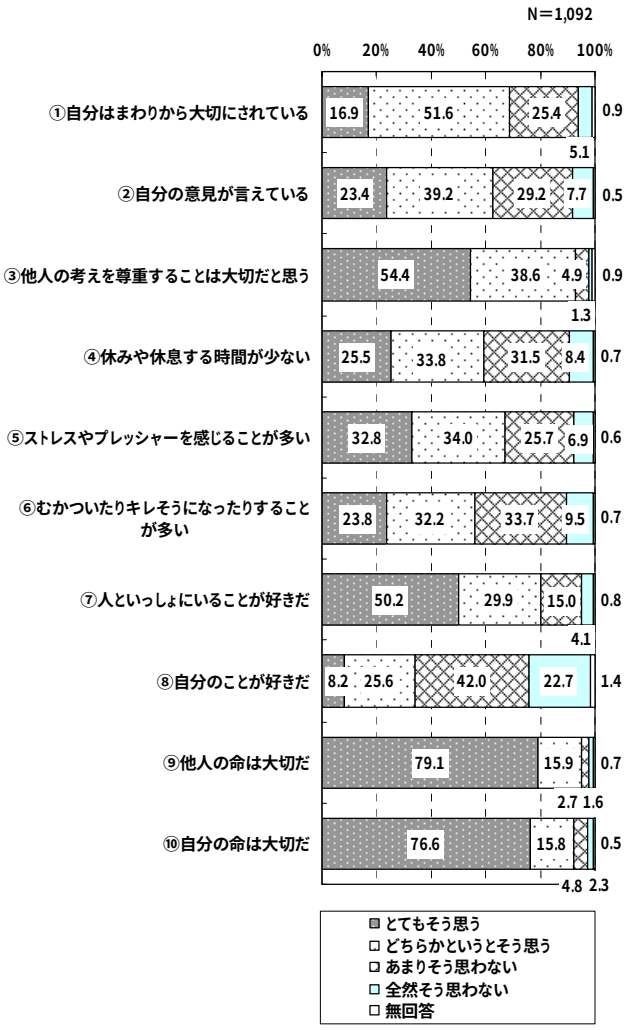


３－９　生活の実感、自己認識

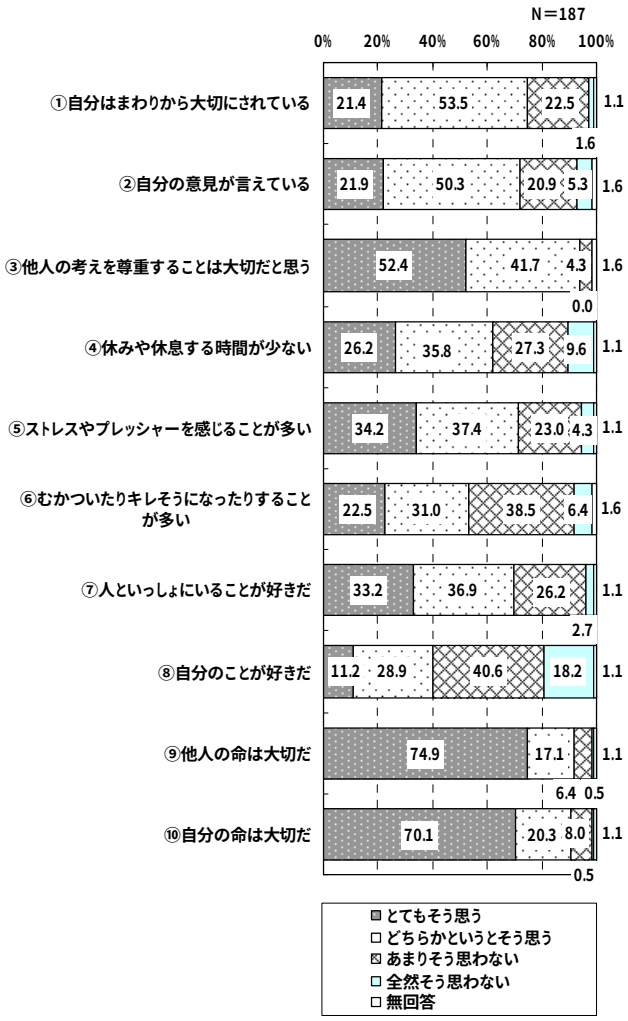
（１）普段の生活の中で感じていること

豊田市子ども条例でも重視しているのはセルフ・エスティーム（自尊感情）であるが、「自分はまわりから大切にされている」と思っている中学生・高校生は７割、「自分の意見が言えている」のは 6～7 割にとどまっている。

【中学生】

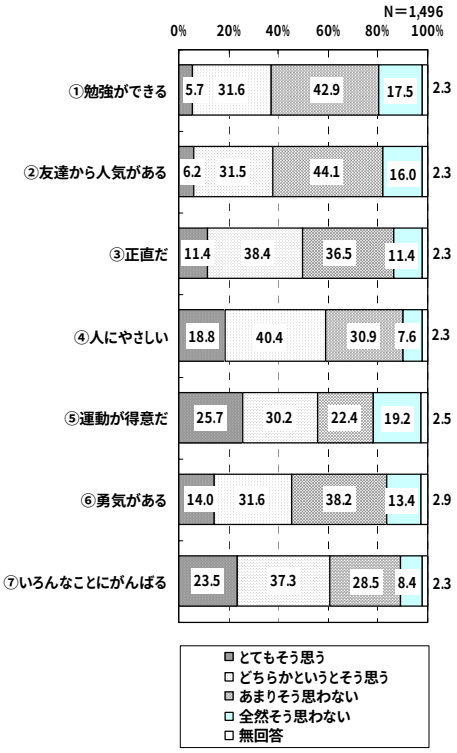


【高校生】

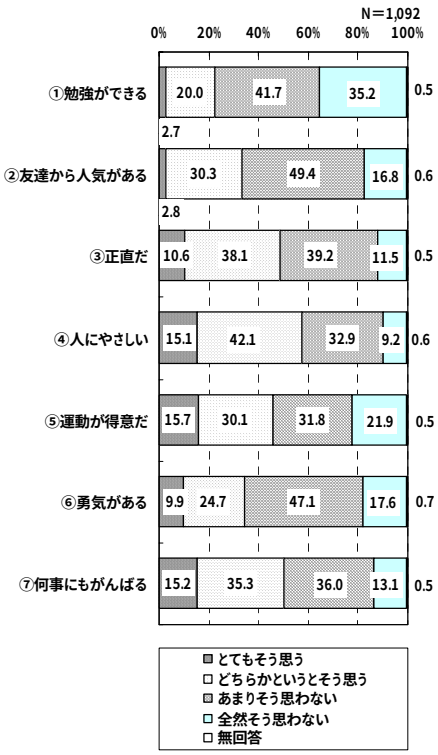


（２）自分のことをどのように思っているか

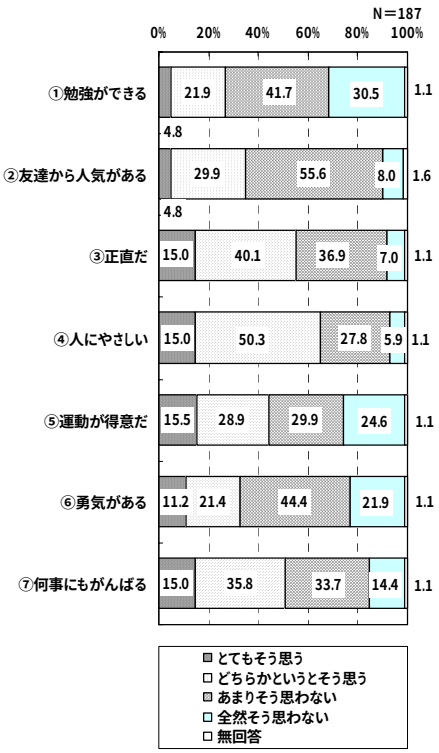
【小学生高学年】



【中学生】



【高校生】



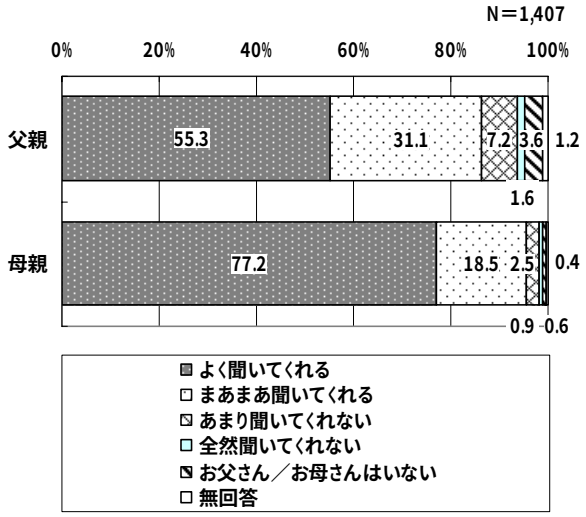
4　子ども条例にかかわること

4－1　親との関係

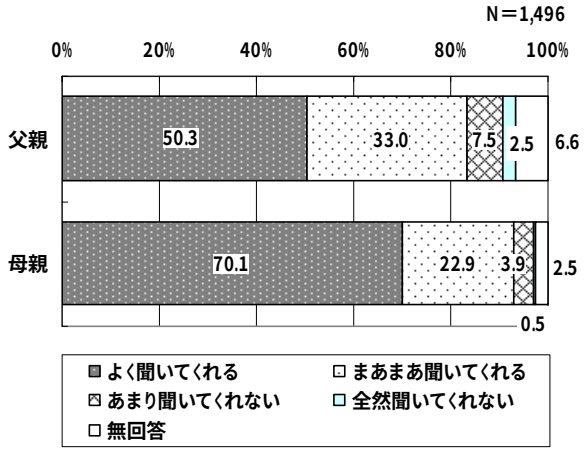
（1）お父さん、お母さんとの関係について

お母さんは話を「よく聞いてくれる」（小学生）、お母さんと話す時間は「十分だと思う」（中高生）という割合は、子どもの年齢層が上がるにつれて減少する傾向にあるが、それでも 6～8 割と過半数を占めた。これに対し、お父さんは話を「よく聞いてくれる」、お父さんと話す時間は「十分だと思う」という割合は、小学生では半数強、中高生では 4 割前後にとどまった。特に中高生が父親に対して、対話が不十分だと感じているといえる。

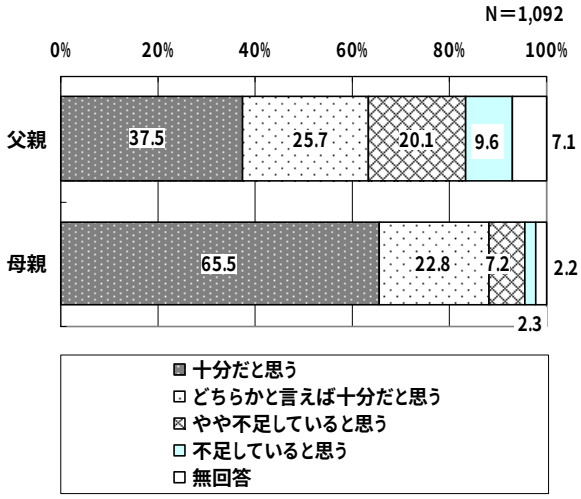
【小学生低学年】



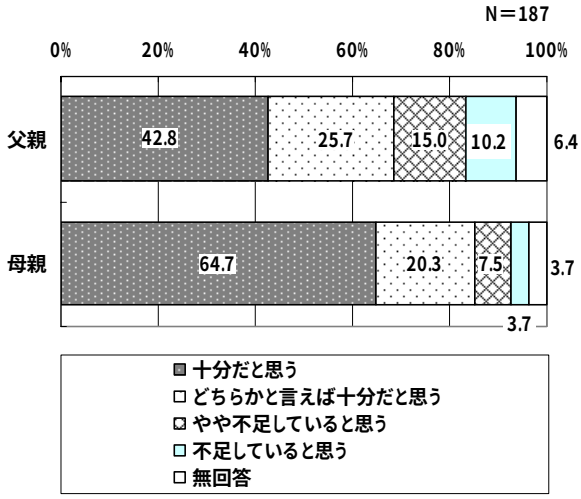
【小学生高学年】



【中学生】



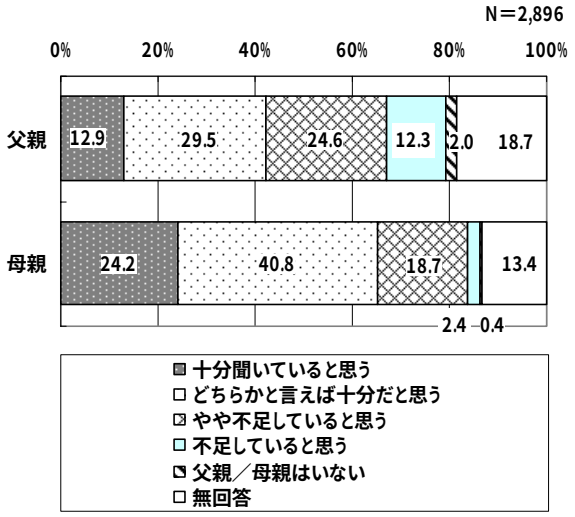
【高校生】



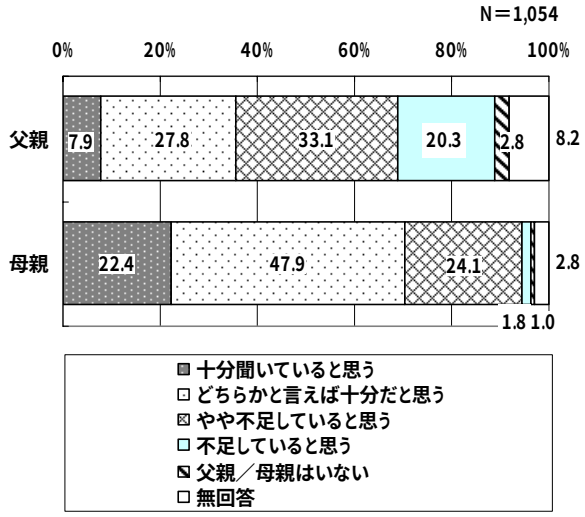
（2）子どもの話や気持ちについて

子どもとの対話を保護者側からみると、子どもの話や気持ちを「十分聞いていると思う」という回答は、小学生母親で 24.2%、同父親で 12.9%、中学生母親で 22.4%、同父親で 7.9%にとどまる。「どちらかと言えば十分だと思う」を加えると、母親は 6～7 割に達するが、父親は半数を超えない。保護者は子どもとの対話について、子ども側の認識以上に不十分であると自覚していることがうかがえる。

【小学生保護者】



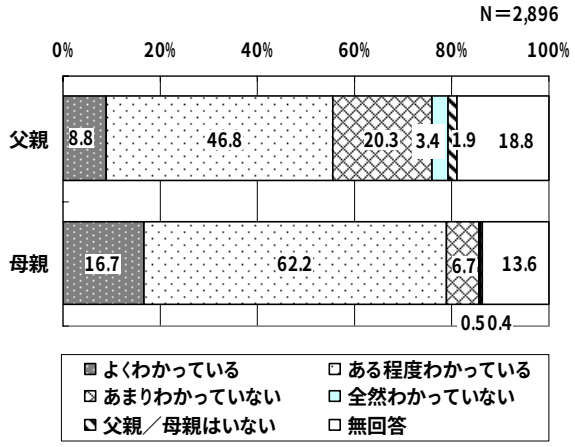
【中学生保護者】



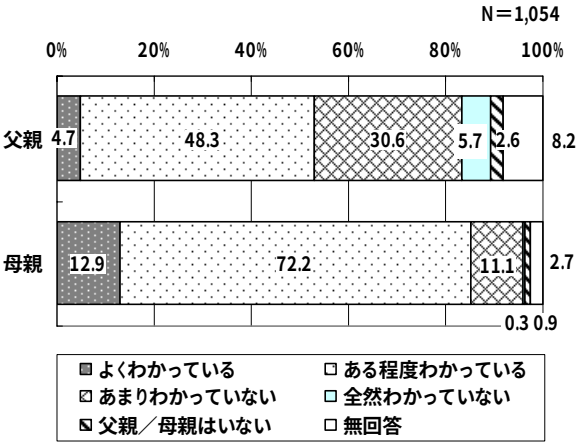
（3）子どもの気持ちや考えの理解

子どもの気持ちや考えを「よくわかっている」という回答は、小学生母親で 16.7%、同父親で 8.8%、中学生母親で 12.9%、同父親で 4.7%にとどまる。ただ、「ある程度わかっている」という回答は多く、それを加えると母親は 8 割前後、父親も 5 割強に達する。子どもの気持ちや考えを「よくわかっている」とまではいえないが、「ある程度わかっている」という自信はある、というのが一般的な自己認識であるといえる。

【小学生保護者】



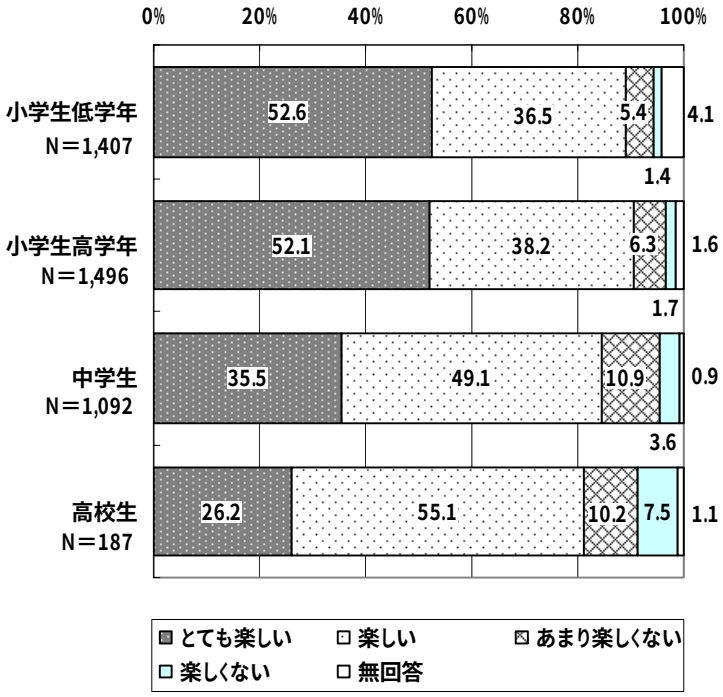
【中学生保護者】



４－２　学校で楽しいこと、嫌なこと

（１）学校生活は楽しいか

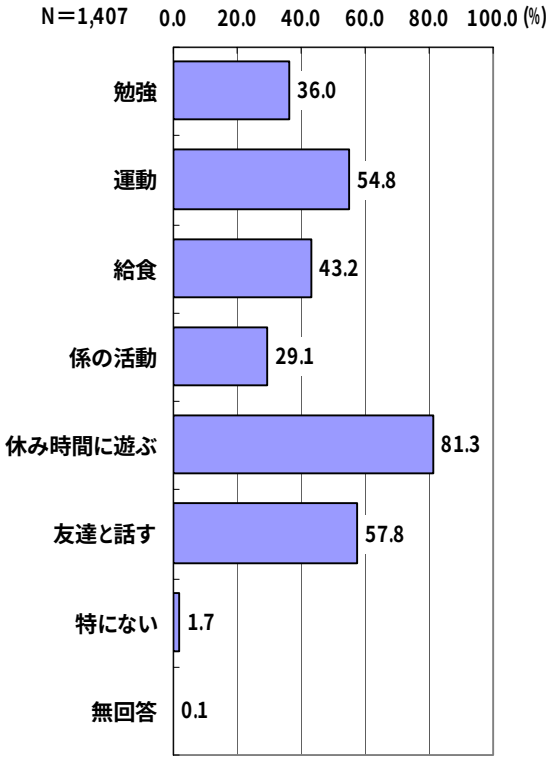
学校が「とても楽しい」「楽しい」という回答は、小学生低学年から高校生まで一貫して 8～9 割ある。ただ、「とても楽しい」という回答に限ってみると、小学生では半数を超えているが、中学生で 35.5%、高校生で 26.2%と急減している。一方で、「あまり楽しくない」「楽しくない」が中高生では 1～2 割あり、特に中高生は学校に対する不満を一定程度抱えているといえる。



（2）学校で楽しいこと

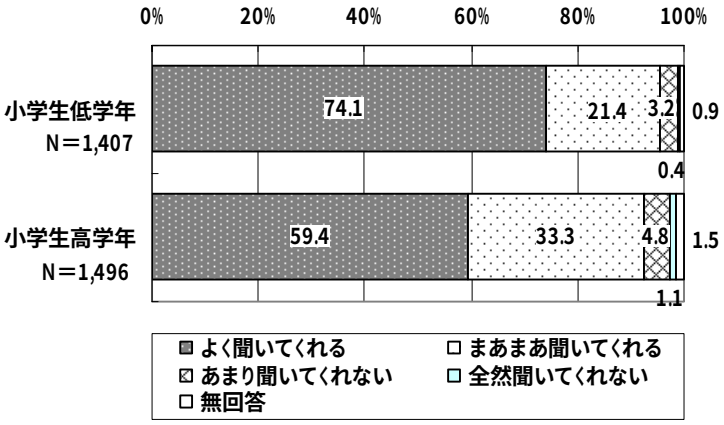
小学生低学年で、学校で楽しいことは「特にない」という子どもは 1.7%とわずかであり、休み時間を筆頭に学校生活の様々な活動に楽しく積極的に参加している様子がうかがえる。

【小学生低学年】



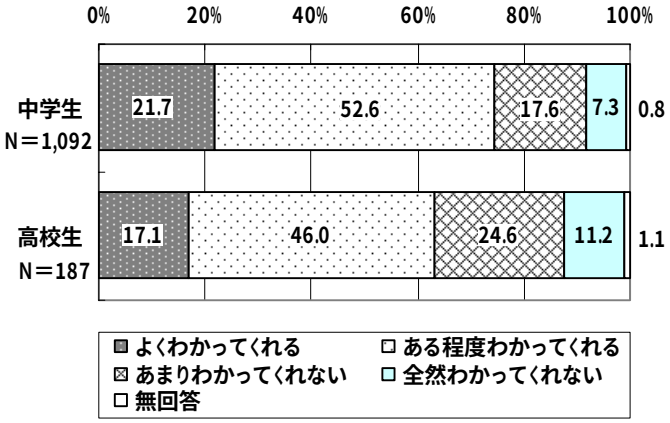
（3）学校の先生との会話について

小学生の過半数は、先生が話を「よく聞いてくれる」と感じている。



（4）学校の先生の理解について

しかし中高生になると、先生が気持ちや考えを「よくわかってくれている」と感じている子どもは 2 割程度で、「あまりわかってくれない」「全然わかってくれない」とする中学生は 24.9%、高校生は 35.8%に上る。中高生は、学校の先生の理解について一定の不満を抱いているといえる。

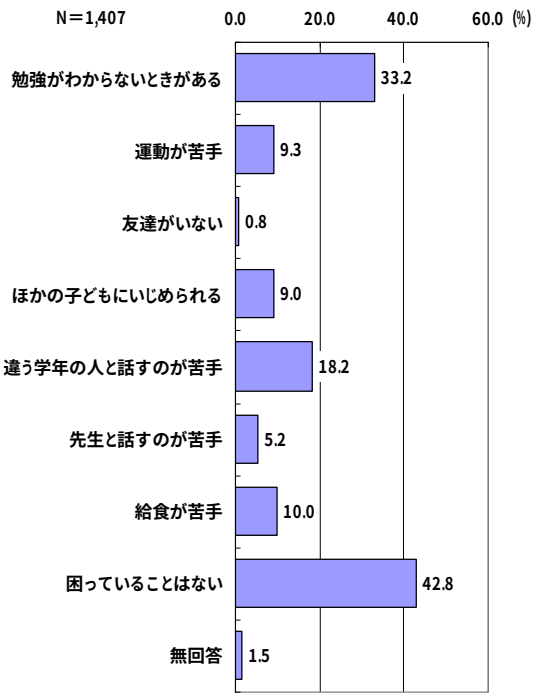


（5）学校で困っていること

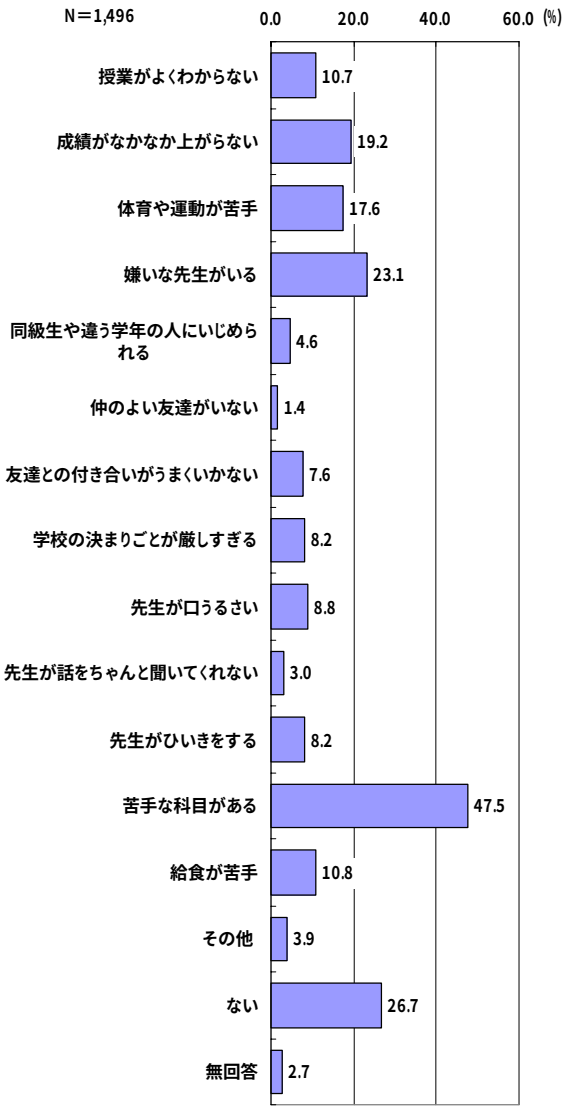
いずれの年齢層でも、勉強・授業、科目・教科、成績といった学業関係の「困っていること」が最も多く挙げられている。さらに小学生高学年以上になると、「嫌いな先生がいる」「先生が口うるさい」「先生がひいきをする」といった先生関係の「困っていること」が目立つようになり、中高生では「学校の規則が厳しすぎる」も一定割合で挙げられている。

「困っていることはない」という回答は、小学生低学年では 42.8%に上るが、それでも半数には達しないともいえ、小学生高学年では 26.7%、中高生では 2 割未満となる。特に中学生では 12.1%しかおらず、中学生のほとんどが学校で何かしらの困難に直面していることが分かる。

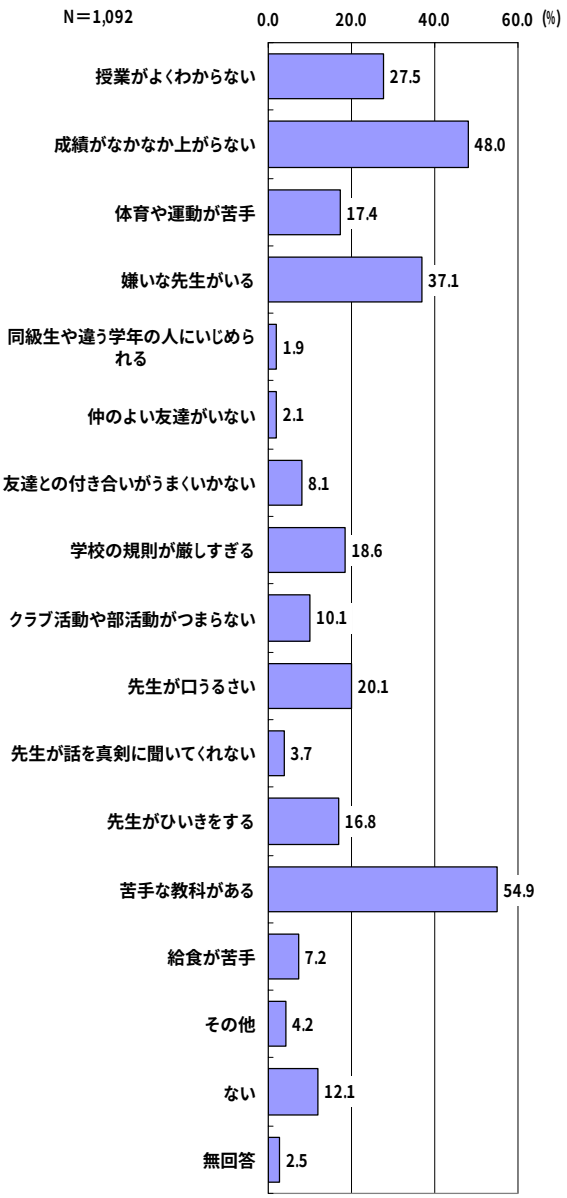
【小学生低学年】



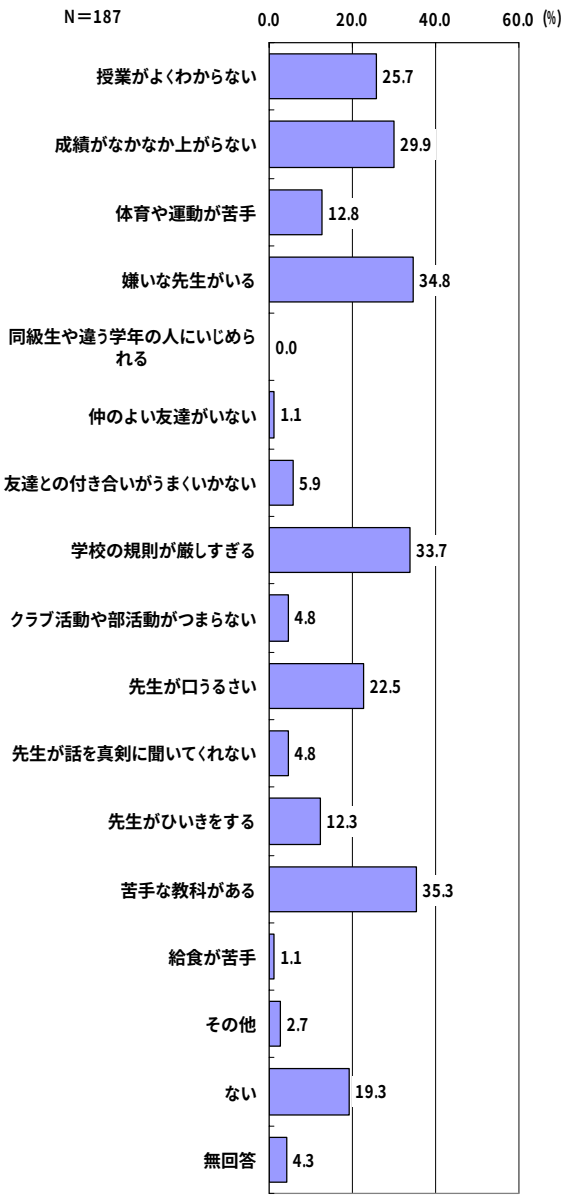
【小学生高学年】



【中学生】


N＝1,092
0.0
20.0
40.0
60.0
(%)
授業がよくわからない 27.5
成績がなかなか上がらない 48.0
体育や運動が苦手 17.4
嫌いな先生がいる 37.1
同級生や違う学年の人にいじめられる 1.9
仲のよい友達がいない 2.1
友達との付き合いがうまくいかない 8.1
学校の規則が厳しすぎる 18.6
クラブ活動や部活動がつまらない 10.1
先生が口うるさい 20.1
先生が話を真剣に聞いてくれない 3.7
先生がひいきをする 16.8
苦手な教科がある 54.9
給食が苦手 7.2
その他 4.2
ない 12.1
無回答 2.5

【高校生】

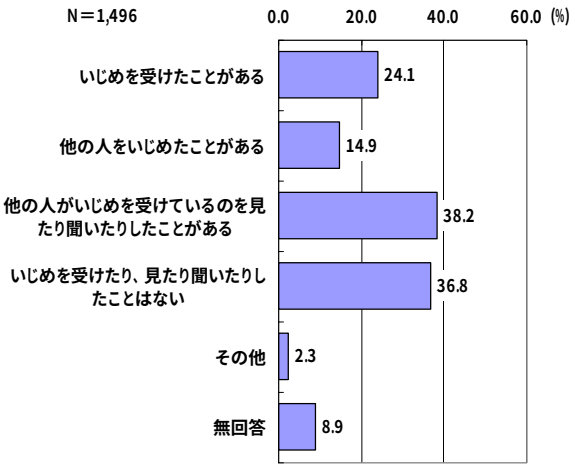

N＝187
0.0
20.0
40.0
60.0
(%)
授業がよくわからない 25.7
成績がなかなか上がらない 29.9
体育や運動が苦手 12.8
嫌いな先生がいる 34.8
同級生や違う学年の人にいじめられる 0.0
仲のよい友達がいない 1.1
友達との付き合いがうまくいかない 5.9
学校の規則が厳しすぎる 33.7
クラブ活動や部活動がつまらない 4.8
先生が口うるさい 22.5
先生が話を真剣に聞いてくれない 4.8
先生がひいきをする 12.3
苦手な教科がある 35.3
給食が苦手 1.1
その他 2.7
ない 19.3
無回答 4.3

４－３　いじめ、不登校

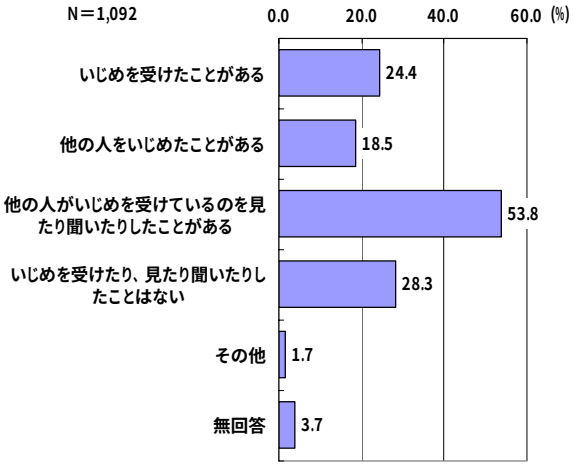
（１）自分がいじめを受けたり、いじめを見たり聞いたりしたこと

「いじめを受けたことがある」という回答は、小学生高学年から高校生まで通じて４分の１程度あった。また、「他の人がいじめを受けているのを見たり聞いたりしたことがある」は、小学生高学年で４割近く、中高生では半数超に上った。一方、「いじめを受けたり、見たり聞いたりしたことはない」は、小学生高学年で 36.8%、中学生で 28.3%、高校生で 27.8%にとどまった。すなわち、小学生高学年から中高生までの間では、周囲にいじめがある子どもの方が多数派であるということになる。

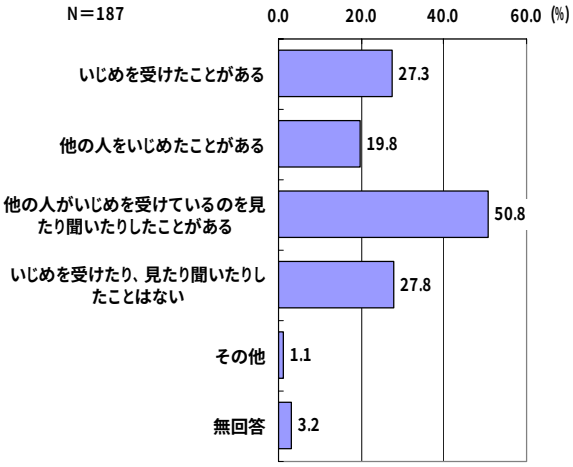
【小学生高学年】



【中学生】



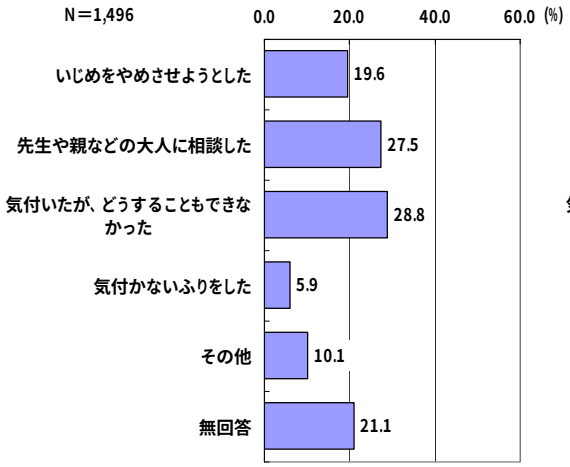
【高校生】



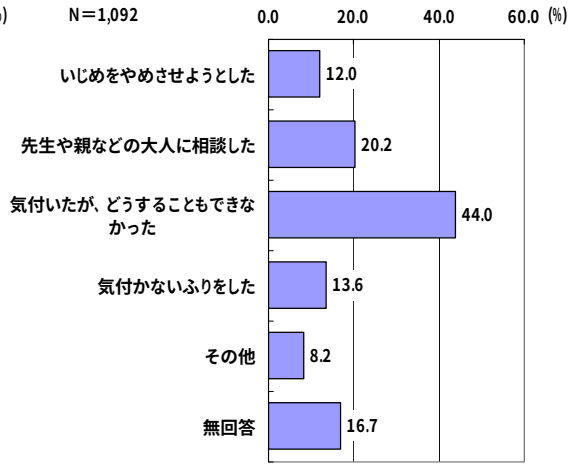
（2）自分がいじめを受けたり、いじめを見たり聞いたりした時の対応

いじめへの対応として「気づいたが、どうすることもできなかった」という回答は、各年齢層において最多であり、特に中高生では 4 割前後に上った。一方、「先生や親などの大人に相談した」は、小学生高学年で 3 割弱、中高生で 2 割強にとどまり、中高生では「気づいたが、どうすることもできなかった」の半分ほどの回答しかなかった。いじめが身近にあっても、大人に相談することもなく、どうすることもできずにいるというのが、子どもの一般的な姿である。

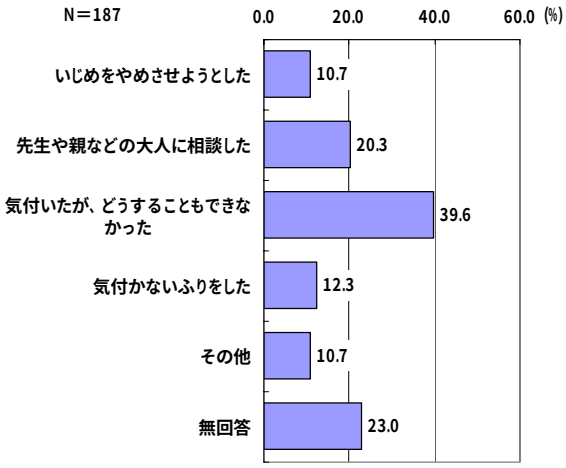
【小学生高学年】



【中学生】



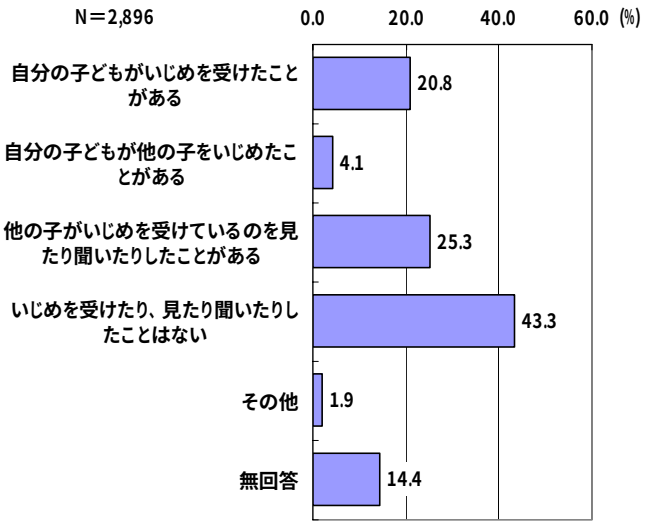
【高校生】



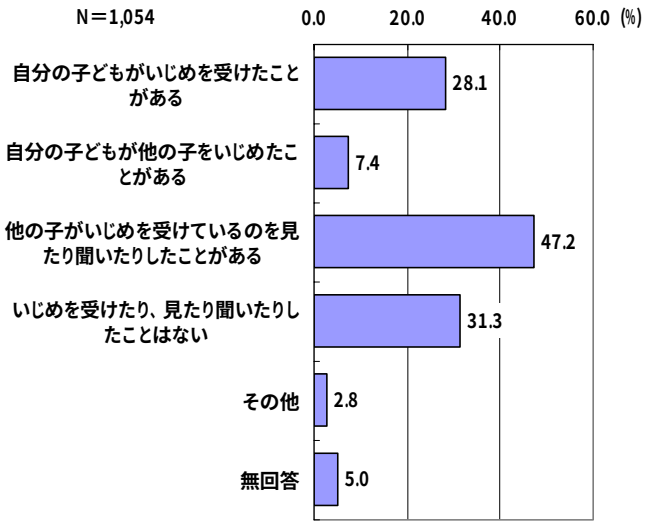
（３）子どもがいじめを受けたり、いじめを見たり聞いたりしたこと

保護者側の認識において、自分の子どもが「いじめを受けたり、見たり聞いたりしたことはない」という割合は、小学生保護者で 43.3%、中学生保護者で 31.3%であり、子どもたち自身の認識（小学生高学年で 36.8%、中学生で 28.3%）より高率であった。すなわち、子どものたちの間に存在するいじめの量を、保護者は十分に認識できていないといえる。

【小学生保護者】



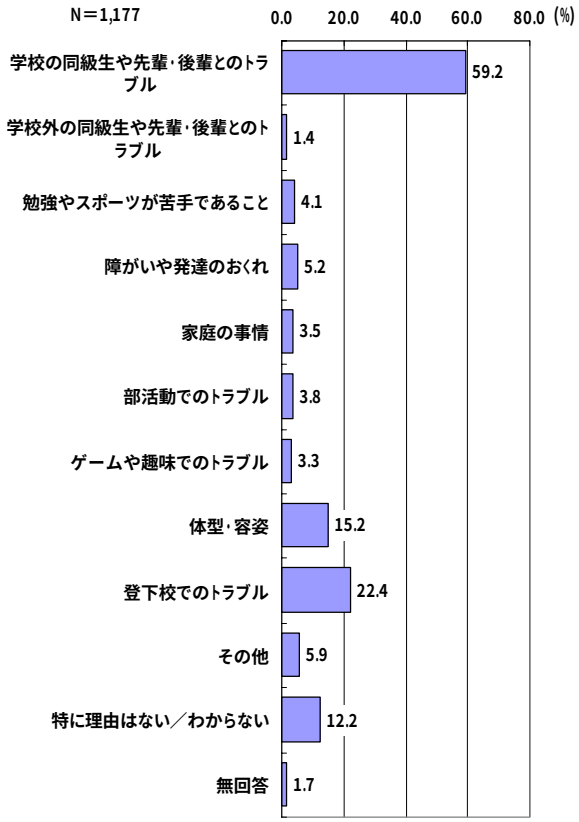
【中学生保護者】



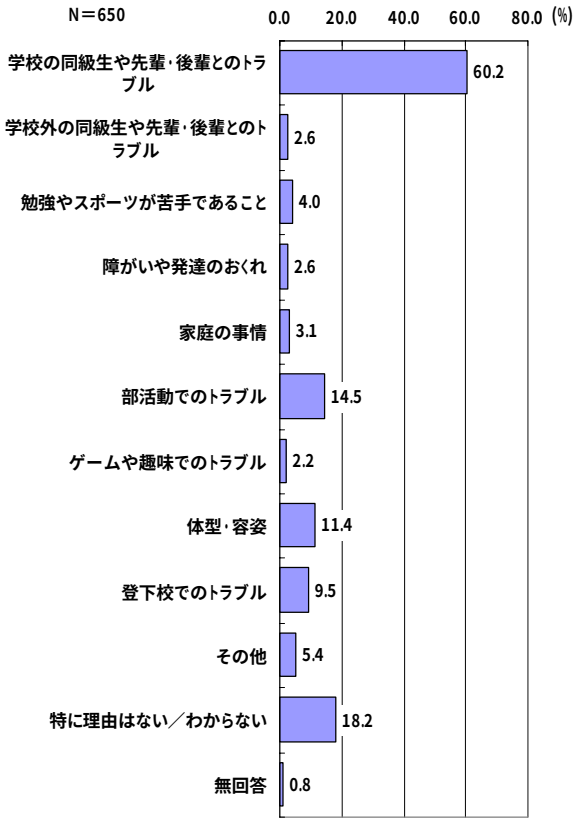
（４）【子どもがいじめを受けたり、いじめを見たり聞いたりしたことがある人のみ回答】いじめの理由

保護者が認識するいじめの理由は、「学校の同級生や先輩・後輩とのトラブル」が突出して多かった。また、「特に理由はない／わからない」も、中学生保護者では２割近くに上った。

【小学生保護者】



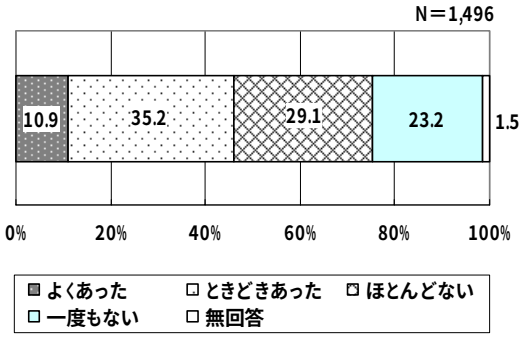
【中学生保護者】

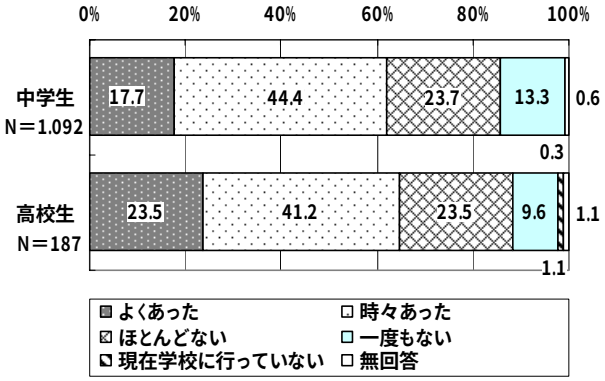


（5）学校に行きたくないと思ったこと

学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」という子どもの割合は、小学生高学年で 10.9%、中学生で 17.7%、高校生で 23.5%と、年齢層が上がるにつれて増えていた。「時々あった」も加えると中高生では 6 割超に上り、大半の子どもが学校に行きたくないと思ったことがある、という実態が浮かび上がる。

【小学生高学年】

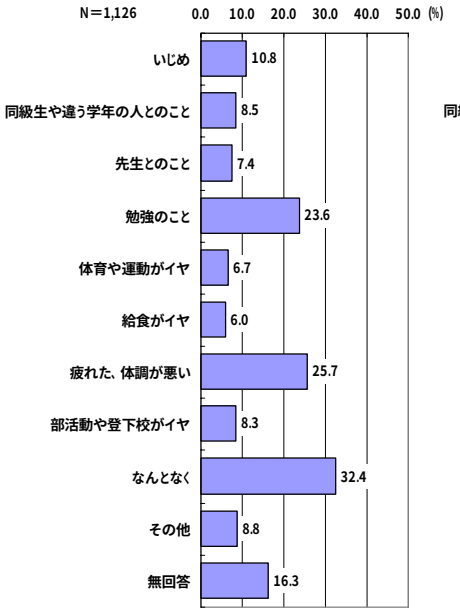




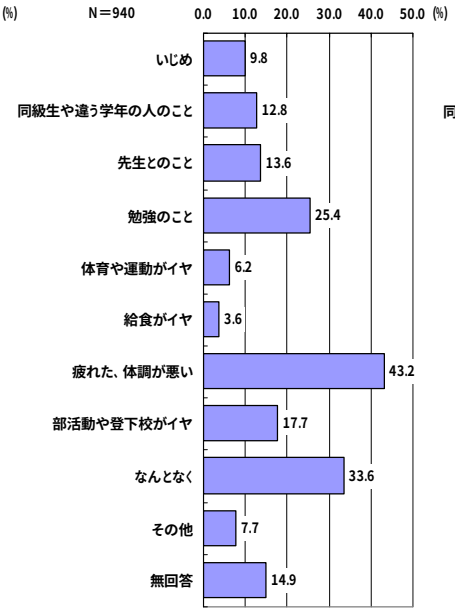
（6）【学校に行きたくないと思ったことがある人のみ回答】行きたくないと思った理由

学校に行きたくないと思った理由としては、年齢層を問わず「疲れた、体調が悪い」と「なんとなく」が多いことが目立つ。子どもの間に、明確な理由は特定できない疲労感・倦怠感が広がっているようであり、学校が子どもにとってストレスを与える場となってしまっていることがうかがわれる。

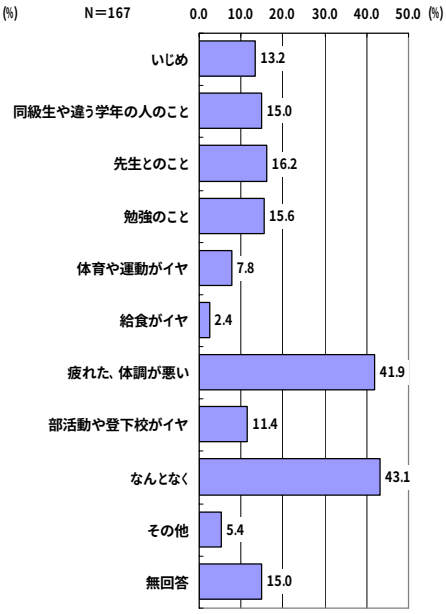
【小学生高学年】



【中学生】

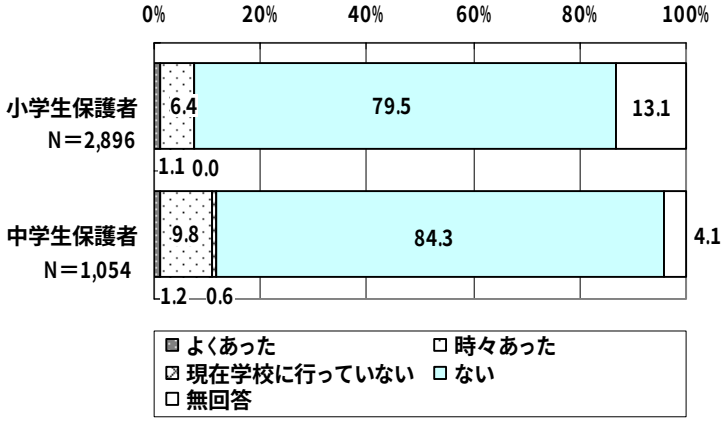


【高校生】



（7）子どもが学校に行かなくなったこと

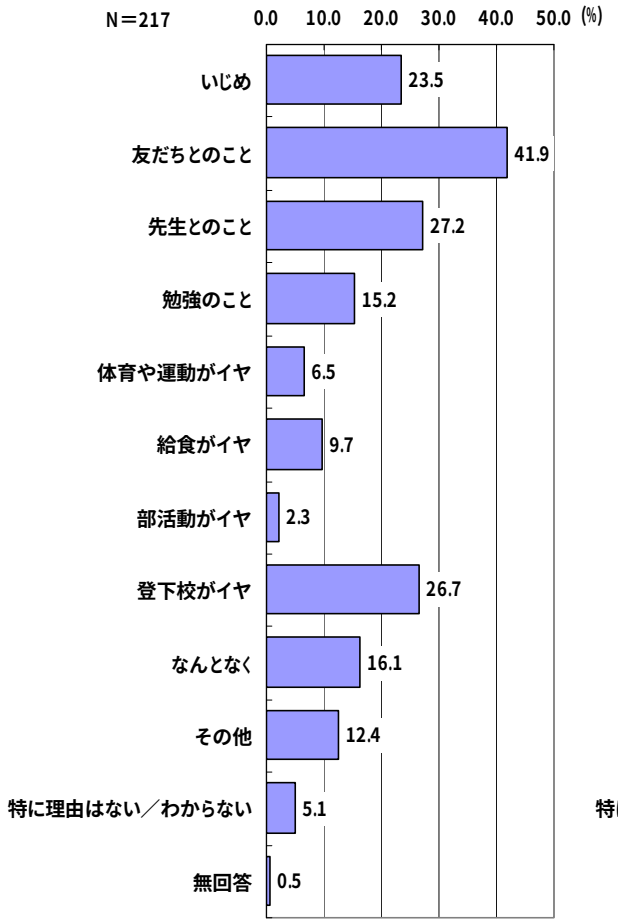
実際に子どもが学校に行かなくなったことの有無を保護者に訊くと、「よくあった」と「時々あった」の合計割合は、小学生保護者で１割弱、中学生保護者で１割強であった。



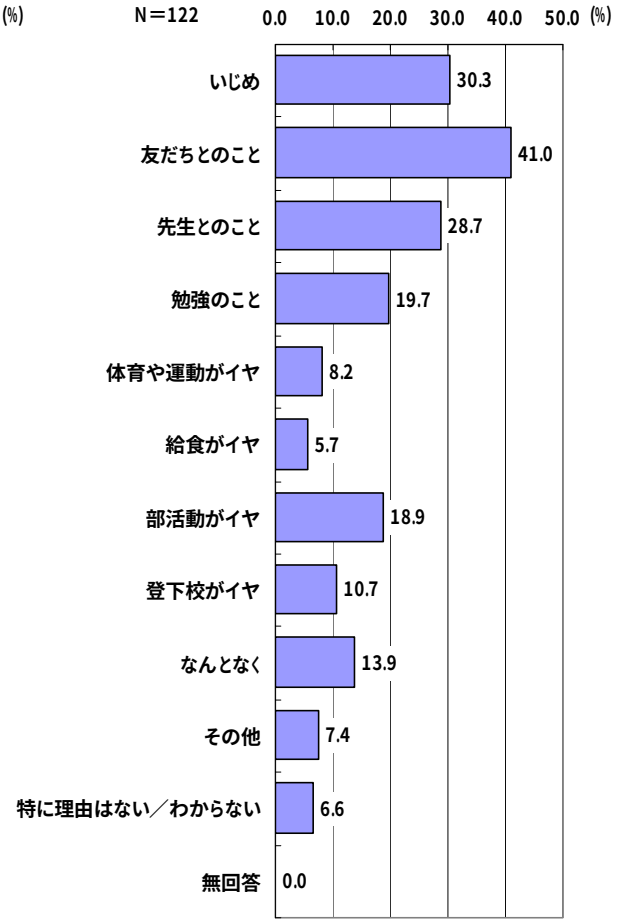
（８）【子どもが学校に行かなくなった人のみ回答】学校に行かなくなった理由

保護者が認識する、子どもが学校に行かなくなった理由としては、小学生・中学生に共通して「友だちとのこと」「いじめ」「先生とのこと」が多く、加えて小学生では「登下校がイヤ」が多い。また、「なんとなく」が 1～2 割、「特に理由はない／わからない」も数%あり、親が明確な理由を認識できない不登校が一定程度存在することがうかがわれる。

【小学生保護者】



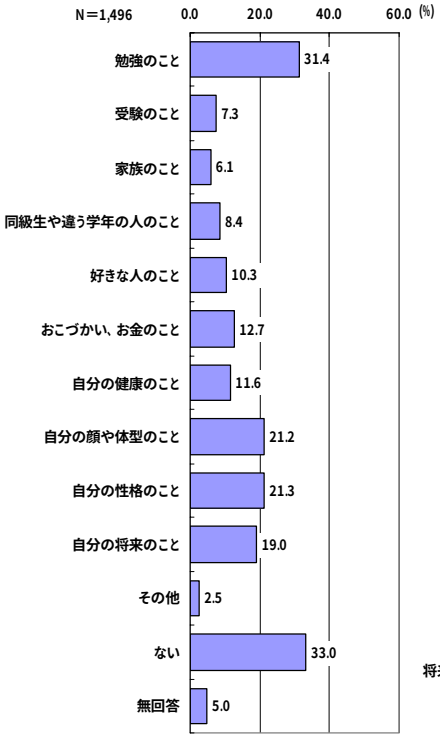
【中学生保護者】



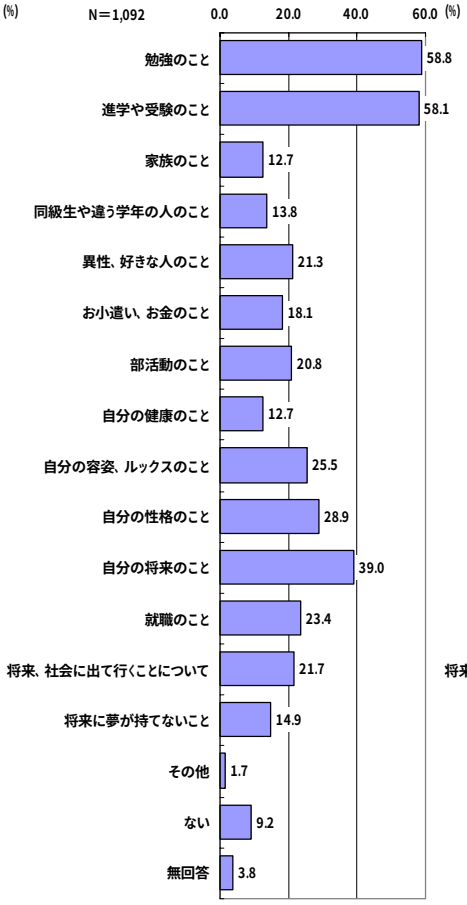
４－４　悩みや不安

悩みや不安が「ない」という子どもは、小学生高学年でも 3 分の 1 にとどまるが、中高生になるとさらに減って 1 割前後となる。悩みや不安の内容としては、各年齢層を通じて多いのが勉強・受験関係であり、特に中学生では多く挙げられている。また、「自分の将来のこと」は年齢層が上がるにつれて増え、高校生では最多の理由となっている。

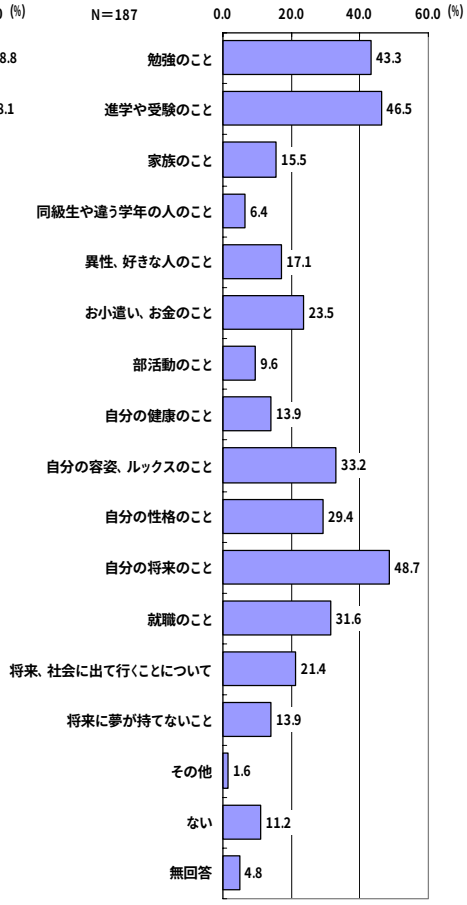
【小学生高学年】



【中学生】



【高校生】

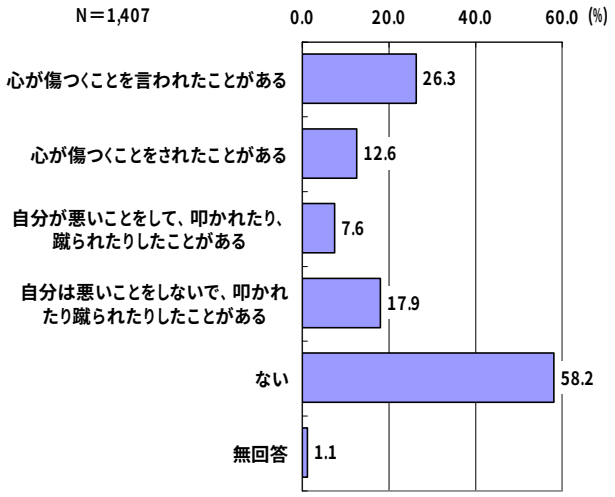


４－５　いやな思い

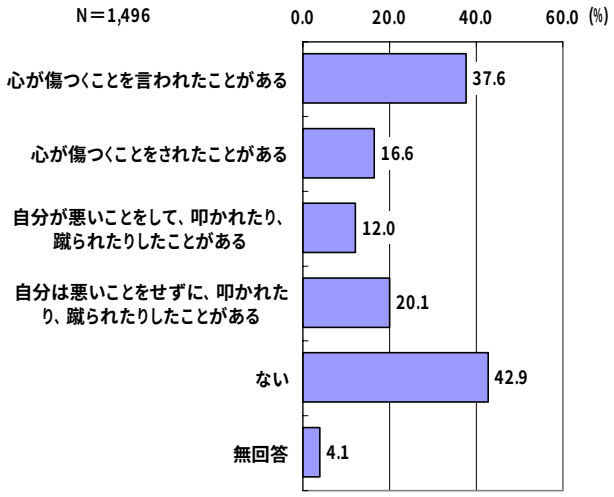
（１）いやなことをされたり、言われたこと

いやなことをされたり言われたりしたことが「ない」という子どもは、小学生低学年では半数を超えるが、同高学年以上では 4 割前後にとどまり、半数を超える子どもがそのような何らかの経験をしていることになる。具体的内容として最も多いのは「心が傷つくことを言われたことがある」で、中高生では 4 割超が挙げている。

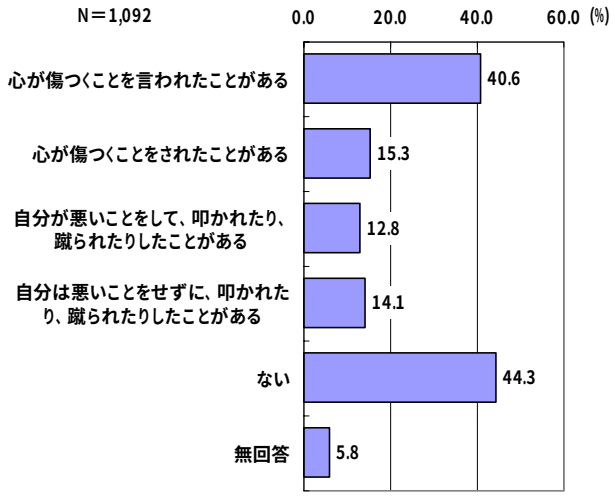
【小学生低学年】



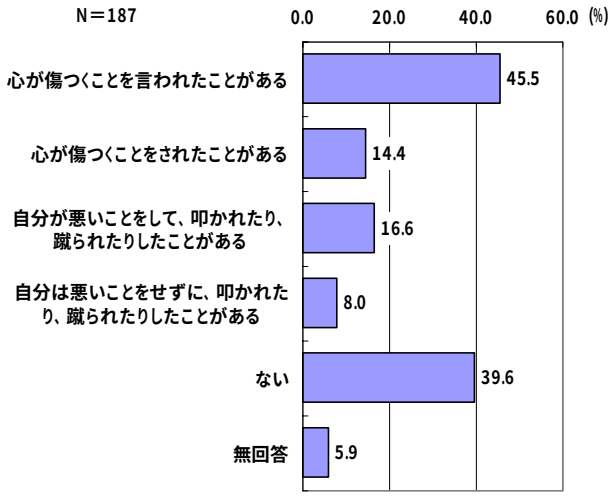
【小学生高学年】



【中学生】



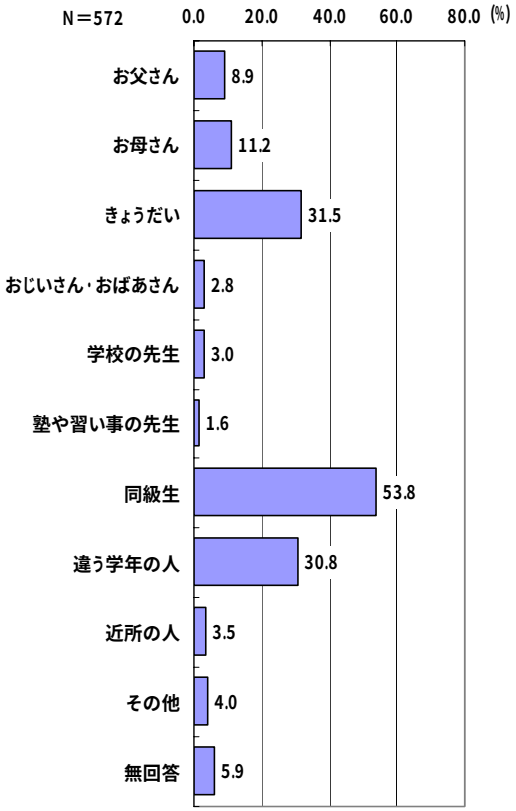
【高校生】



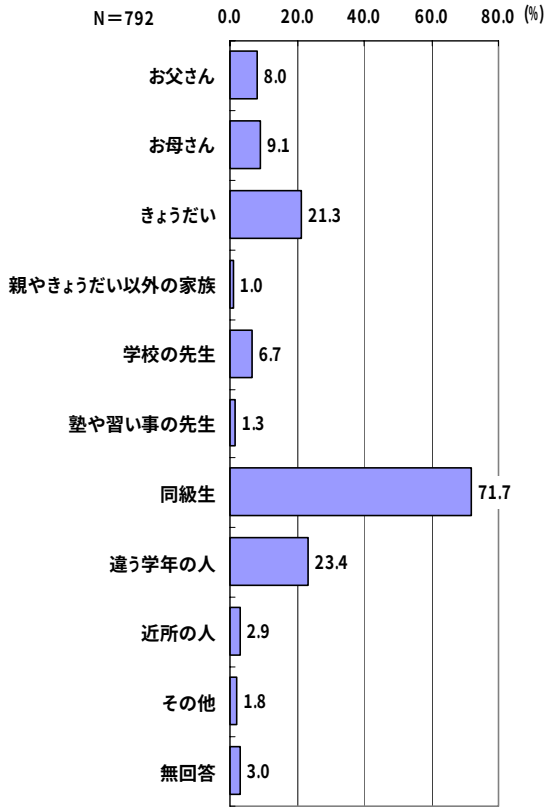
（2）【いやなことをされたり言われたりしたことがある人のみ回答】子どもにいやなことをしたり、言ったりする人

小学生にいやなことをしたり言ったりする人は、「同級生」「違う学年の人」「きょうだい」といった子どもが多い。一方、「お父さん」「お母さん」もそれぞれ１割前後、「学校の先生」も高学年では6.7%あり、身近な大人が子どもを傷つけてしまっていることが決して少なくないことがうかがわれる。

【小学生低学年】



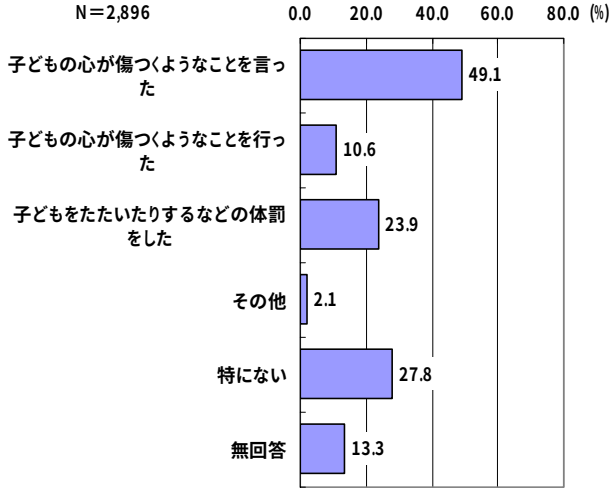
【小学生高学年】



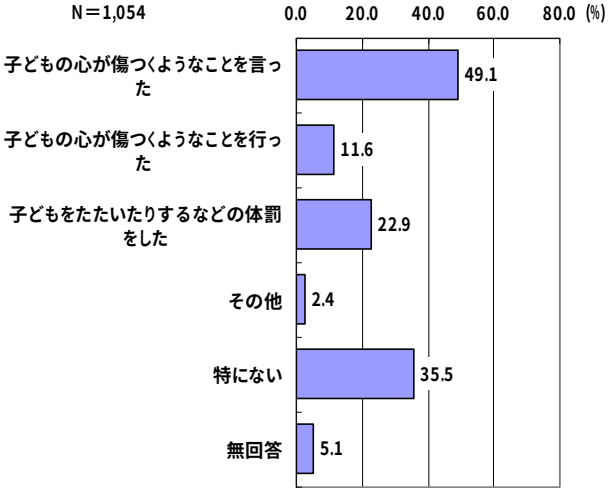
（3）子どもに大変いやな思い、つらい思いをさせたこと

保護者側の認識においても、「子どもの心が傷つくようなことを言った」経験があるという保護者は約半数、一般市民でも 2 割いた。ただ、こうした自覚があることは、それを防止する可能性につながることともいえる。

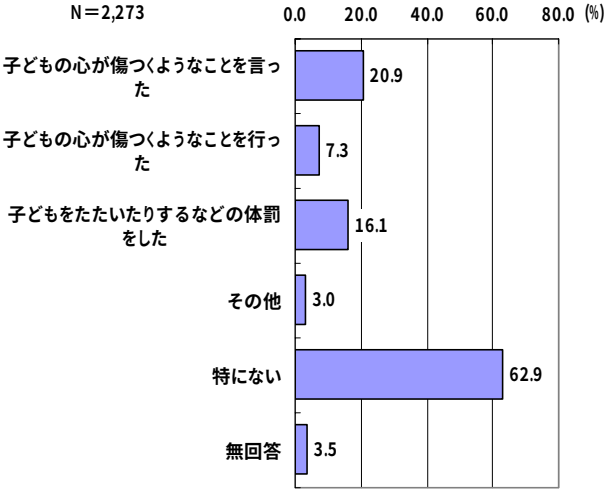
【小学生保護者】



【中学生保護者】

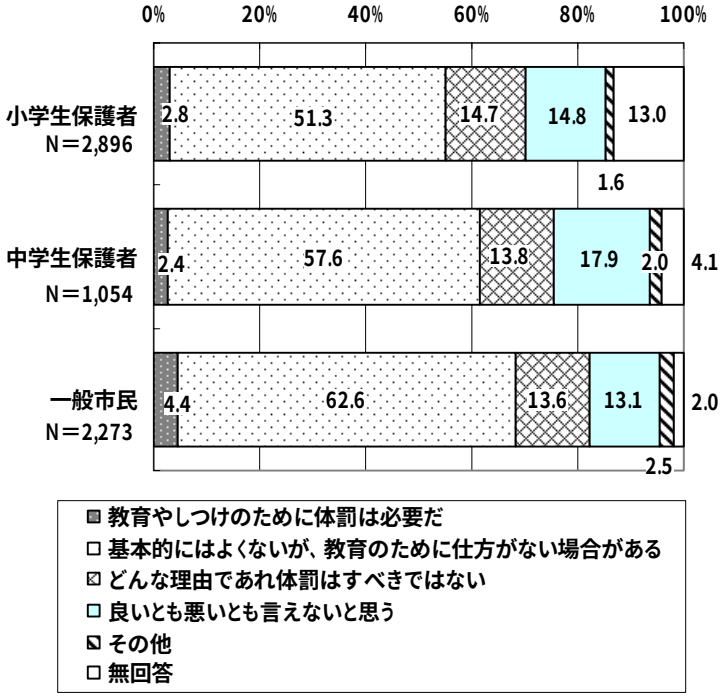


【一般市民】



（３）体罰について

「基本的にはよくないが、教育のために仕方ない場合がある」という回答が半数超を占め、小学生保護者より中学生保護者が、中学生保護者より一般市民が、そのように考える傾向が強い。



４－６【悩みや不安がある人のみ回答】相談相手

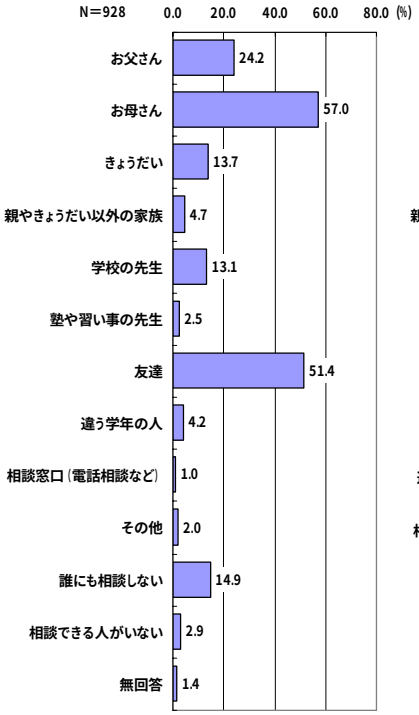
悩みや不安の相談相手として、両親の順位は、子どもの年齢層が上がるにつれて下がってくる。小学生高学年では母親を挙げる子が半数を超え最多であるが、中高生では 3 分の 1 程度にとどまる。父親が相談相手という回答は、母親の半分から 3 分の 1 程度しかない。

また、「学校の先生」という回答も、小学生高学年で 13.1%、中学生で 10.2%、高校生で 7.6%と徐々に減少している。

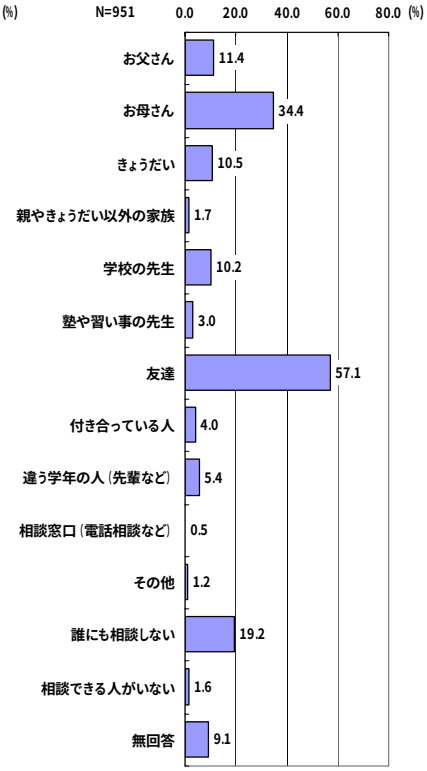
一方、「友達」という回答は、小学生高学年では 51.4%で母親に次ぐ 2 位、中学生では 57.1%で 1 位となり、高校生では 70.7%に達する。

また、「誰にも相談しない」という回答も、特に中学生では約 2 割と多い。

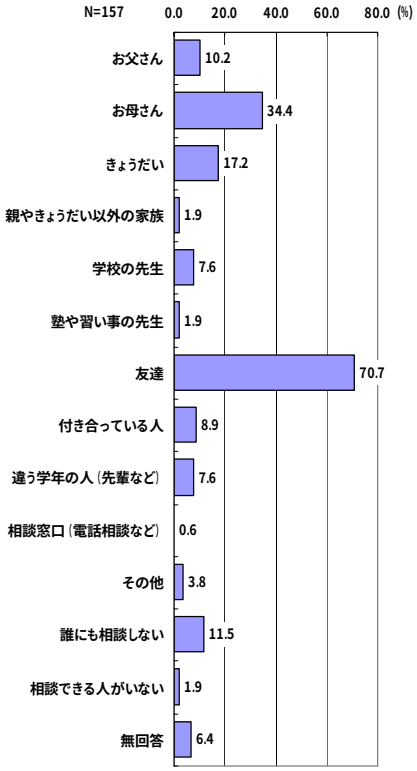
【小学生高学年】



【中学生】



【高校生】

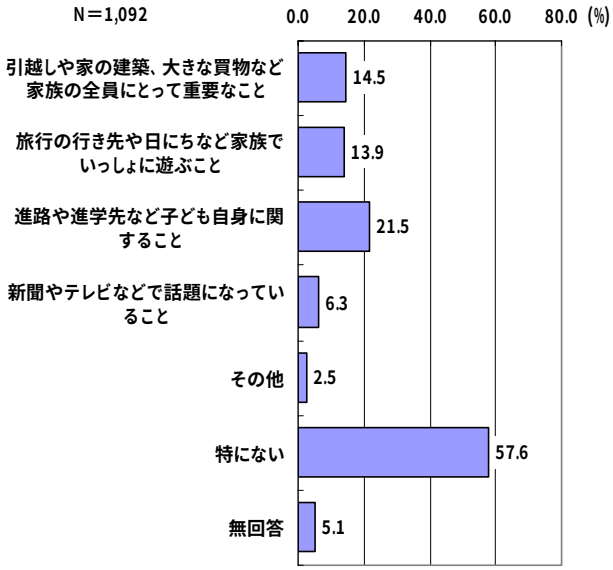


４－７　子どもの意見

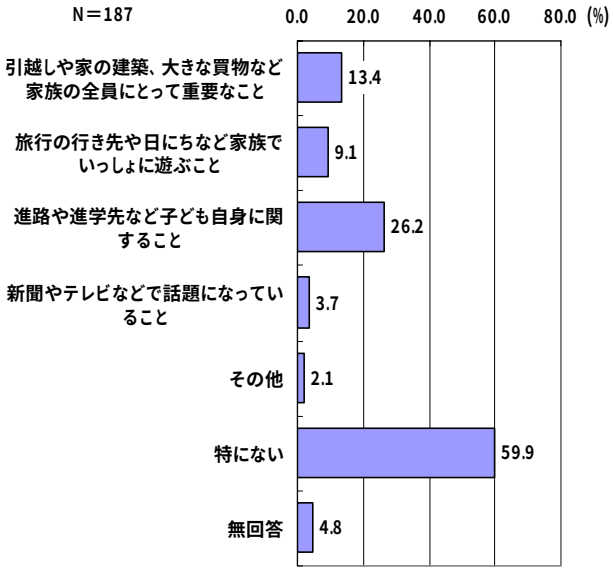
（１）家庭生活で子どもの意見を聞くべきと思うこと

目立つのは、「特にない」という回答が６割近くもあることである。子どもが家庭のことに対し主体的に関わろうとしてない、あるいは無関心であることがうかがわれる。

【中学生】



【高校生】

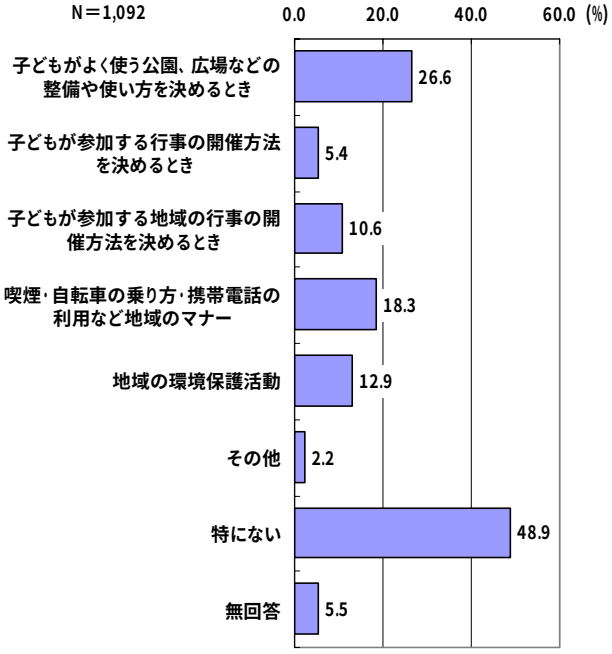


（2）まちづくりや地域活動で子どもの意見を聞くべきと思うこと

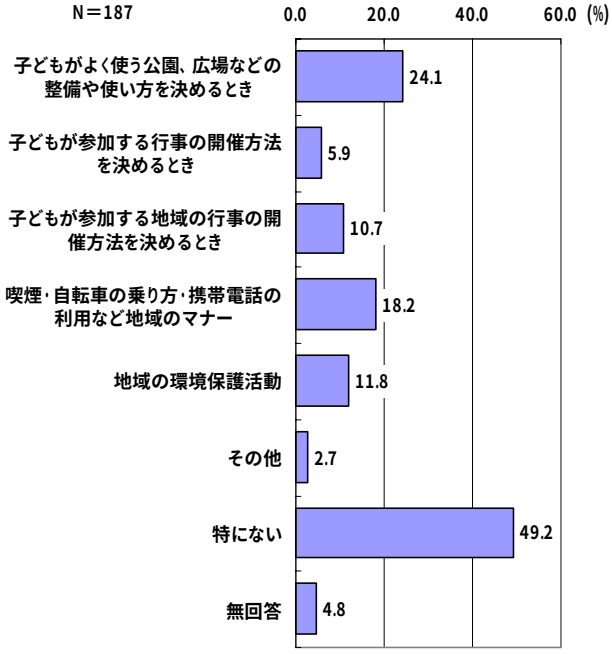
ここでも、「特にない」という回答が半数近くもあることが目立つ。子どもは地域のことに対しても主体的に関わろうとしてない、あるいは無関心であるという傾向がうかがわれる。

ただ、「子どもがよく使う公園、広場などの整備や使い方を決めるとき」は子どもの意見を聞くべきだという意見も 4 分の 1 程度の中高生が持っており、こうした分野を契機に子どもの地域参加を促していくことが有効と考えられる。

【中学生】



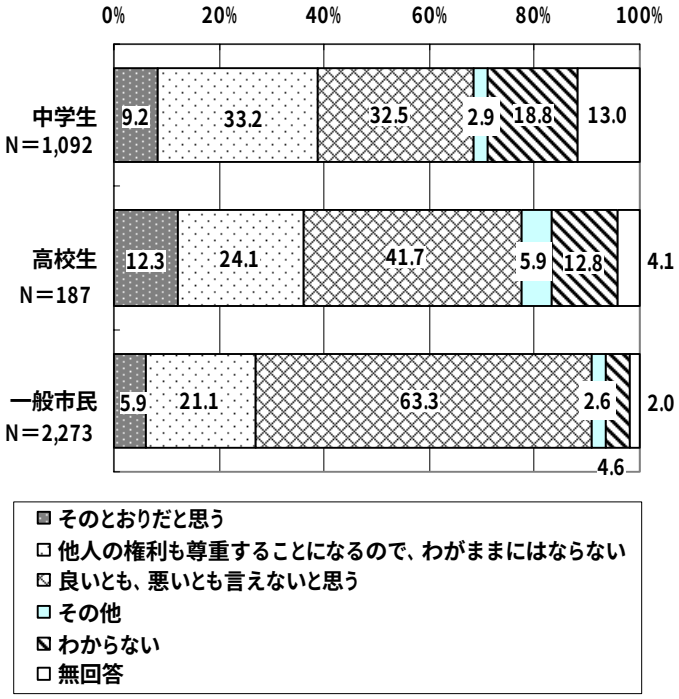
【高校生】



４－８　大切な子どもの権利

（１）子どもの権利を認めることについて

「子どもの権利を認めることは、子どものわがままを認めることにつながる」という意見に対し、中学生では「他人の権利も尊重することになるので、わがままにはならない」と「良いとも、悪いとも言えないと思う」が拮抗しており、高校生と一般市民では後者が最も多い回答であった。一般市民より中高生自身の方で、「その通りだと思う」という回答、すなわち「子どものわがまま」に対する批判的な声が多くなっている。

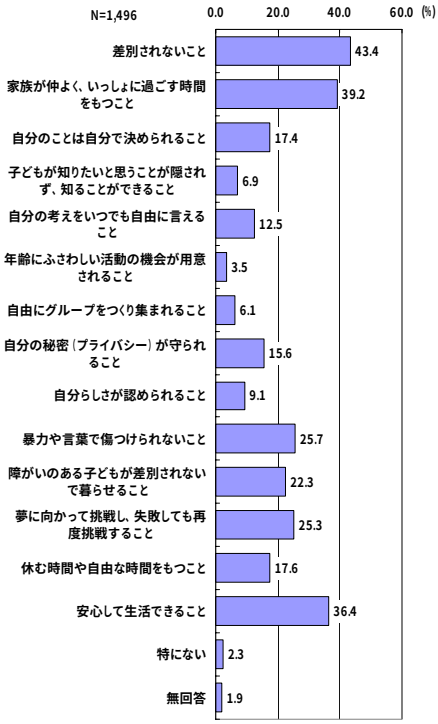


（2）子どもの権利で大切だと思うこと

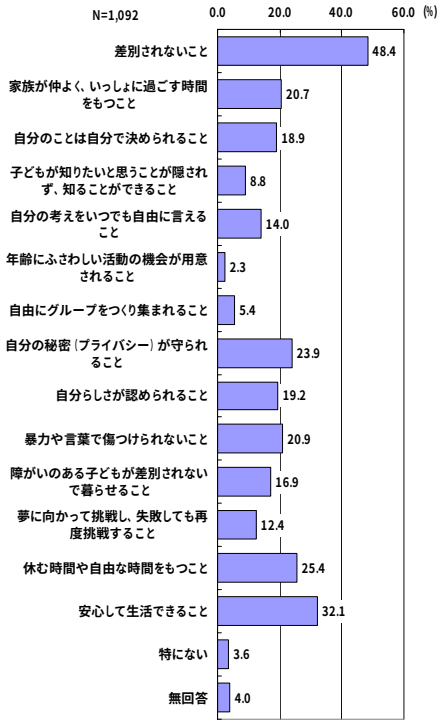
子ども自身が、子どもの権利で大切だと思うことで、各年齢層を通じて多いのは、「差別されないこと」と「安心して生活できること」である。「家族が仲よくいっしょに過ごす時間をもつこと」は、小学生高学年では 4 割近くの子どもが挙げたが、中高生では 2 割程度にとどまる。一方、中高生では「自分の秘密（プライバシー）が守られること」を挙げる子どもが、小学生に比べると多くなっている。

保護者および一般市民が、子どもの権利で大切だと思うことで最も多いのは、「安心して生活できること」である。また、「家族が仲よくいっしょに過ごす時間をもつこと」を挙げる大人が子どもたちより多いことが目立つ。

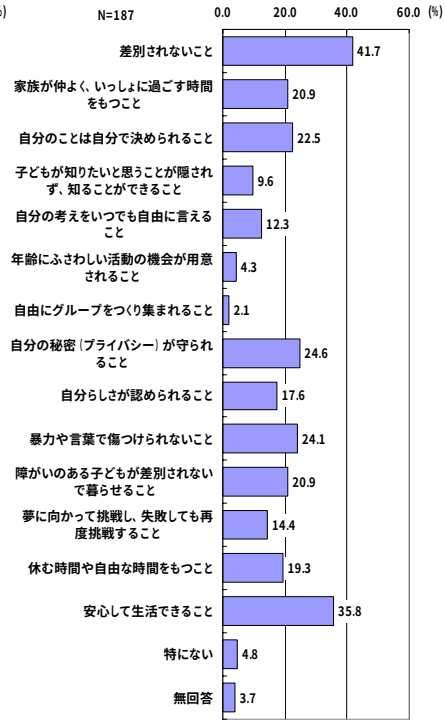
【小学生高学年】



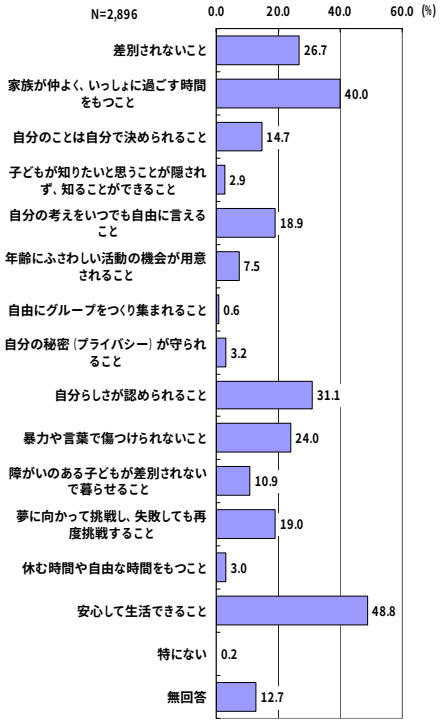
【中学生】



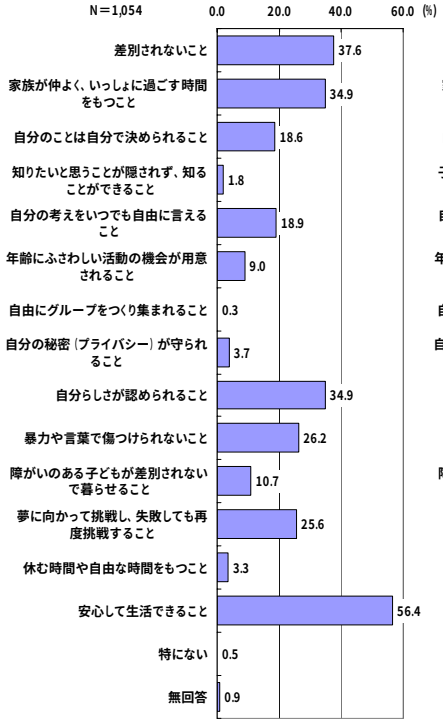
【高校生】



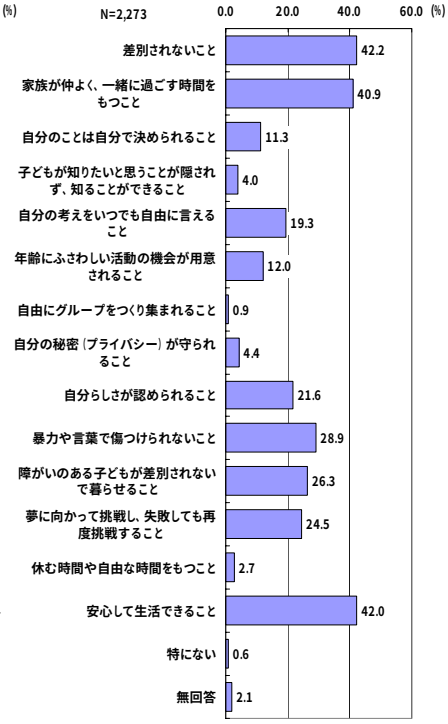
【小学生保護者】



【中学生保護者】



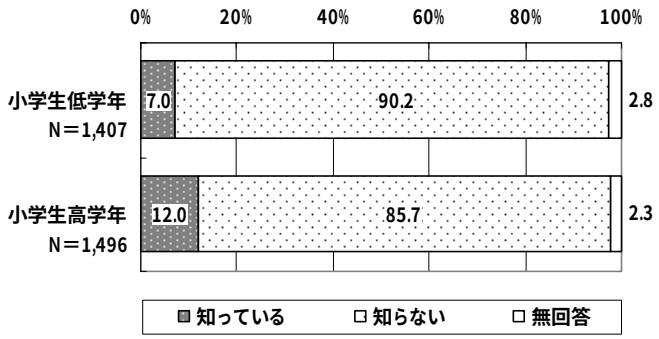
【一般市民】

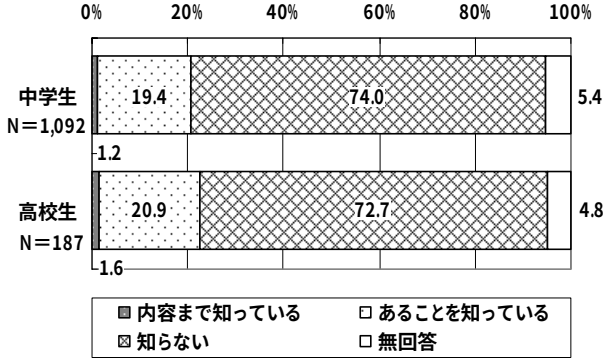


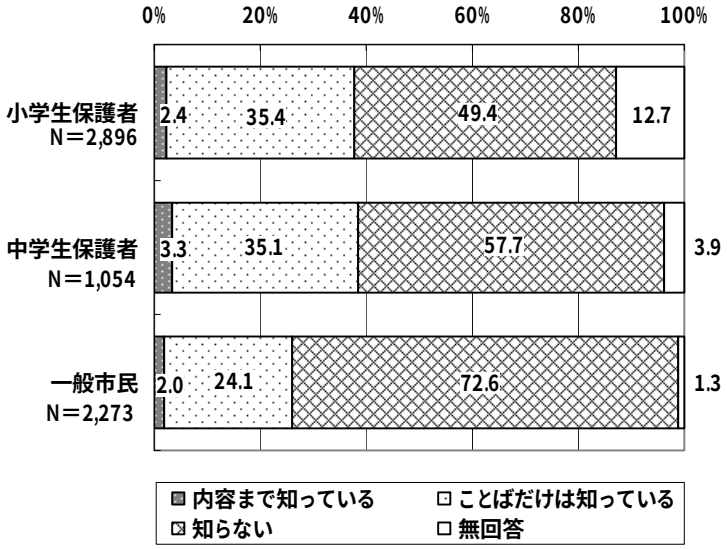
４－９　子ども条例の認知

（１）豊田市子ども条例の認知

条例が存在していることの認知度は、小学生で 1 割程度、中高生で 2 割程度、小中学生保護者で 4 割弱、一般市民で 3 割弱である。さらに、「内容まで知っている」という割合は、中高生では 1～2%、大人でも 2～3%にとどまる。認知度はまったく不十分であり、周知の取組が強く望まれる。

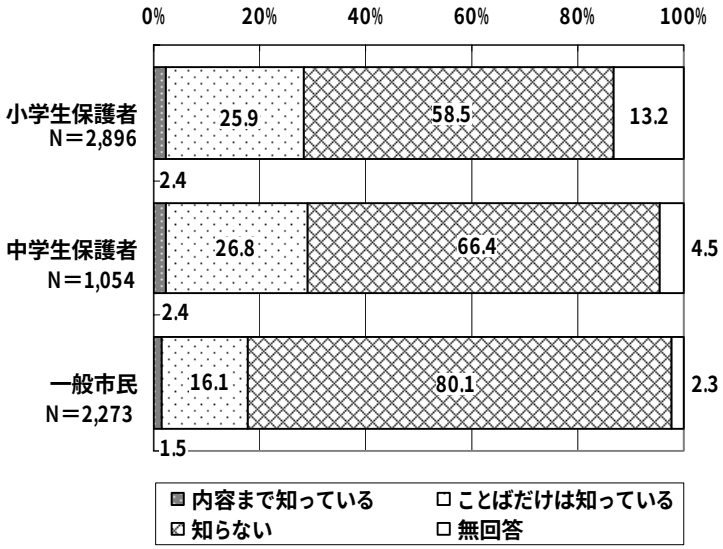






（2）とよた子どもの権利相談室の認知

相談室が存在していることの認知度は、小中学生保護者で 3 割弱、一般市民で 2 割弱であり、「内容まで知っている」という割合は 1～2%にとどまる。こちらも、子ども条例以上に認知度は低いが、設置されて間もないこともあり、条例と併せて周知を行うこと、活動を通じて認知度が高まることが期待される。

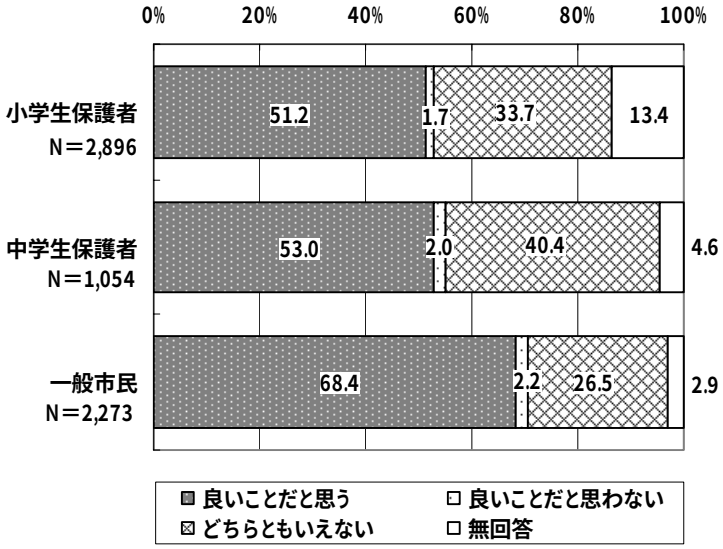


４－10　子ども委員

（１）子ども委員活動について

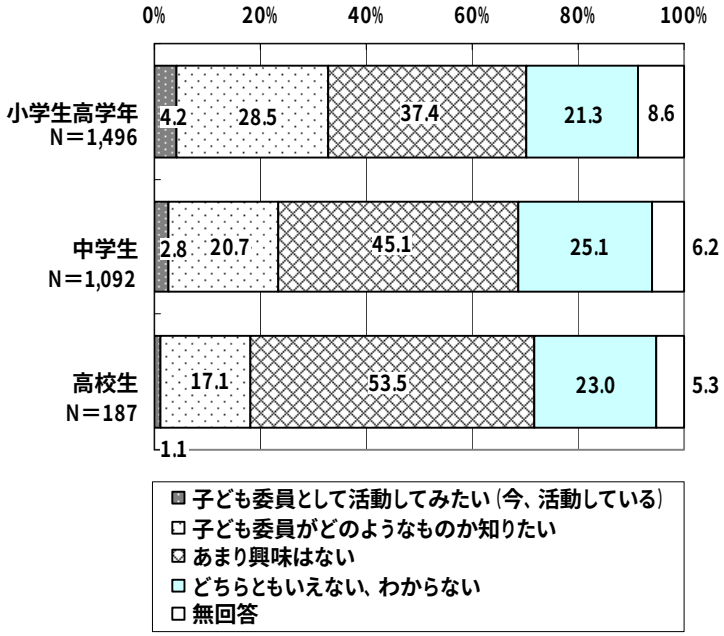
小中学生保護者の半数強、一般市民の 7 割弱が、「良いことだと思う」と回答した。「良いことだと思わない」という否定的意見は数%にとどまった。

小中学生保護者より一般市民の方で肯定的意見が多いのは、前者では「どちらともいえない」という回答および無回答が多いからであり、実際に自分の子どもが活動に参加することを想定すると判断がつかないということだと思われる。これは、活動の内容や成果がまだ理解されていないことが一因と考えられ、こちらも周知の取組が望まれる。



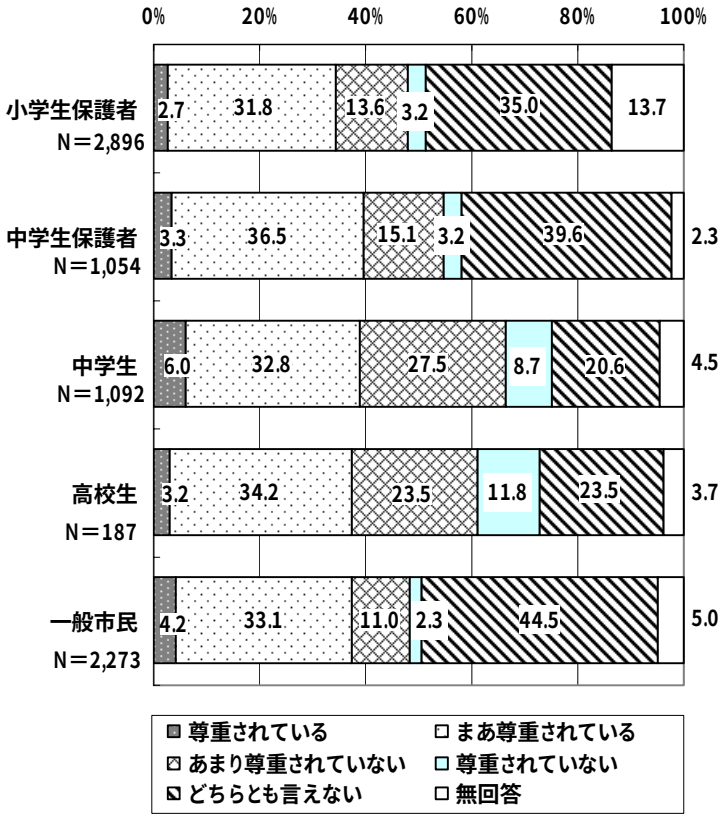
（2）子ども委員活動への興味

「活動してみたい」と「どのようなものか知りたい」の合計割合は、小学生高学年では 3 割を超えるが、中学生では 2 割強、高校生では 2 割弱と、年齢層が上がるにつれて興味が薄れている。こうした状況は、比較的興味の高い小学生時代に活動に参加した子どもが、中高生になっても参加を続けたり、活動経験を周囲の子どもと共有したりすることで、少しずつ改善されることが期待される。



４－11　子どもの権利の尊重

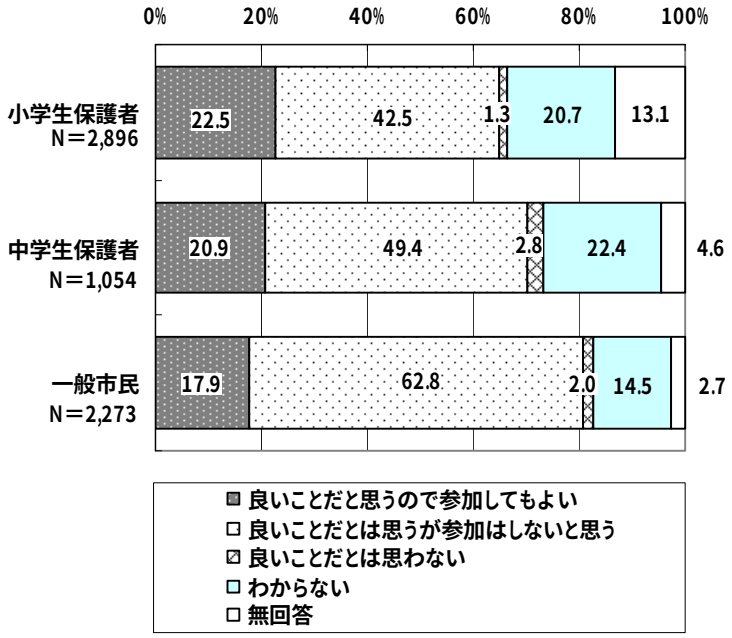
「尊重されている」と「まあ尊重されている」の合計割合は、小中学生保護者、中高生、一般市民を通じて 3～4 割であり大きな差はない。しかし、「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の合計割合は、大人（小中学生保護者と一般市民）では 1～2 割であるが、中高生では 4 割近くに上っており、大人が思っているほど子どもたちは、自分たちの権利が尊重されているとは思っていない、という状況がうかがえる。



４－12　権利学習

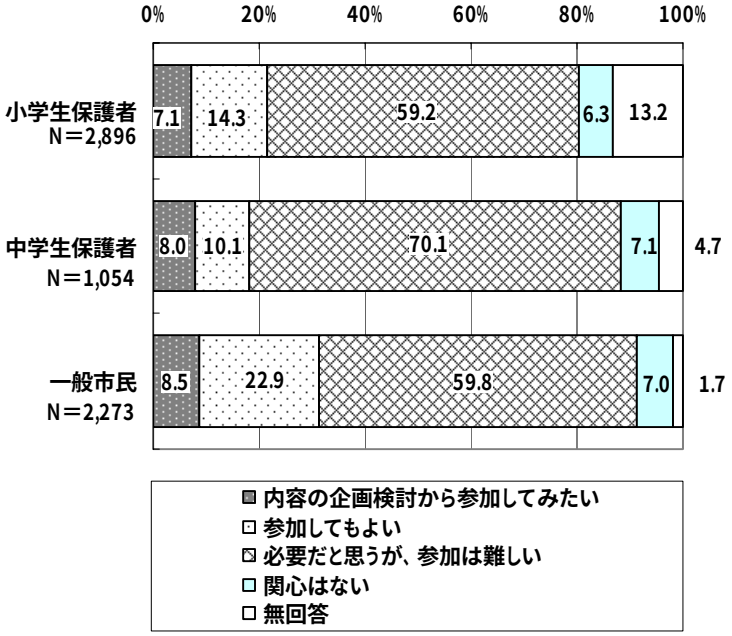
「参加してもよい」という回答も 2 割前後あるが、「良いことだとは思うが参加はしないと思う」が小中学生保護者では 4～5 割、一般市民では 6 割超と最も多い。

一般市民の関心を高めるのは容易でないと考えられるので、まずは保護者の中で「参加してもよい」という人々に実際に受講してもらい、その経験を周囲と共有することで関心を高めていくことが有効であると思われる。



４－13　地域の子育て支援への参加

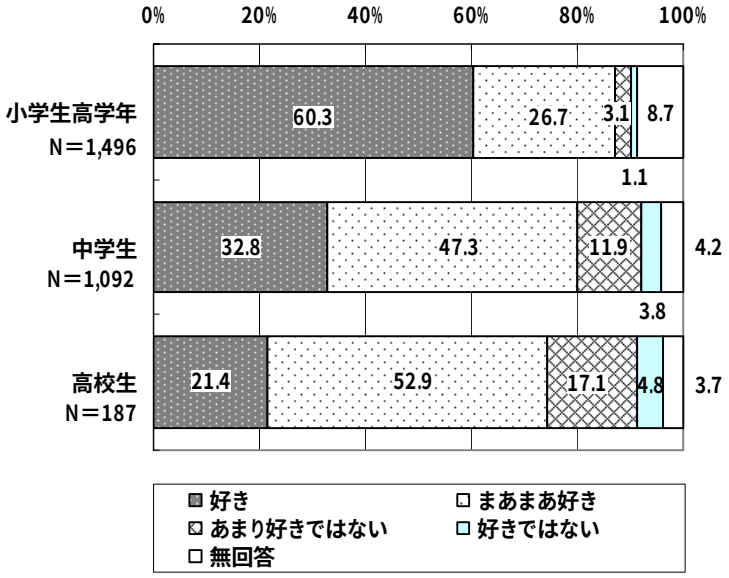
「内容の企画検討から参加してみたい」と「参加してもよい」の合計割合は、中高生保護者では 2 割前後、一般市民では 3 割強であった。一般市民の方がむしろ参加意向が強いのは、子育て現役世代である中高生保護者よりも時間的制約の小さい人が多いという状況によると考えられ、こうした層の子育て支援力を活用していく取組を積極的に進めていくことが望まれる。



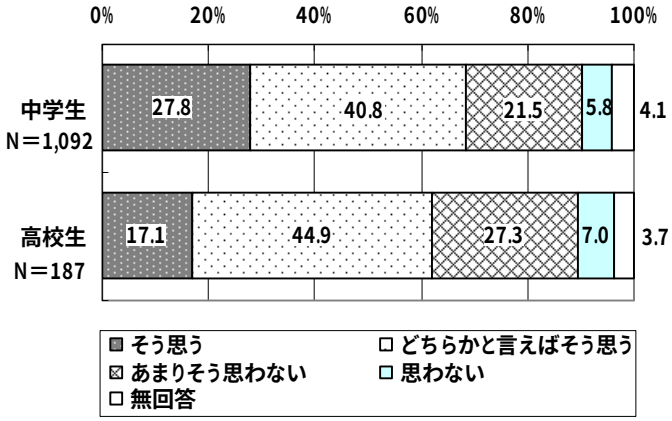
5　子どもの自立について

5－1　楽しいこと、熱中すること

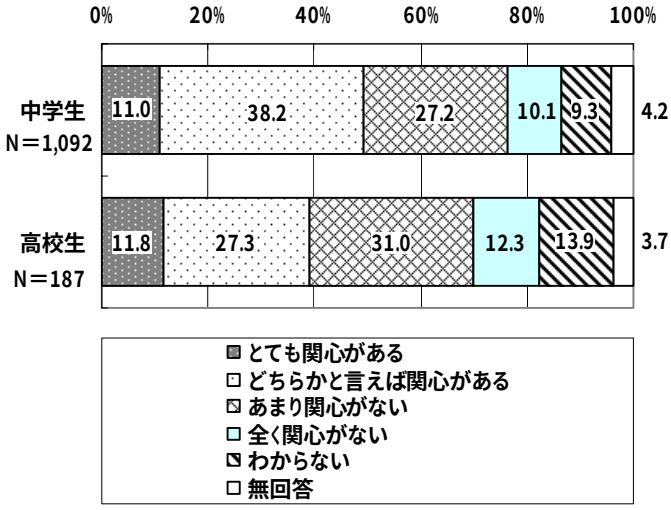
（1）住んでいる地域は好きか



（2）豊田市への定住意向

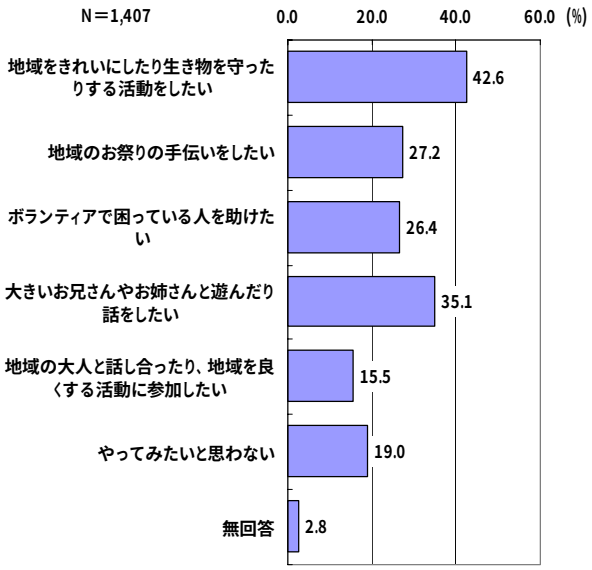


（3）ボランティアへの関心

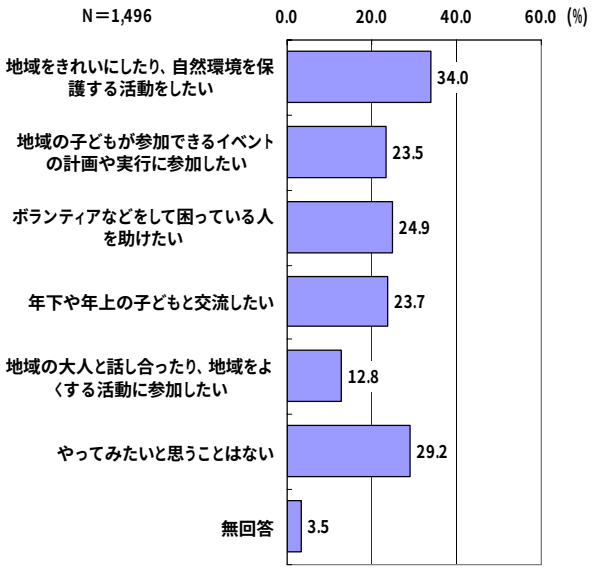


５－２　やってみたいこと

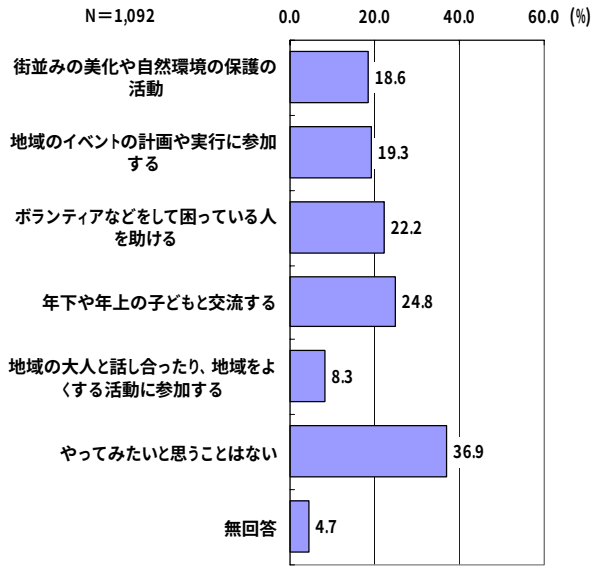
【小学生低学年】



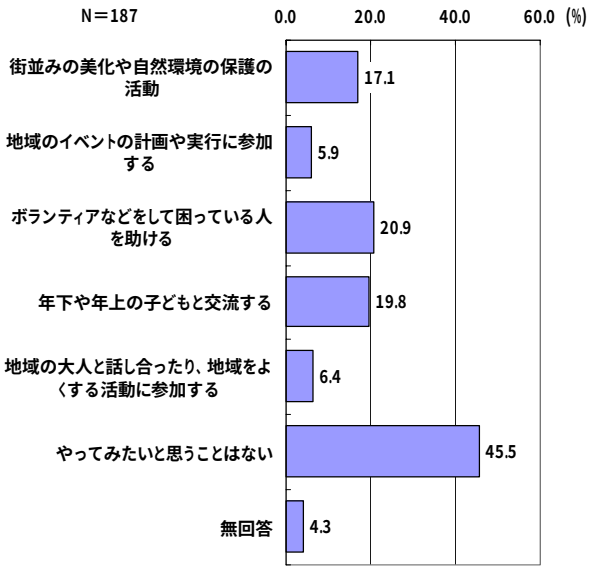
【小学生高学年】



【中学生】



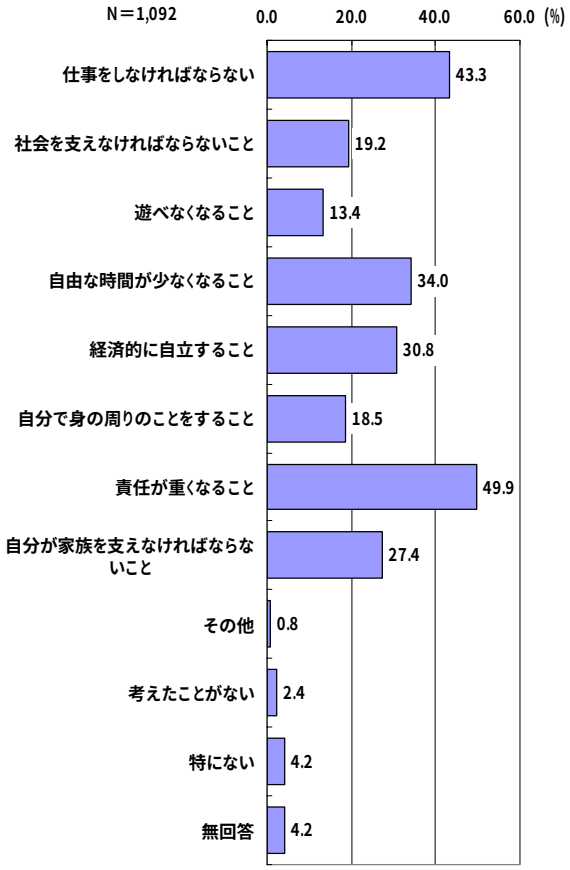
【高校生】



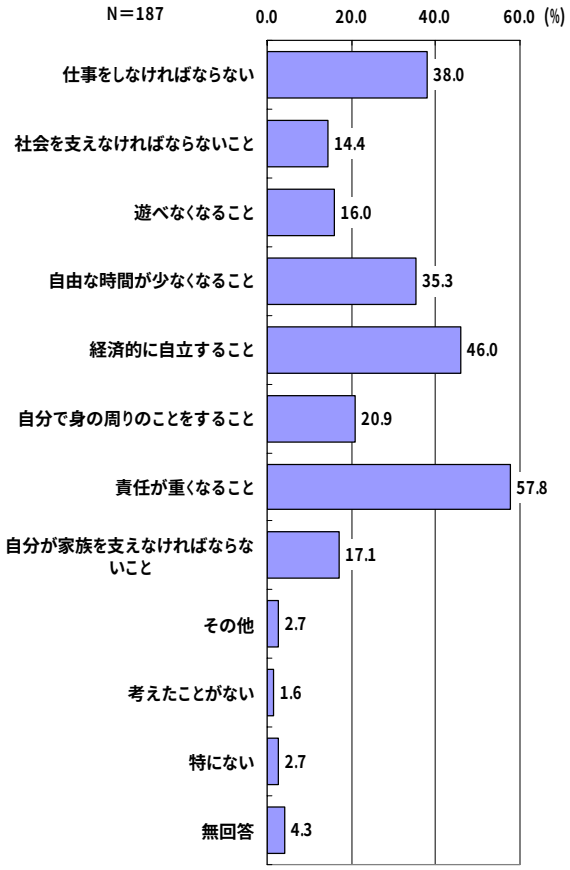
５－３　大人について

大人になると大変そうだと思うことは、「責任が重くなること」が最も多く、次いで「経済的に自立すること」と「仕事をしなければならないこと」が多い。経済や雇用情勢が厳しいこともあり、子どもは就業への不安などを敏感に感じているようである。

【中学生】

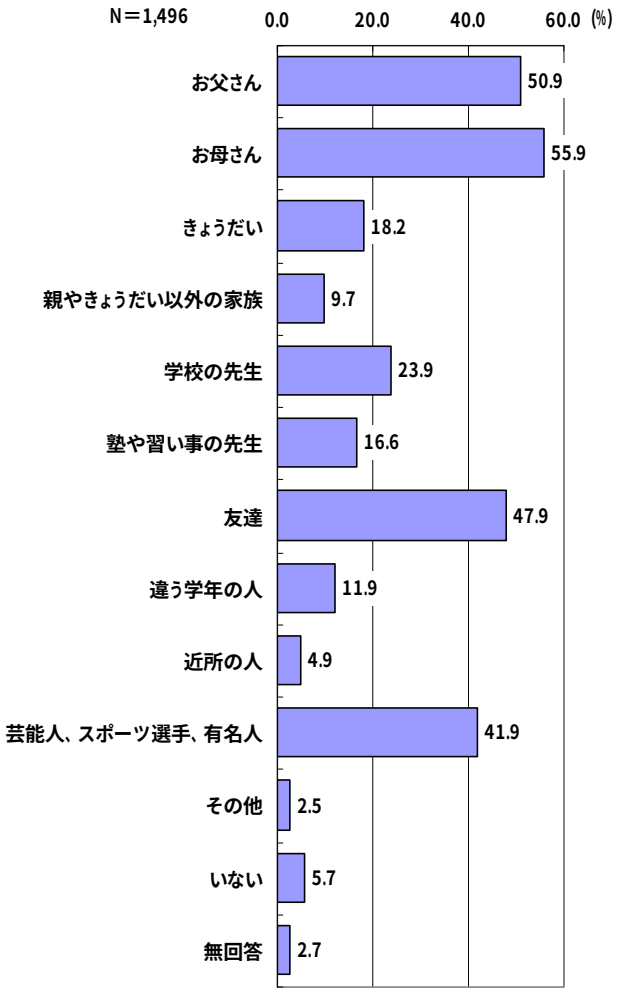


【高校生】



５－４　尊敬する人

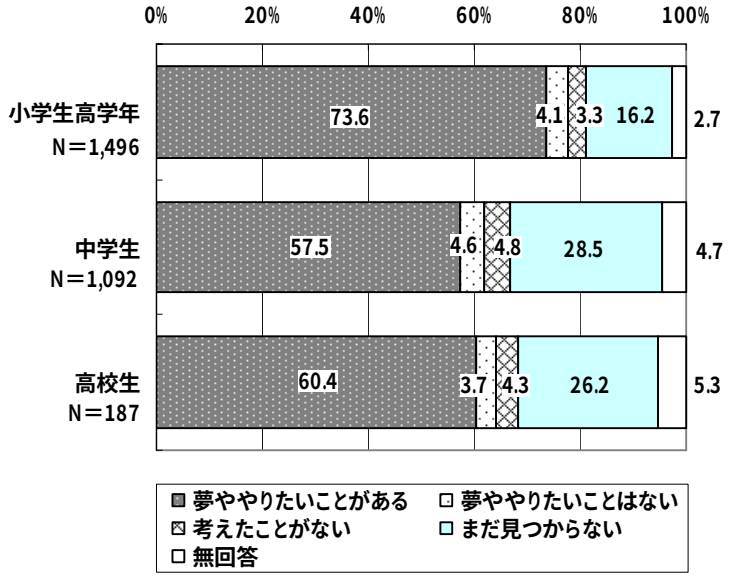
【小学生高学年】



５－５　夢、やりたいこと

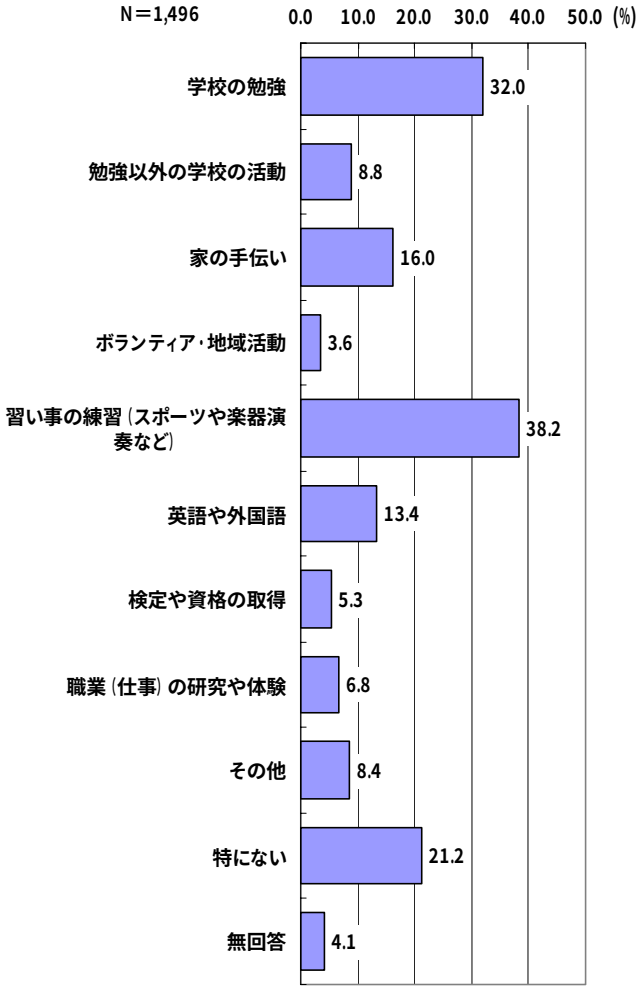
（１）夢、やりたいことの有無

子どもは大人になると大変そうだと思っている一方で、半数以上の子どもが夢ややりたいことを持っていることが明らかとなった。小学生高学年では、夢の実現のために、習い事の練習や勉強に励む子どもが多い。



（2）夢、やりたいことのために努力していること

【小学生高学年】

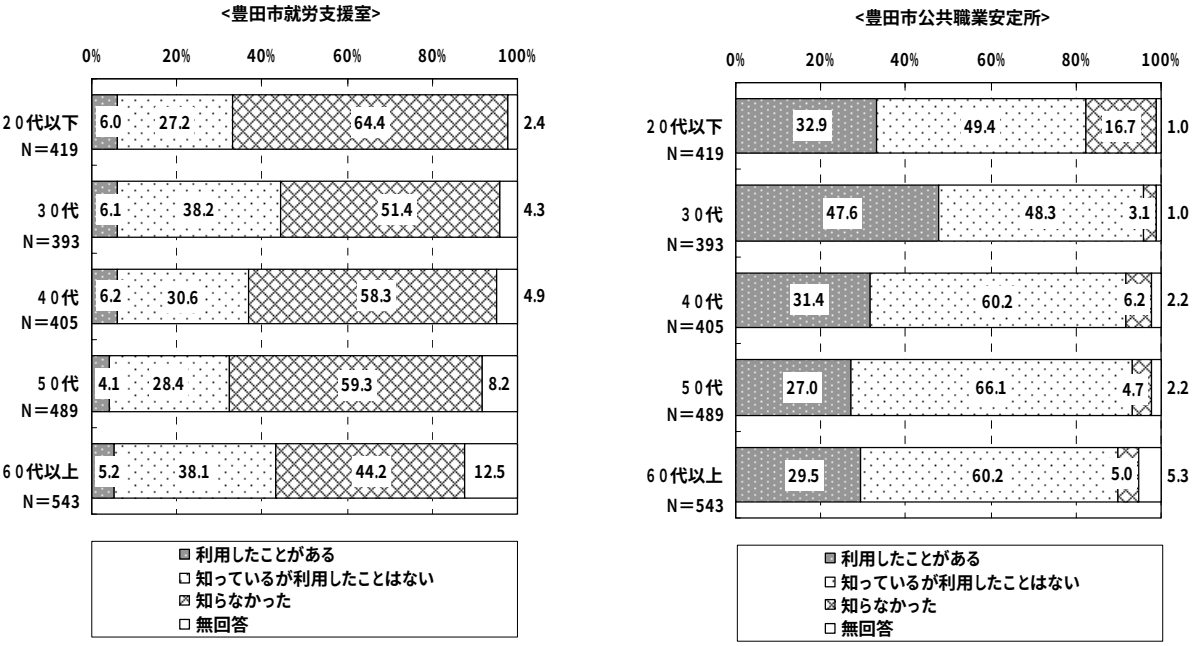


５－６　職業

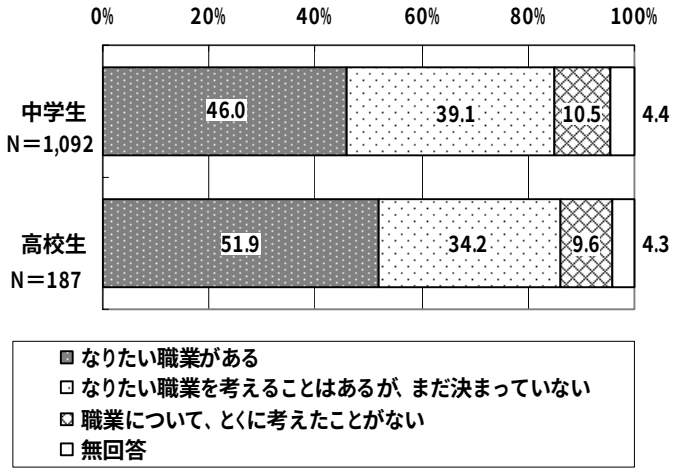
（１）就労支援機関の利用状況

就労支援機関の利用状況については、豊田市就労支援室は 20 代以下、30 代、40 代が 6%台で高く、豊田市公共職業安定所は 30 代が 47.6%で最も利用経験の割合が高くなっている。いずれの年代においても、豊田市就労支援室は豊田市公共職業安定所よりも利用者割合や認知度が低い。

【一般市民】



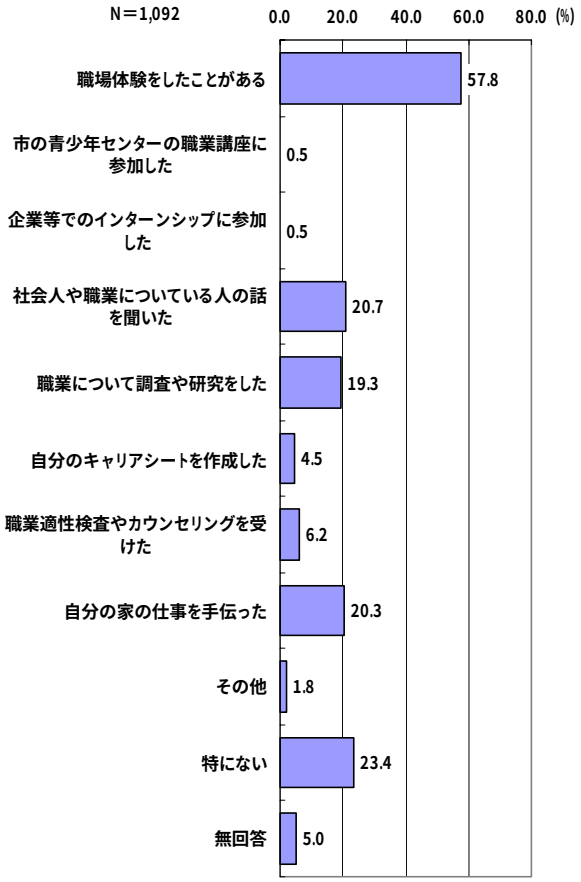
（２）将来の職業について



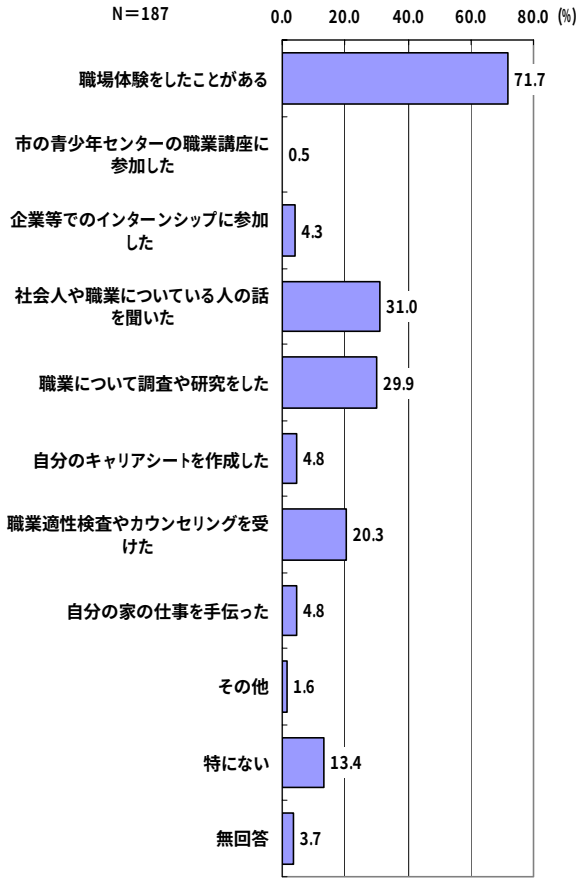
（３）就業のために行ったこと

就業のために行ったことについては、中学生、高校生とも「職場体験」が突出して高い。「自分の家の仕事を手伝った」以外は、いずれも中学生よりも高校生の割合が高くなっている。

【中学生】

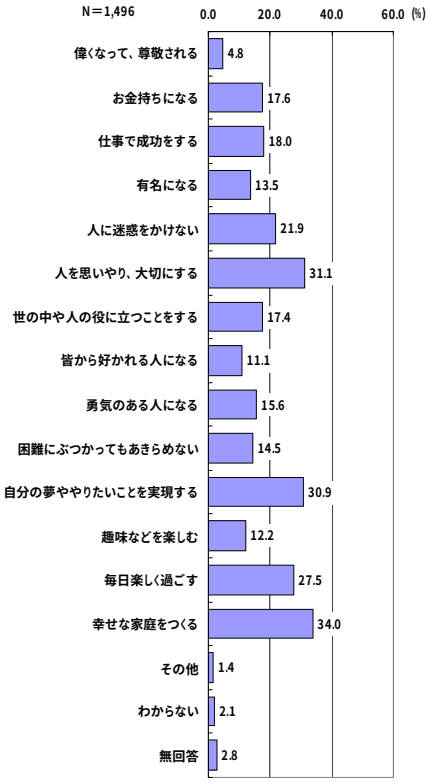


【高校生】

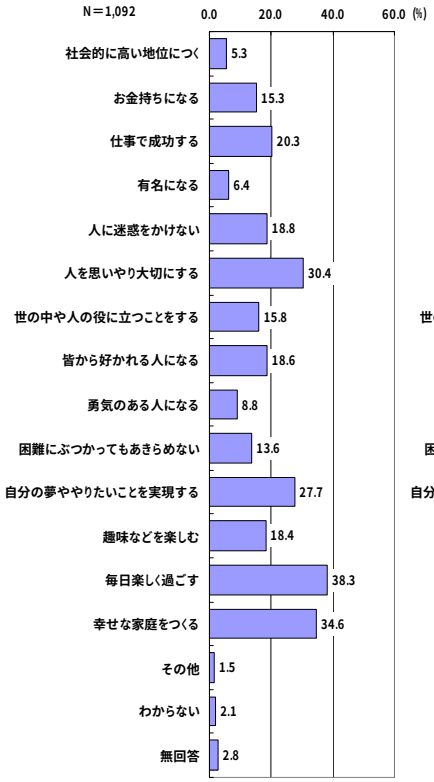


５－７　将来のぞむ生き方

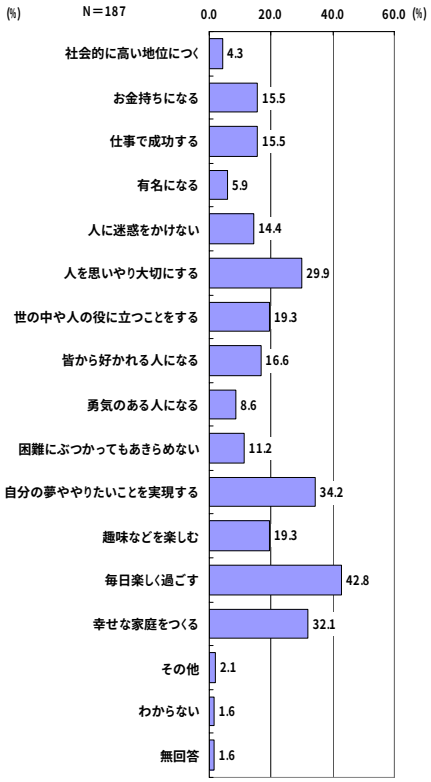
【小学生高学年】



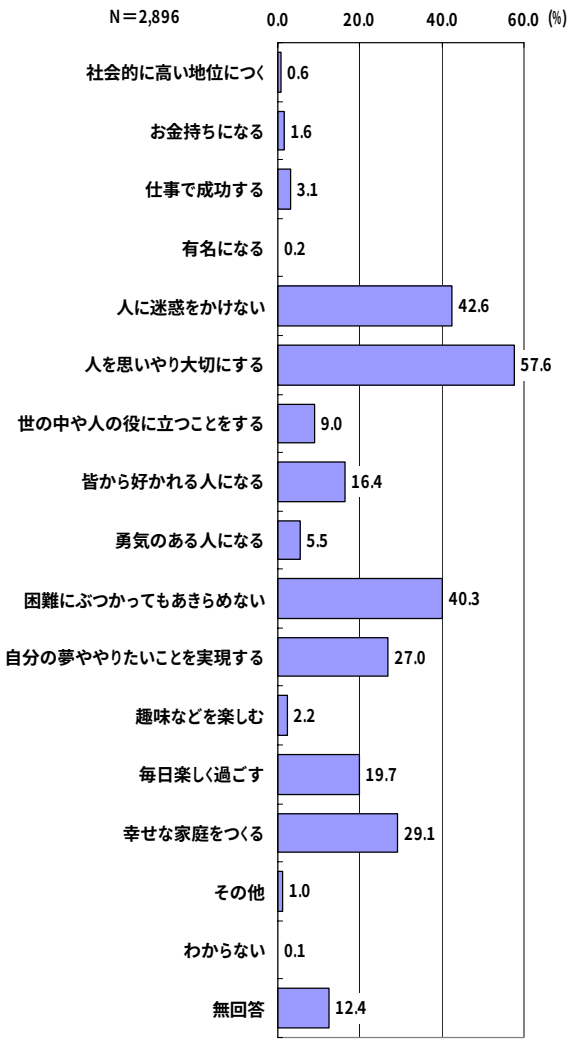
【中学生】



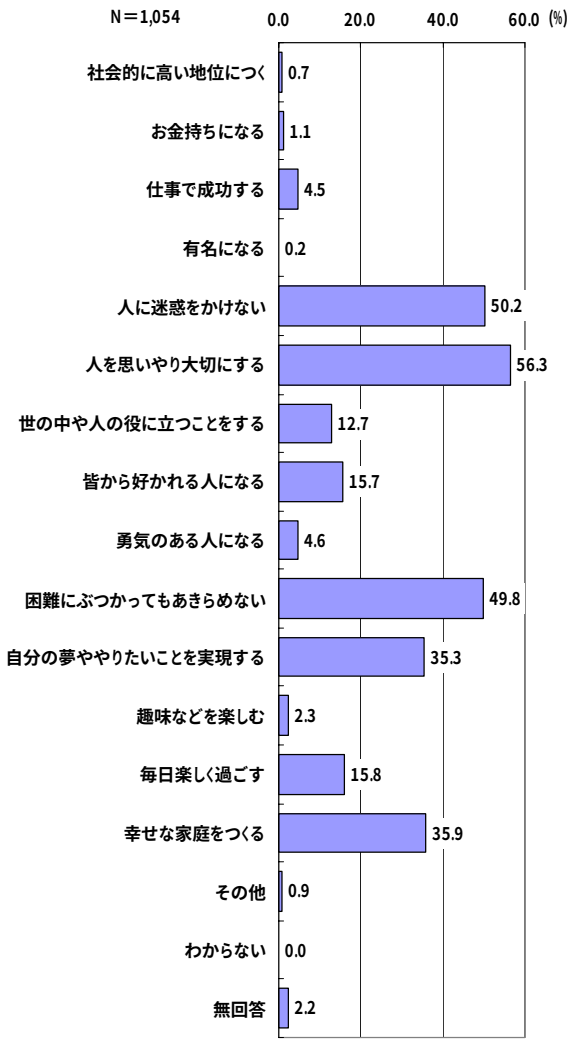
【高校生】



【小学生保護者】

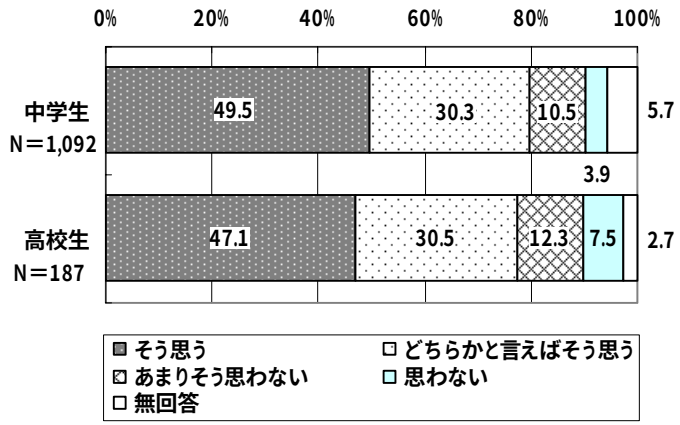


【中学生保護者】



５－８　子どもをもつこと

子どもをもちたいと思うかについては、中学生、高校生とも約８割が「もちたい」と肯定的に考えている。



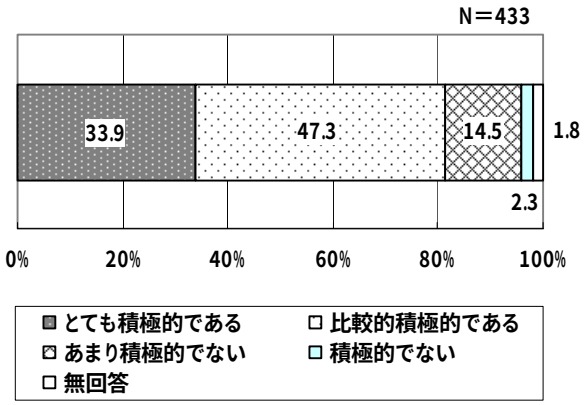
6　母子手帳交付被交付者の意識やニーズ

6－1　家事分担、子どもへの関心

（1）夫・パートナーの家事への関わりについて

「とても積極的である」は3分の1、「比較的積極的である」を加えると8割を超える。

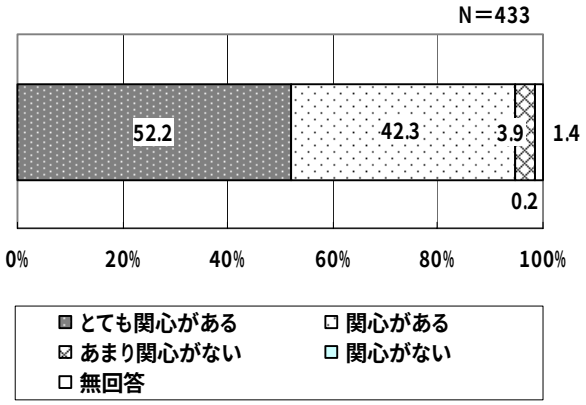
【母子手帳交付被交付者】



（2）夫・パートナーの子どもへの関心について

「とても関心がある」は半数強、「関心がある」を加えると9割を超え、家事への関わり度合い以上に積極的である。

【母子手帳交付被交付者】

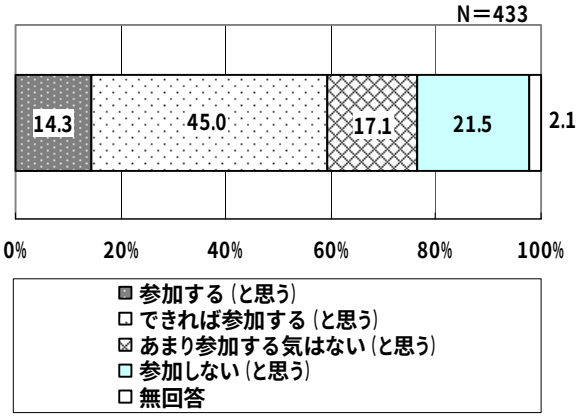


６－２　教室への参加

夫・パートナーの両親教室への参加見通しについては、「参加する（と思う）」は 14.3%、「できれば参加する（と思う）」を加えても 6 割弱にとどまった。一方で、「参加しない（と思う）」は 2 割を超えた。

夫・パートナーの子どもへの関心は高いが、具体的・自主的な行動には必ずしも結びついていない状況がうかがえる。

【母子手帳交付被交付者】

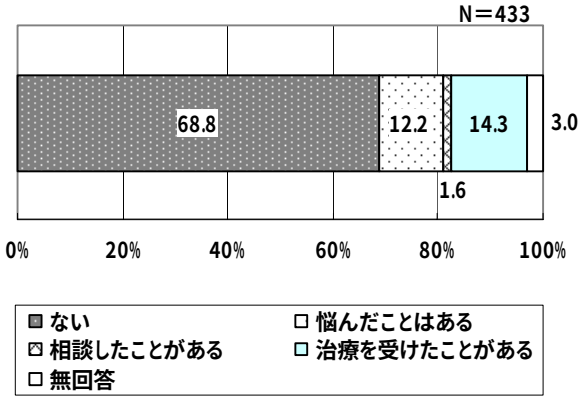


６－３　不妊

（１）不妊について悩んだり、治療を受けたこと

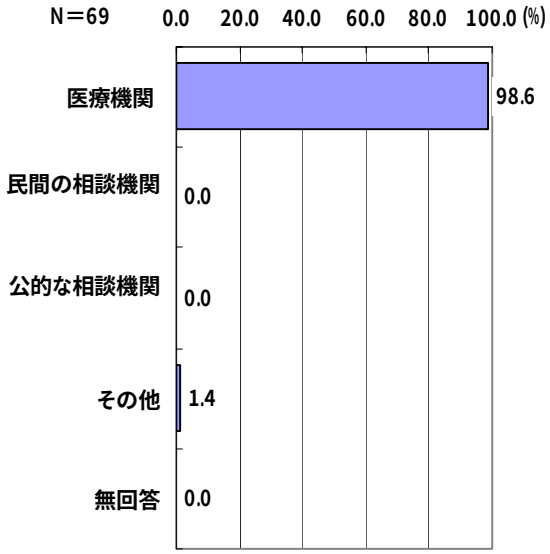
「悩んだことはある」「相談したことがある」「治療を受けたことがある」の合計割合は、3割近くに上った。これは、国立社会保障・人口問題研究所の第13回出生動向基本調査（2005年実施）における「不妊を心配したことのある夫婦は4組に1組」という結果とも合致する。

【母子手帳交付被交付者】



（２）【不妊について相談したり治療を受けたりしたことがある人のみ回答】相談先

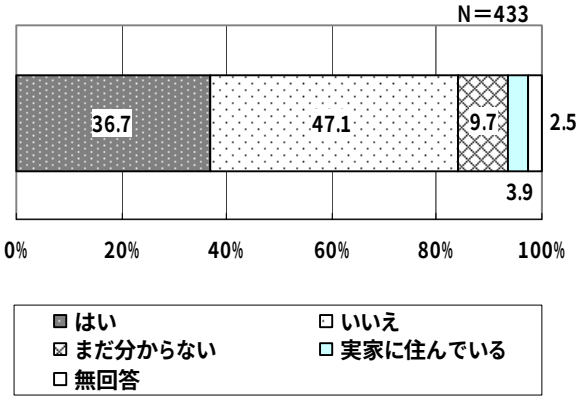
【母子手帳交付被交付者】



６－４　出産予定

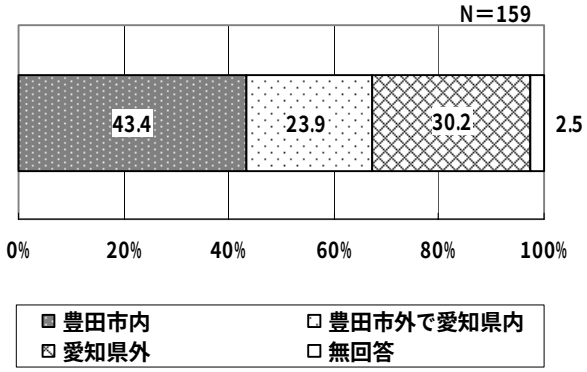
（１）里帰りしての出産予定があるか

【母子手帳交付被交付者】



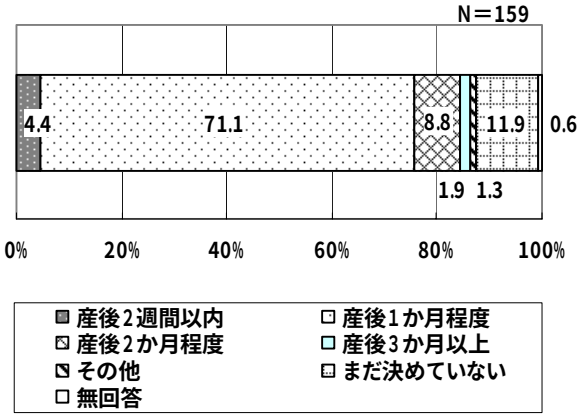
（２）【里帰り出産する予定がある人のみ回答】里帰り先について

【母子手帳交付被交付者】



（3）【里帰り出産する予定がある人のみ回答】里帰り先での滞在予定期間

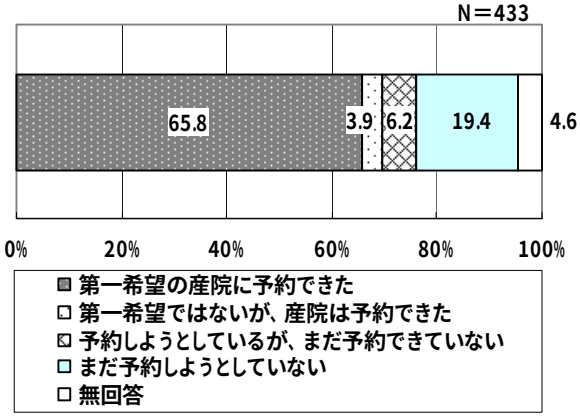
【母子手帳交付被交付者】



（4）産院の予約

3 分の 2 は「第一希望の産院に予約できた」と回答した。「予約しようとしているが、まだ予約できていない」は 6.2%、「第一希望ではないが、産院は予約できた」は 3.9%で、これらを合わせると約 1 割である。

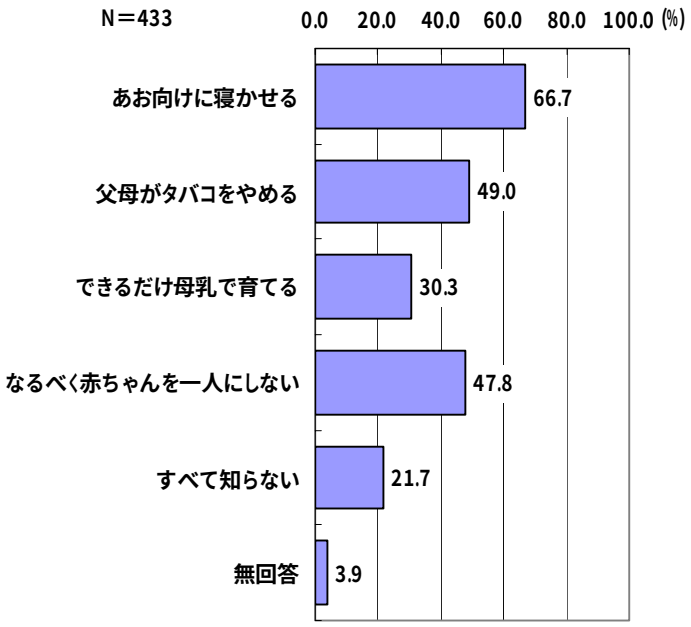
【母子手帳交付被交付者】



６－５　突然死症候群

「すべて知らない」という回答が 2 割強に上る。また、予防策として「あお向けに寝かせる」の認知度は 3 分の 2 あったものの、「父母がタバコをやめる」「できるだけ母乳で育てる」「なるべく赤ちゃんを一人にしない」は半数に満たなかった。さらなる周知の取組が求められる。

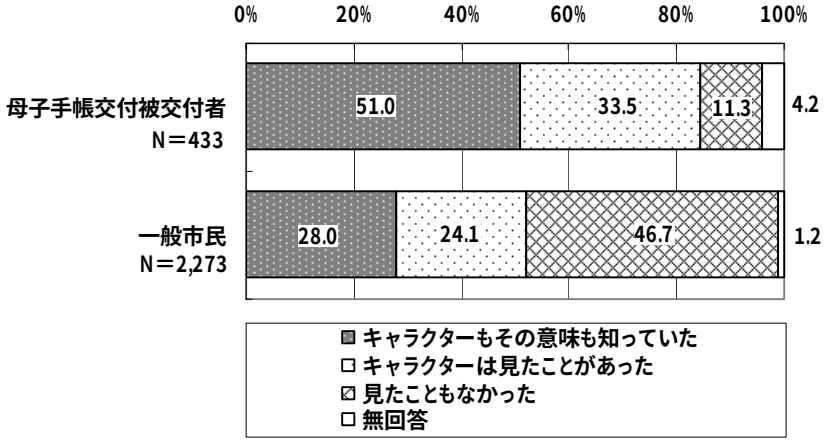
【母子手帳交付被交付者】



６－６　マームの認知、カードの認知

（１）マームの認知

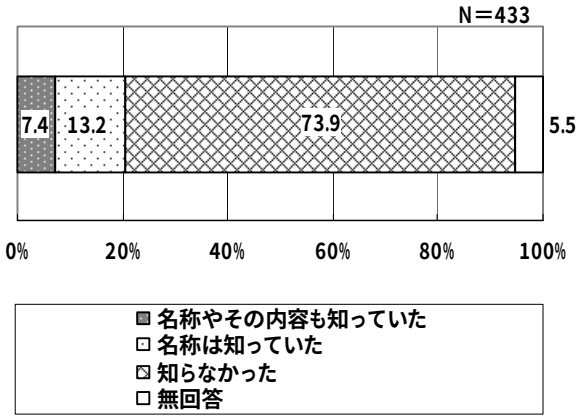
「キャラクターもその意味も知っていた」という回答は、母子手帳交付被交付者で 5 割強、一般市民で 3 割弱であった。「マーム」の意義に鑑みれば、妊婦だけでなく一般市民が、その意味も含めて知っていることが必要であり、周知状況は不十分であるといえる。



（２）母性健康管理指導事項連絡カードの認知

「名称やその内容も知っていた」と「名称は知っていた」を合わせても 2 割程度にとどまり、認知度は高くない。さらなる周知の取組が求められる。

【母子手帳交付被交付者】



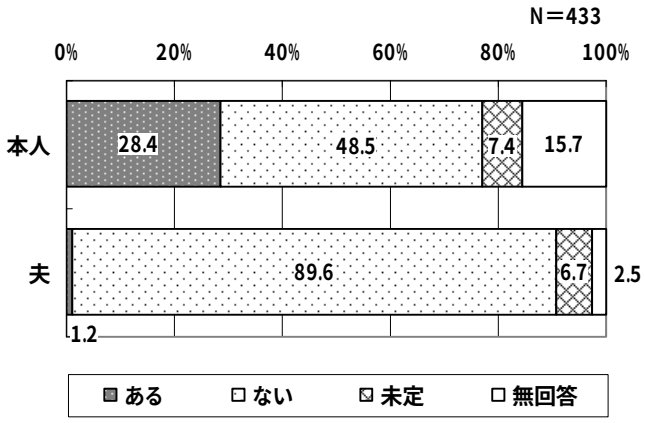
６－７　育児休業の取得予定

（１）育児休業の取得予定

夫／父親の育児休業取得予定が「ある」という回答は 1.2%とわずかである。

厚生労働省の平成19年度雇用均等基本調査による男性の育休取得率1.56%と同水準であるが、政府が 2004 年 12 月に策定した「子ども・子育て応援プラン」における 10 年後の目標値が 10%であることに鑑みると、望ましい水準とはほど遠い。

【母子手帳交付被交付者】



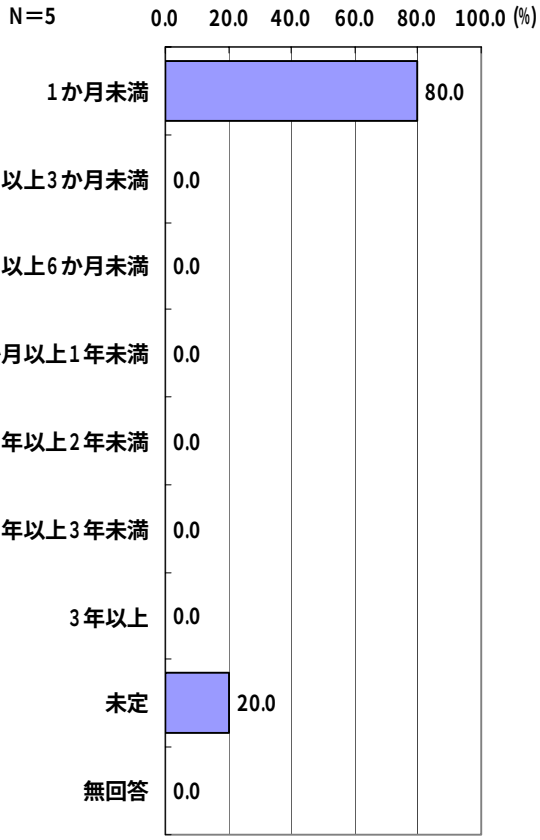
（２）【育児休業の取得予定がある人のみ回答】予定期間

妻／母親は「6 か月以上 1 年未満」「1 年以上 2 年未満」が多く、夫／父親は圧倒的に「1 か月未満」が多い。

【母子手帳交付被交付者】

＜本人＞

＜夫・パートナー＞

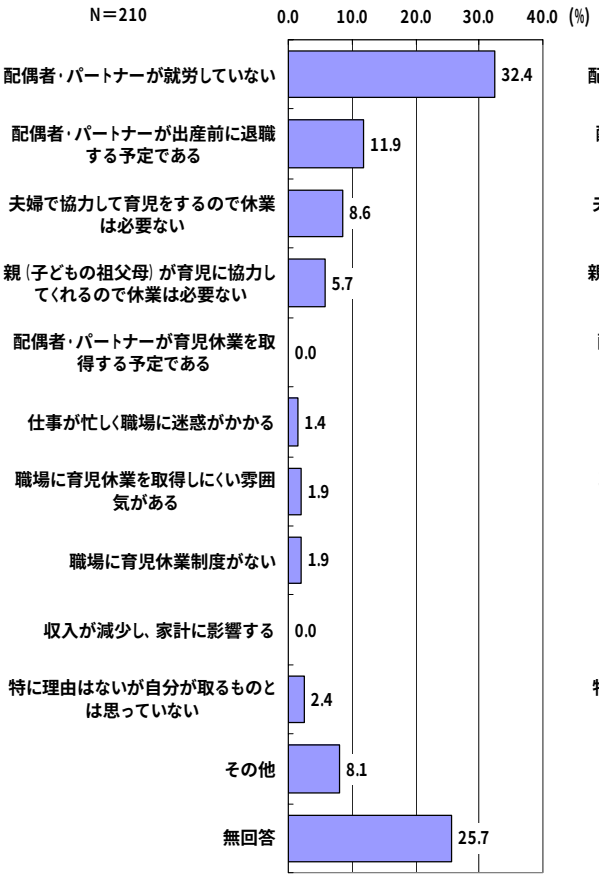


（３）【育児休業の取得予定がない人のみ回答】取得する予定がない理由

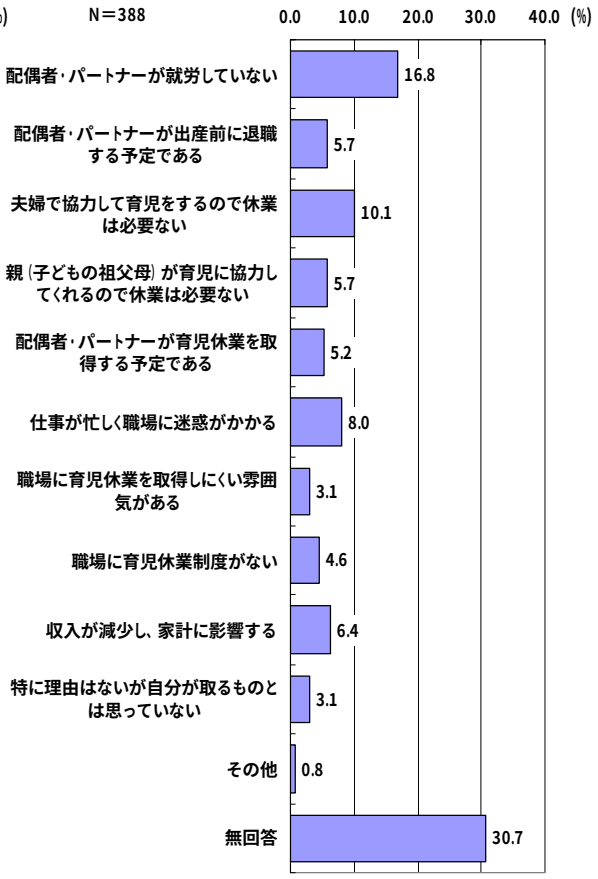
夫／父親が取得しない理由としては、その必要がないというものを除くと、「仕事が忙しく職場に迷惑がかかる」「収入が減少し、家計に影響する」といったものが比較的多い。やはり仕事と収入の問題が、男性の育休取得の障害となっていることがうかがわれる。

【母子手帳交付被交付者】

＜本人＞



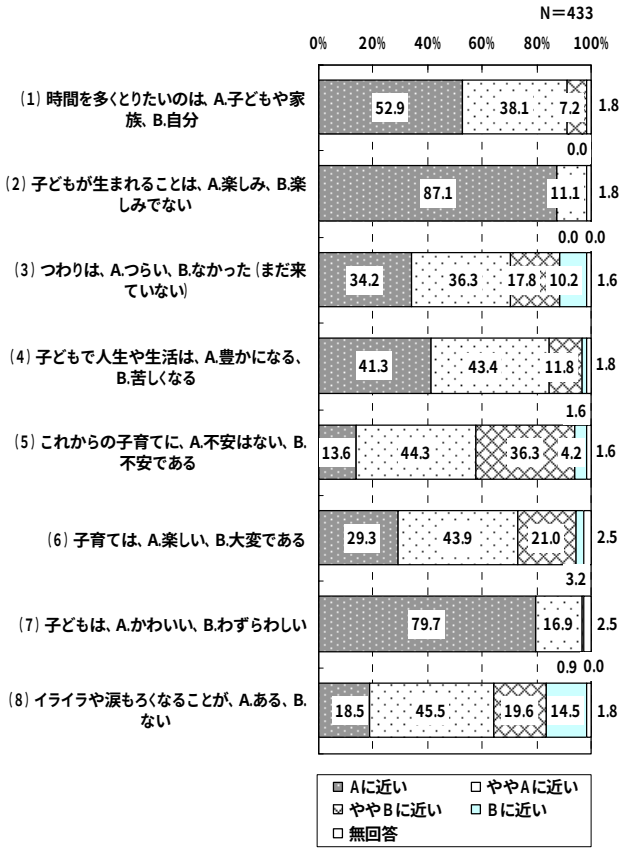
＜夫・パートナー＞



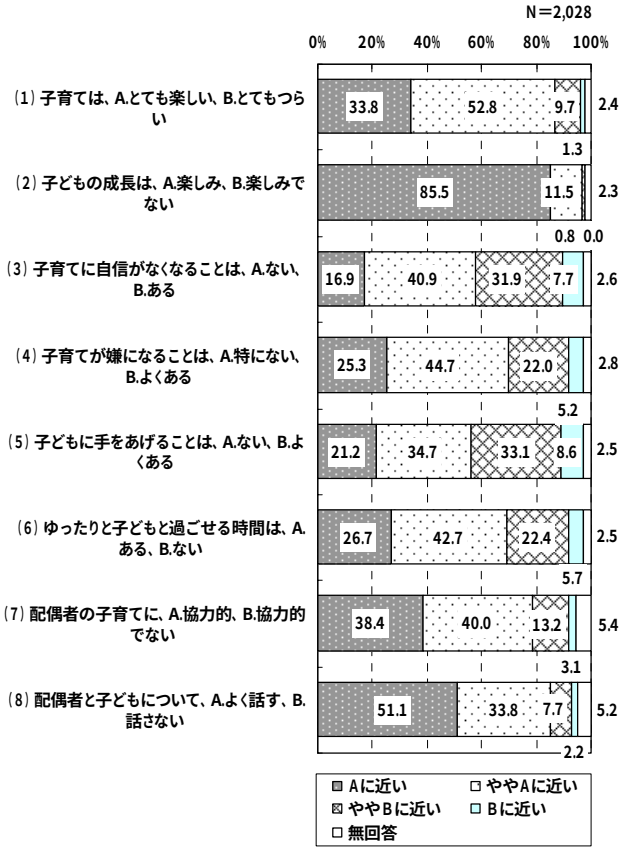
7　子育てをめぐる状況

7－1　子育てに対する思い

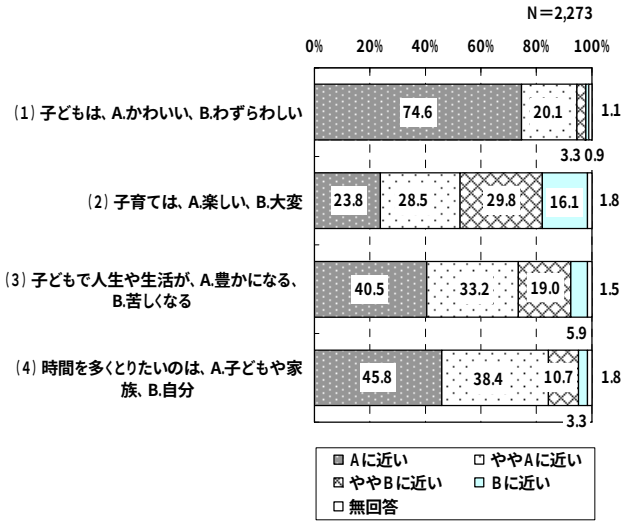
【母子手帳交付被交付者】



【就学前児童保護者】



【一般市民】

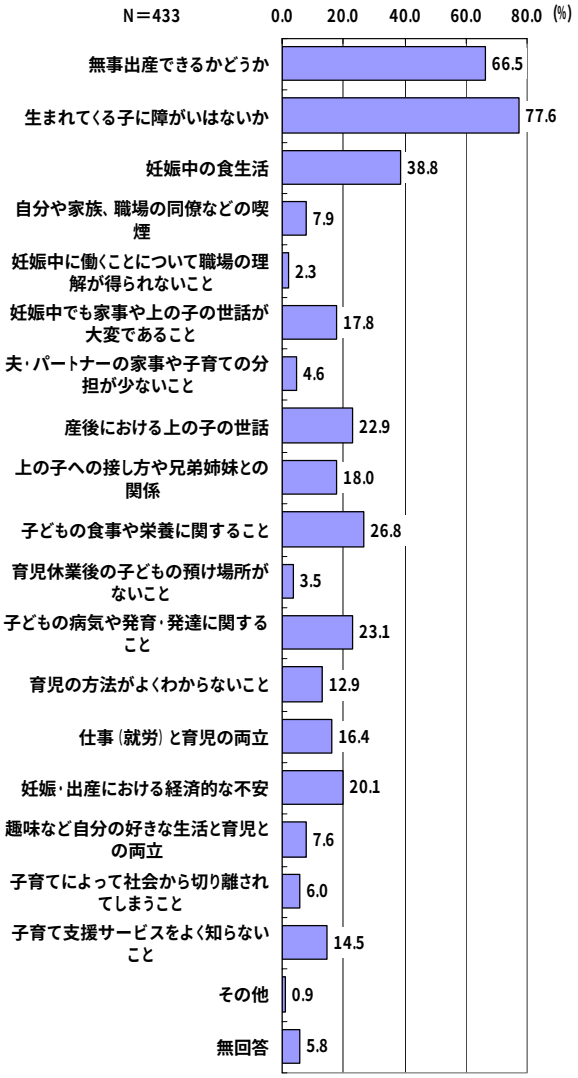


７－２　子育てに関する心配や悩み

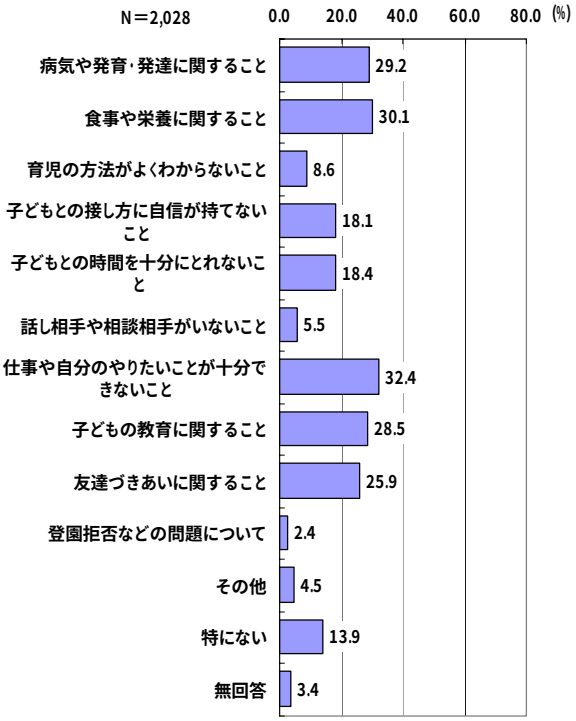
（1）子育てについて悩んでいること

母子手帳交付者は、出産の無事や子どもの障がいの有無の割合が突出しているが、就学前保護者では、気になることや悩みは多様となっている。

【母子手帳交付被交付者】



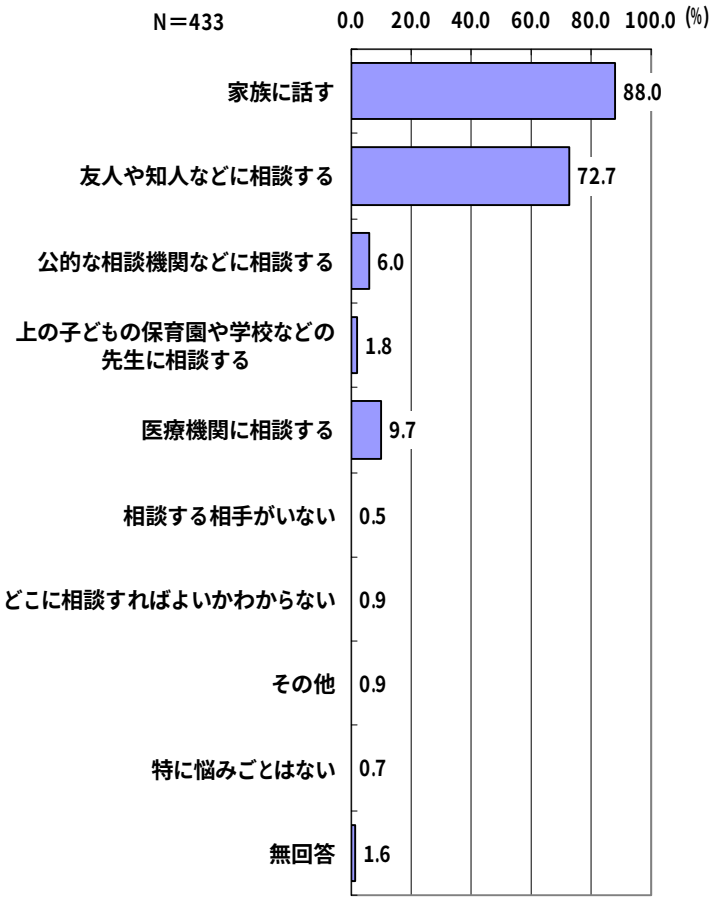
【就学前児童保護者】



（２）悩んだ時の対処法

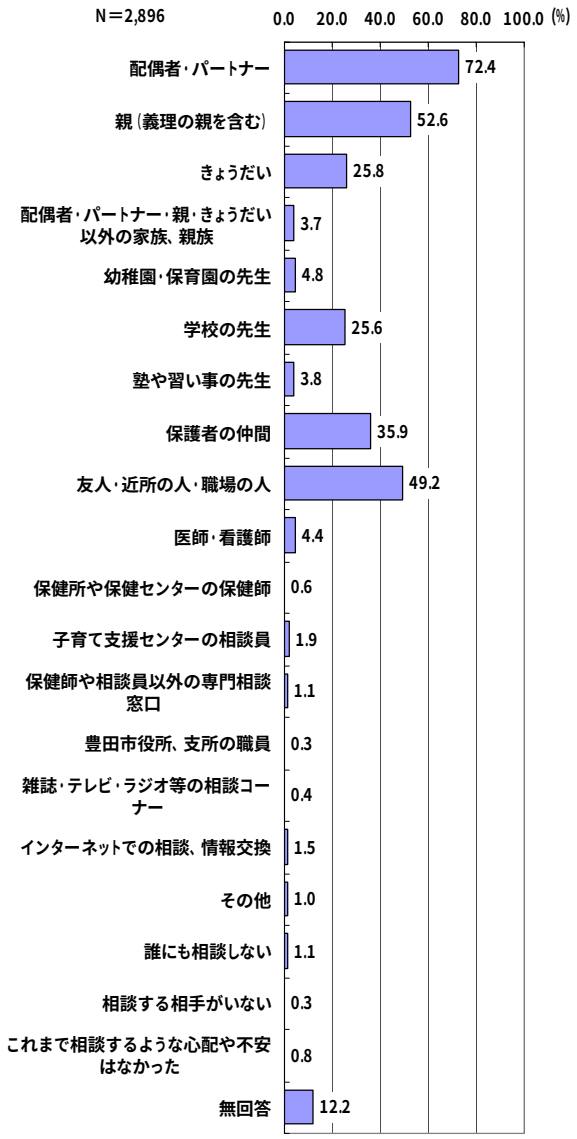
悩みは、配偶者・パートナー、親、きょうだいなど「家族に話す」という人が７～８割で最も多く、次いで「友人・近所の人・知人・職場の人」となっている。小学生保護者や中学生保護者で、「誰にも相談しない」は 1%台ときわめて少数で、いろいろと悩みながら、他人に相談しながら子育てを行っていることがわかる。小学生保護者や中学生保護者では、「学校の先生」が約 25%と多く、学校関係の悩みが少なくないこと、先生に相談している状況がうかがえる。

【母子手帳交付被交付者】

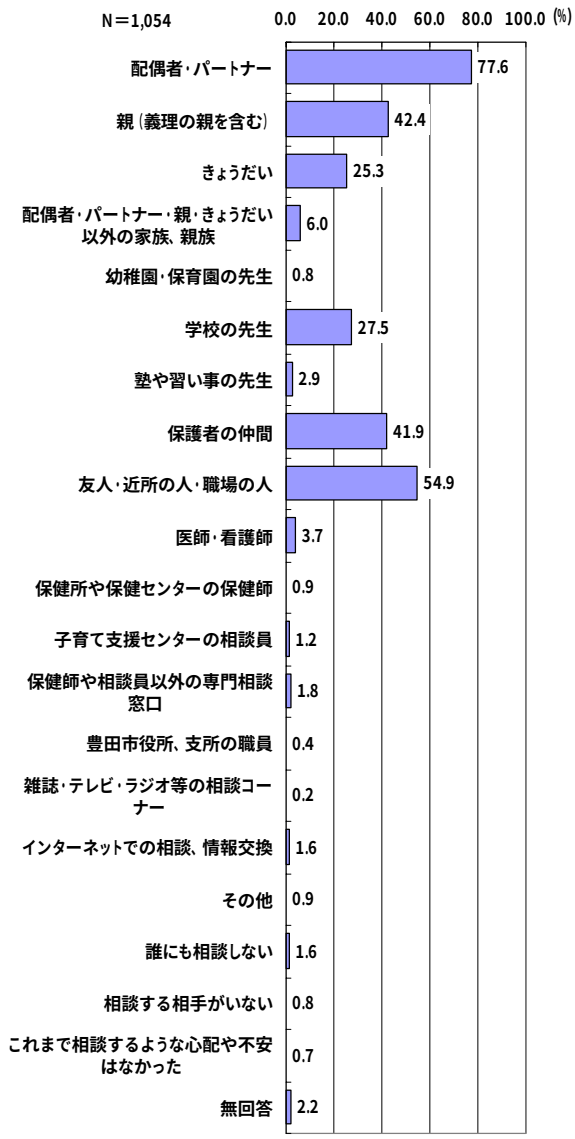


（３）悩みの相談者

【小学生保護者】

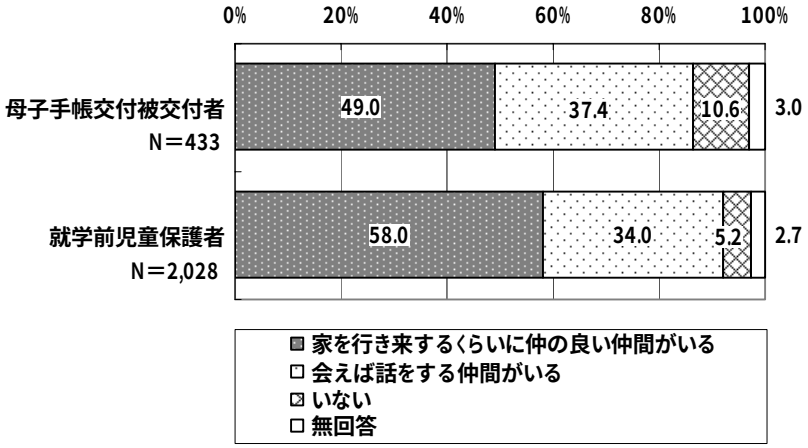


【中学生保護者】



７－３　子育て仲間

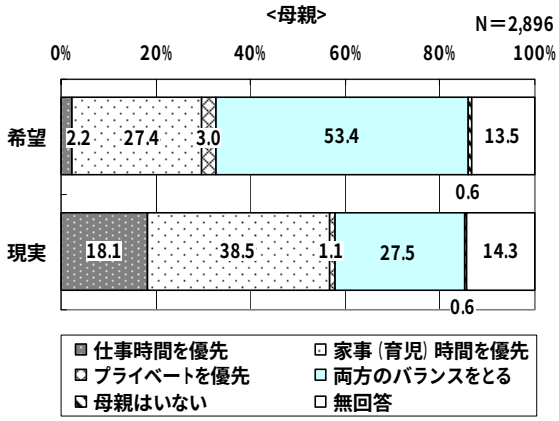
妊婦仲間や子育て仲間の有無については、母子手帳交付被交付者、就学前保護者とも、仲間がいる人が９割前後と高い割合となっている。

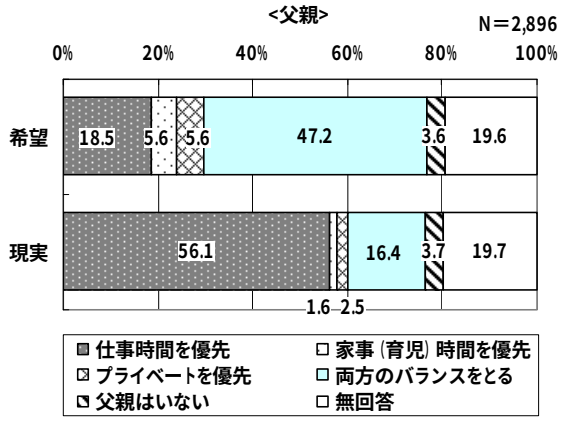


７－４　ワーク・ライフ・バランスの現状

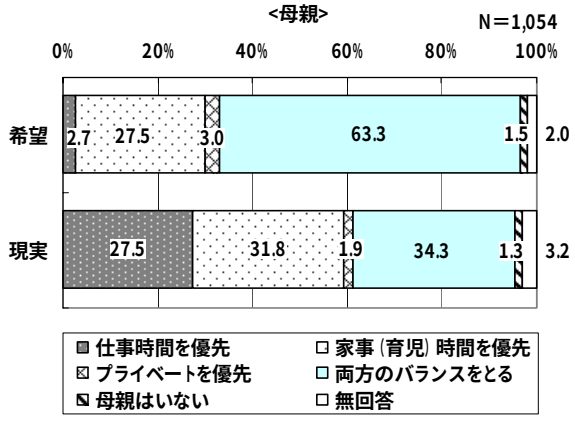
ワーク・ライフ・バランスの現状については、「両方のバランスをとる」ことを希望する割合が母親、父親とも最も多いが、現実には、「仕事時間を優先」や「家事（育児）時間を優先」となっている人が母親、父親とも過半数となっている。

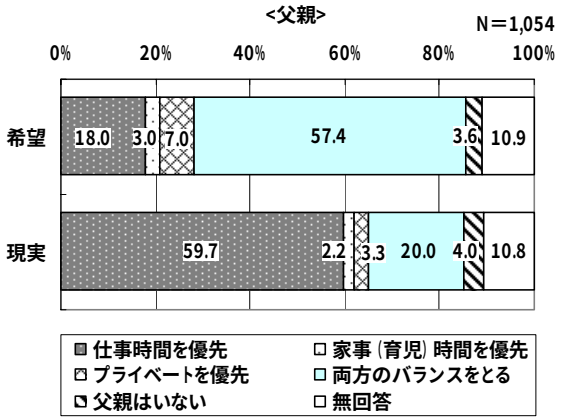
【小学生保護者】





【中学生保護者】

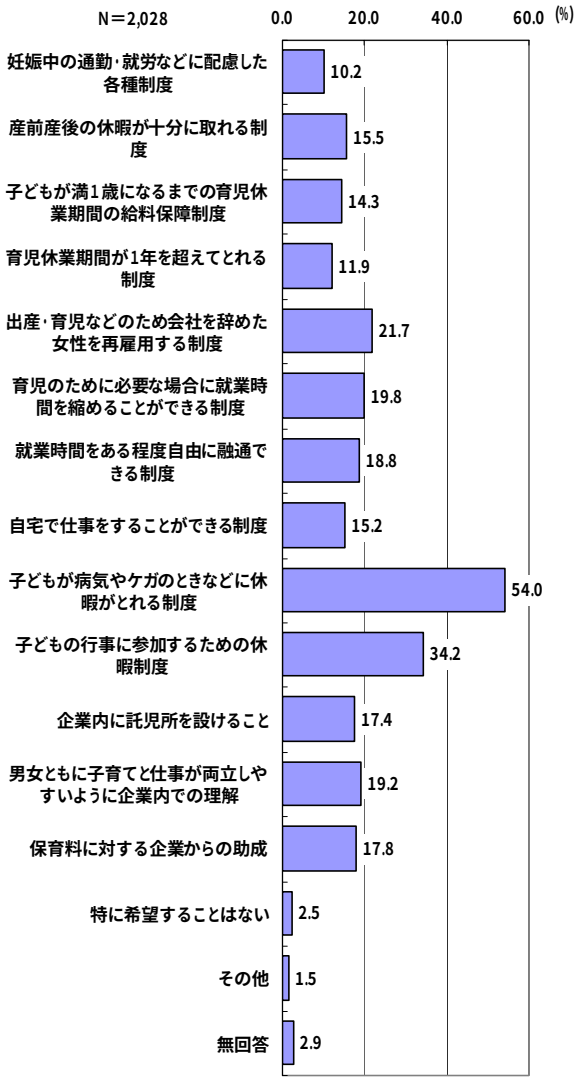




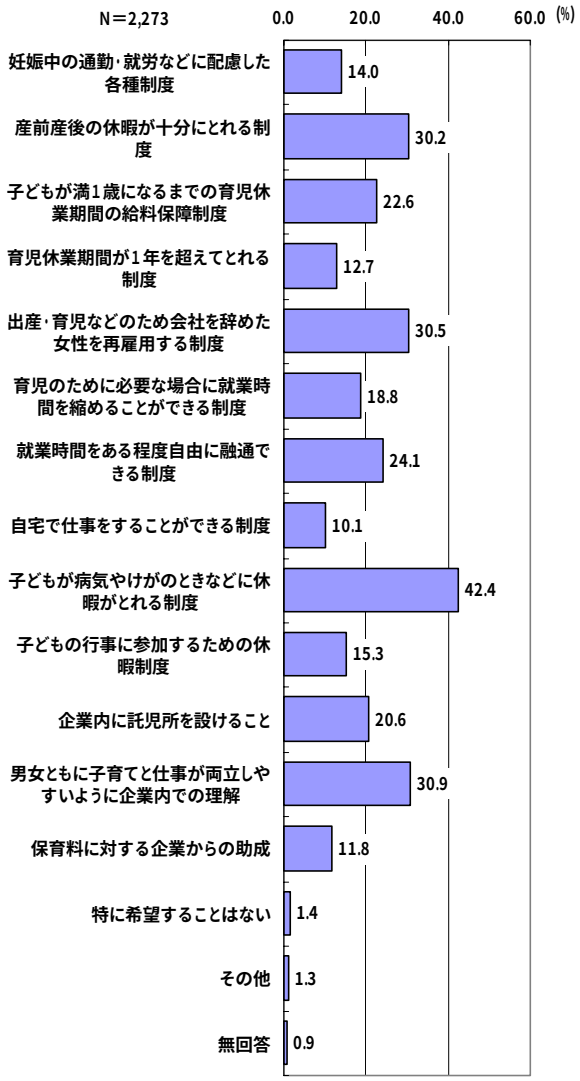
７－５　ワーク・ライフ・バランスの推進のために企業などに求める環境整備

子育てと仕事の両立のために企業などに求める環境整備について、「特に希望することはない」の割合は就学前保護者 2.5%、一般市民 1.4%とともに低く、ワーク・ライフ・バランスの推進は社会的な要請と考えられる。

【就学前児童保護者】

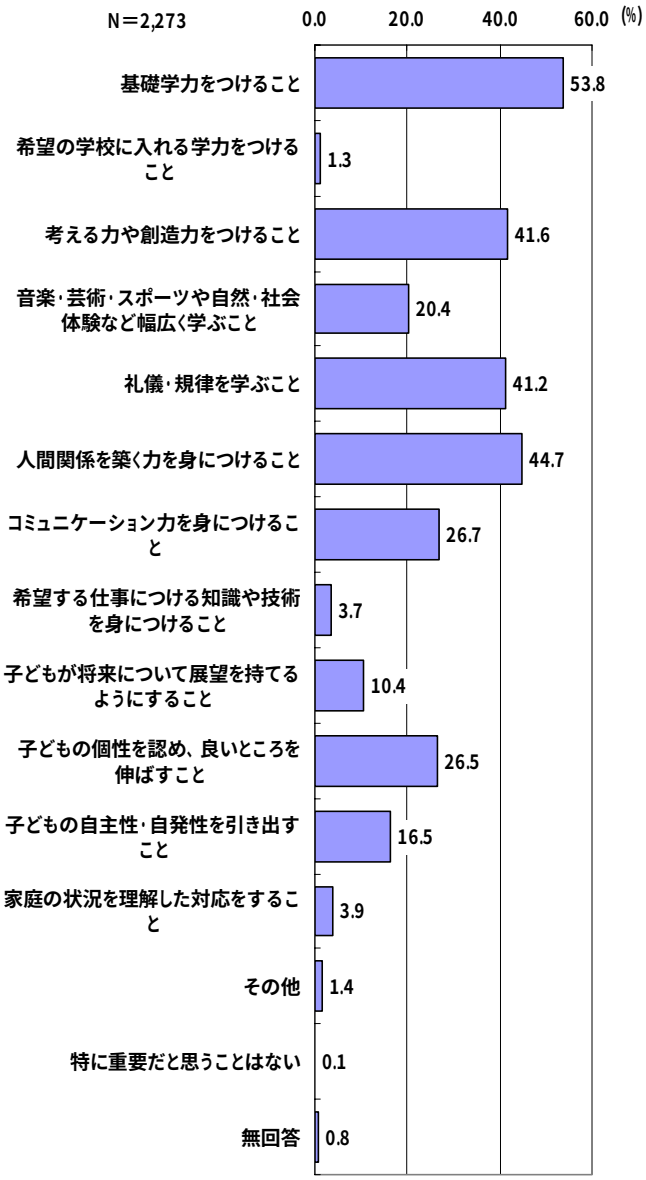


【一般市民】



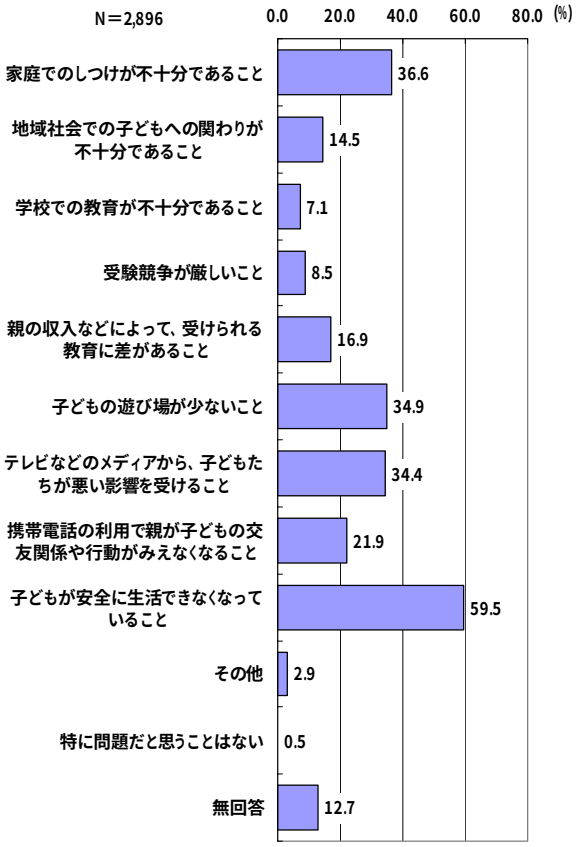
７－６　学校教育への期待

【一般市民】

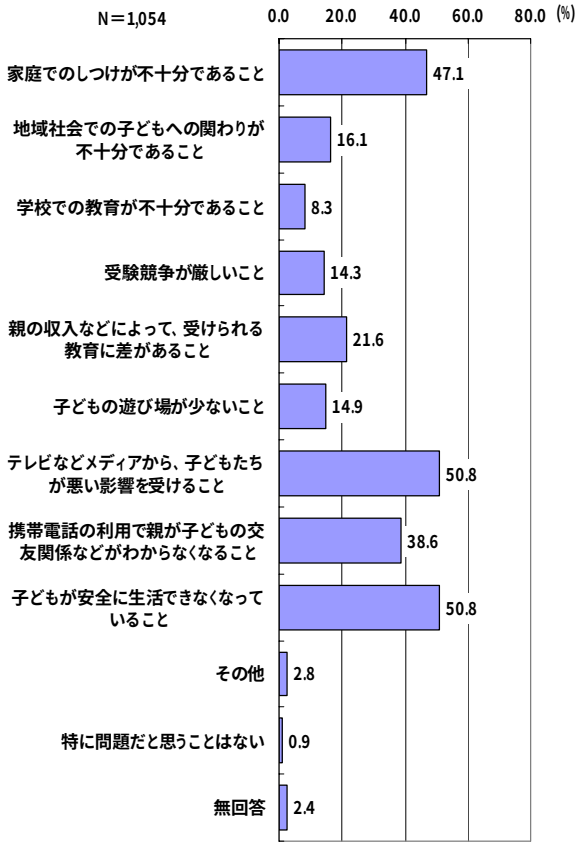


７－７　最近の子育て、教育の課題

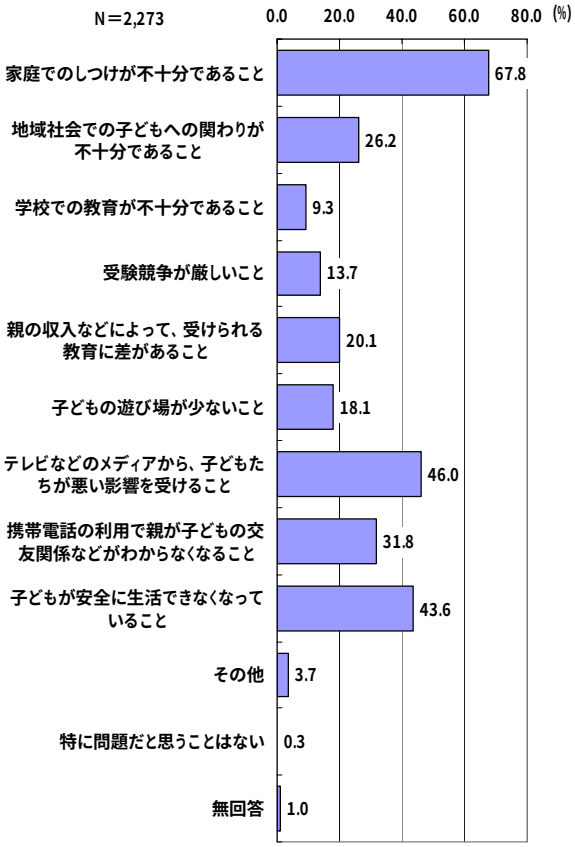
【小学生保護者】



【中学生保護者】

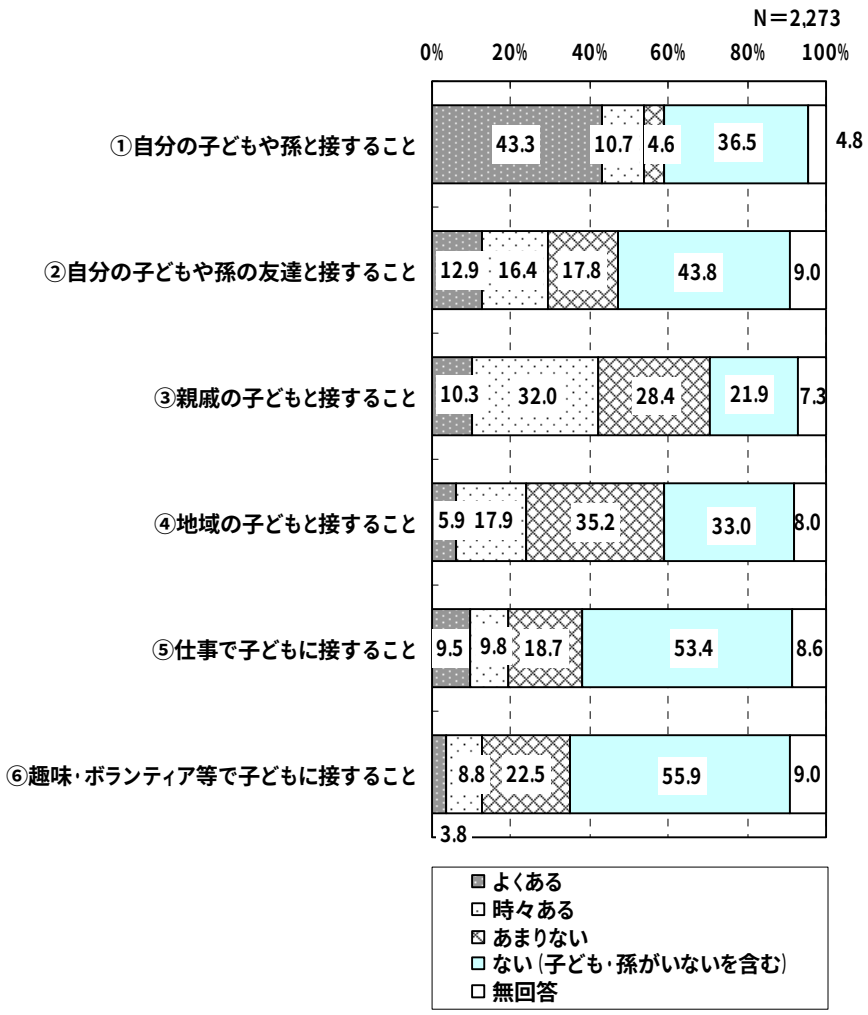


【一般市民】



７－８　子どもとのふれあい

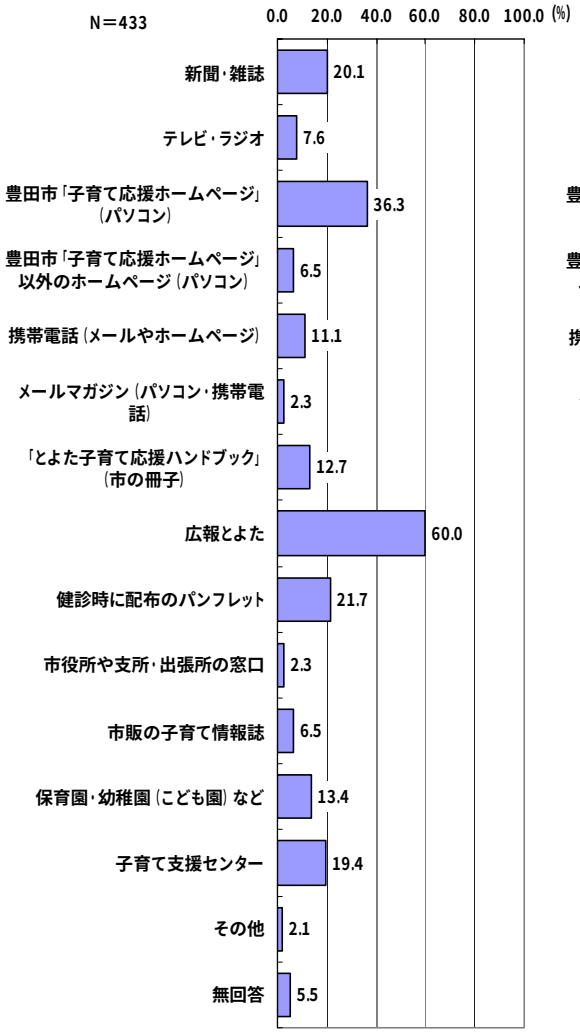
【一般市民】



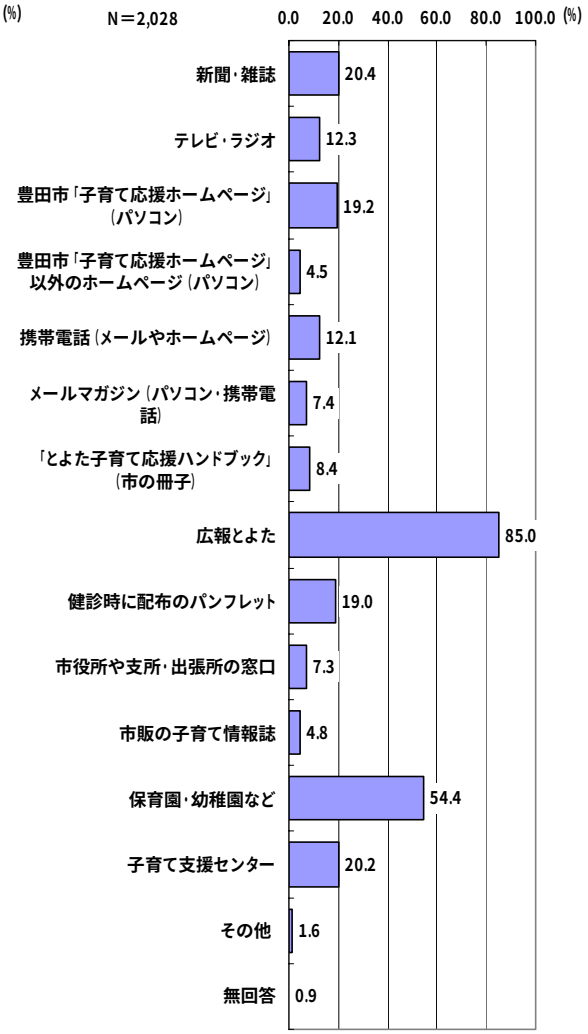
７－９　情報収集の方法

母子手帳交付被交付者の子育てや子育て支援サービスに関する情報の入手方法としては、「広報とよた」が６割で最も多く、地域の情報のニーズが多いようである。広報に次いで「市の子育て応援ホームページ」、「健診時のパンフレット」、「子育て支援センター」、「新聞・雑誌」が２割以上と様々な媒体を活用して、積極的に情報を収集していることがうかがえる。

【母子手帳交付被交付者】



【就学前児童保護者】



８　地域子育て支援施設等の利用状況・利用希望

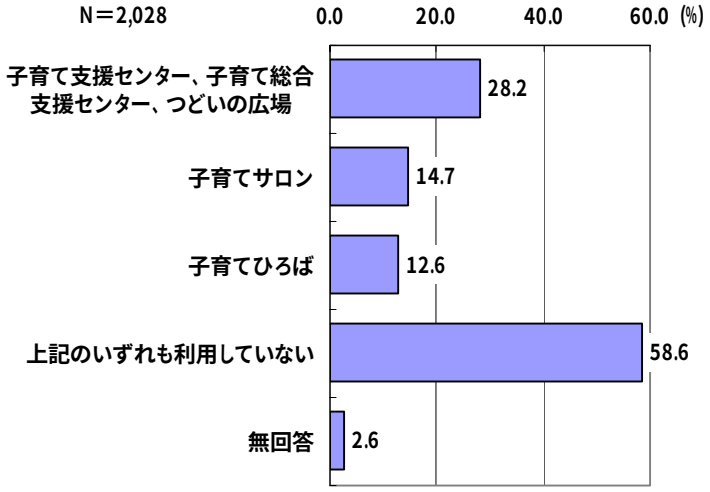
８－１　地域子育て支援施設等の利用状況

（１）利用している施設

「いずれも利用していない」という回答が６割にも上り、利用率は高いとはいえない。

利用されている施設としては、「子育て支援センター、子育て総合支援センター、つどいの広場」が３割近くと多い。

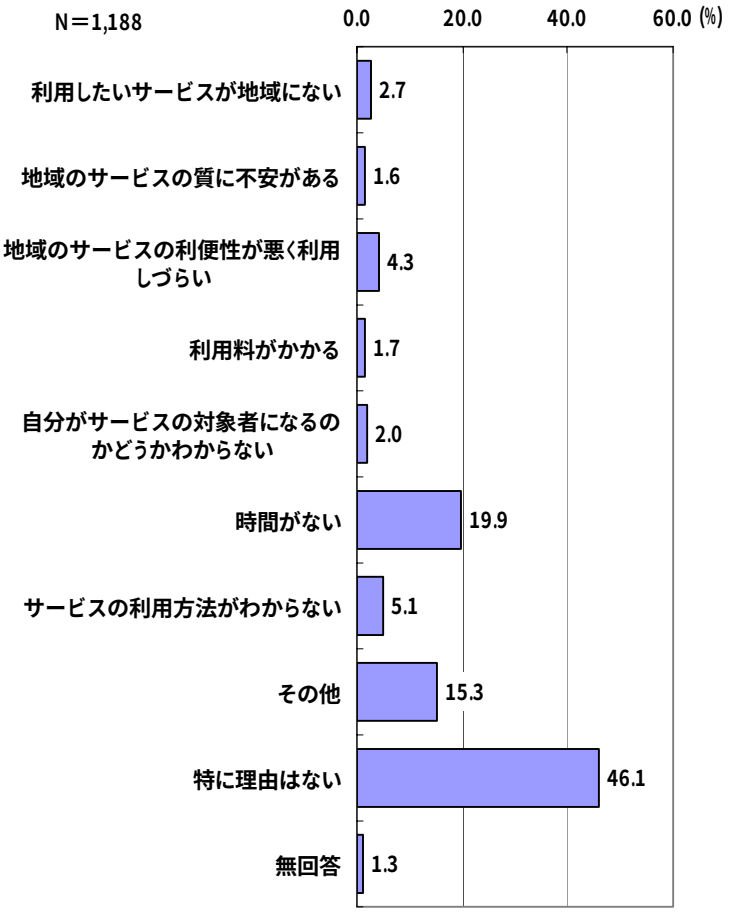
【就学前児童保護者】



（２）【いずれの施設も利用していない人のみ回答】利用していない理由

「特に理由はない」という回答が半数近くに上る。これは、利用すればどのような良いことがあるかが理解されていないことの表れとも考えられ、施設内容のさらなる周知が求められる。

【就学前児童保護者】

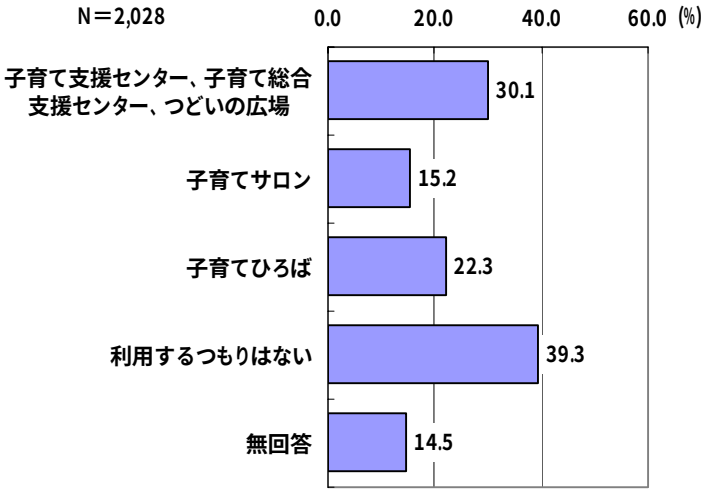


８－２　地域子育て支援施設等の利用希望

「子育てひろば」の利用希望 22.3%は、現状の利用率 12.6%（上述）と比べると高く、同施設への利用誘致を契機に地域子育て支援施設全般の利用を拡大するという取組も有効と考えられる。

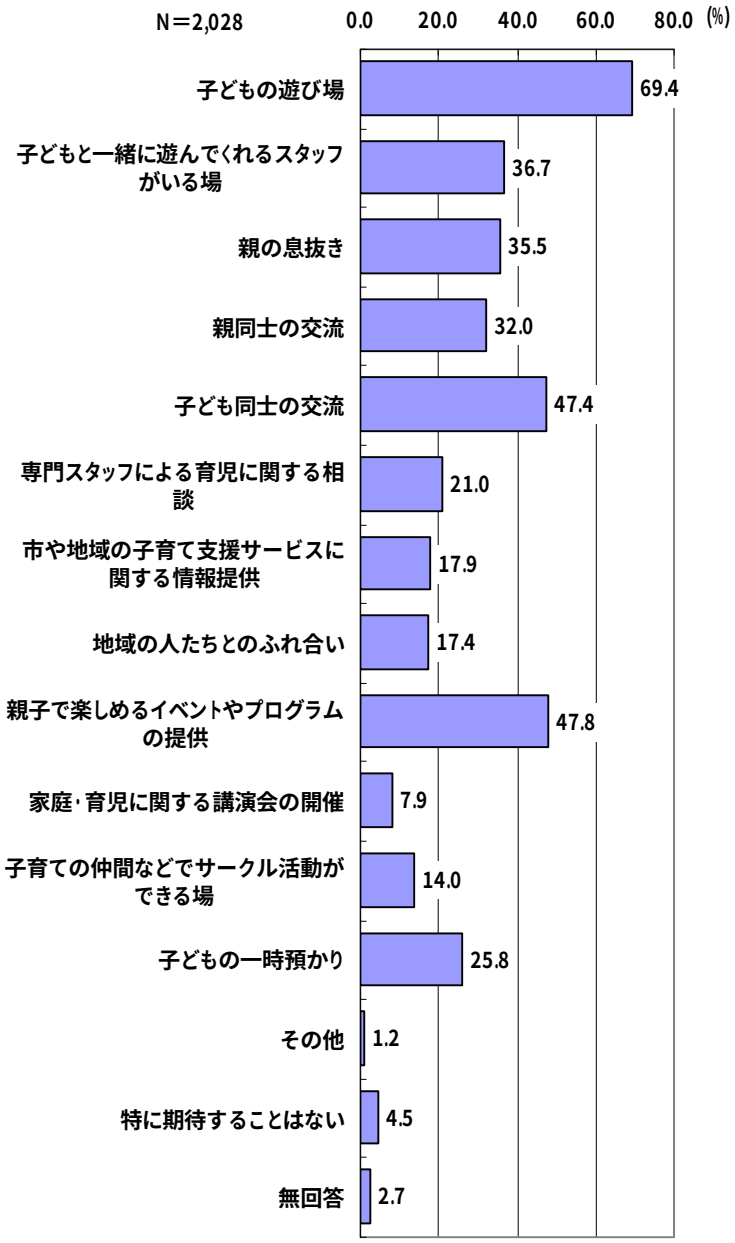
「利用するつもりがない」という回答が多いことは、上述した点と同じく、利用すればどのような良いことがあるかが理解されていないことの表れとも考えられ、施設内容のさらなる周知が求められる。

【就学前児童保護者】



８－３　広場事業に期待する機能

【就学前児童保護者】



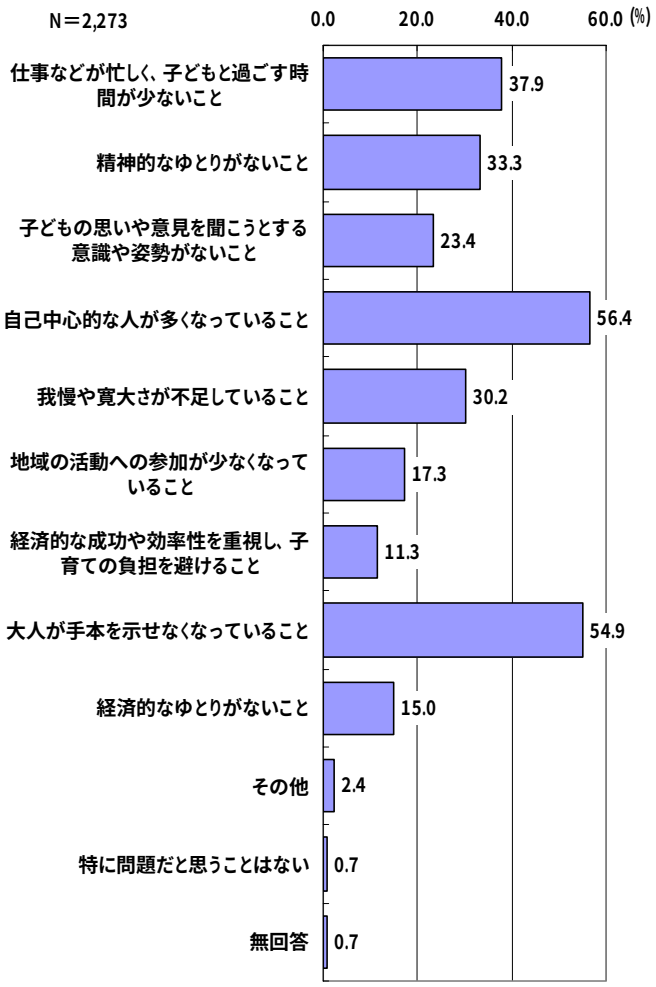
９　豊田市の子育て支援

９－１　地域活動への参加

（１）子どもを健全に育てていくために、現在の大人に足りないこと

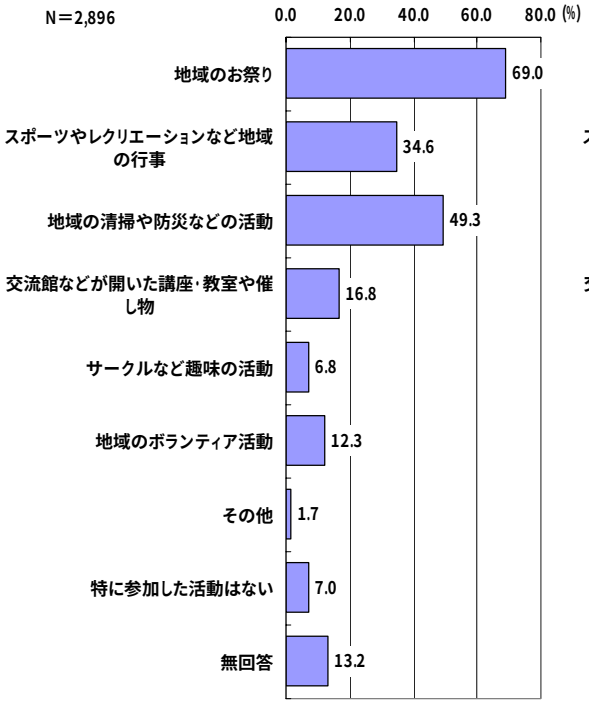
子どもを健全に育てていくために現在の大人に足りないことについては、それぞれの項目についてそうだと感じる人が少なくない。自分の子どもや地域の子どもの育成という視点で、大人が自分自身の生き方や生活を見つめなおすことが必要なのではないかと考えさせられる結果となっている。

【一般市民】

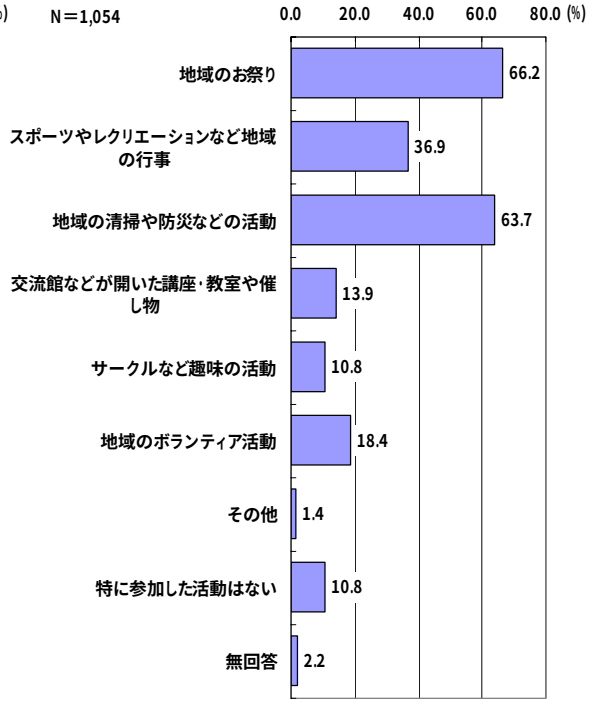


（２）地域活動への参加

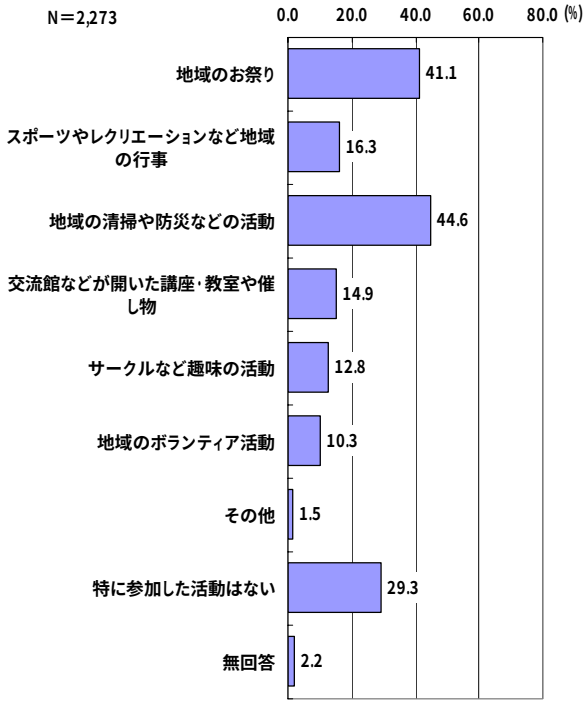
【小学生保護者】



【中学生保護者】



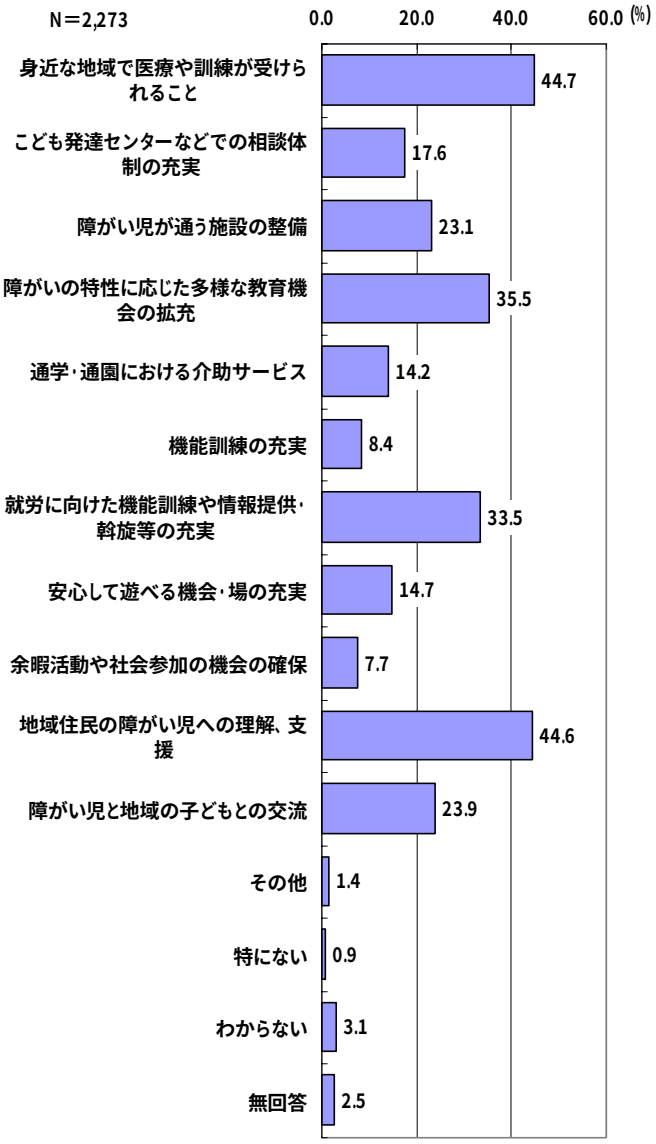
【一般市民】



９－２　豊田市に期待する子育て支援

（１）障がいのある子どもが地域で育っていくために必要なこと

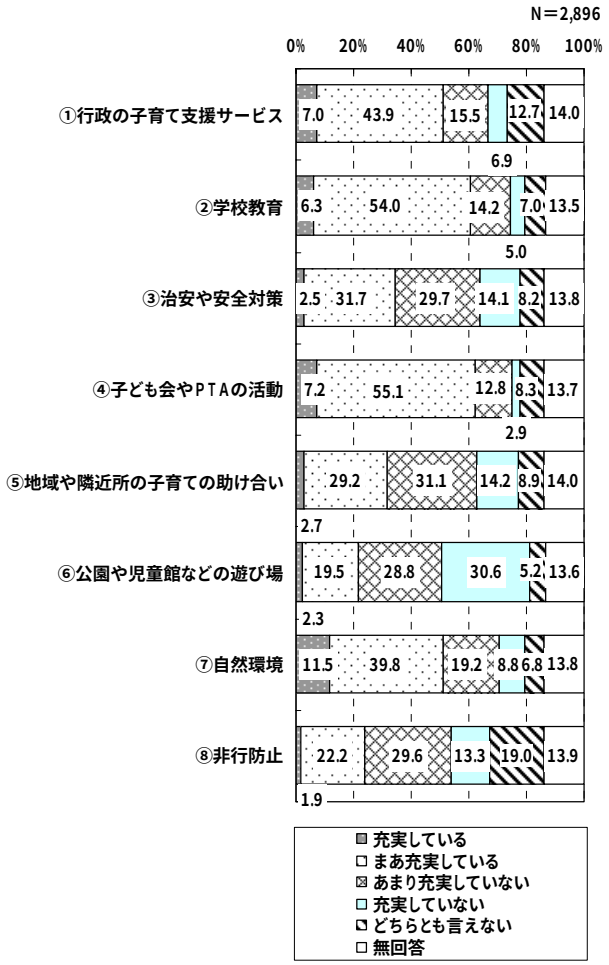
【一般市民】



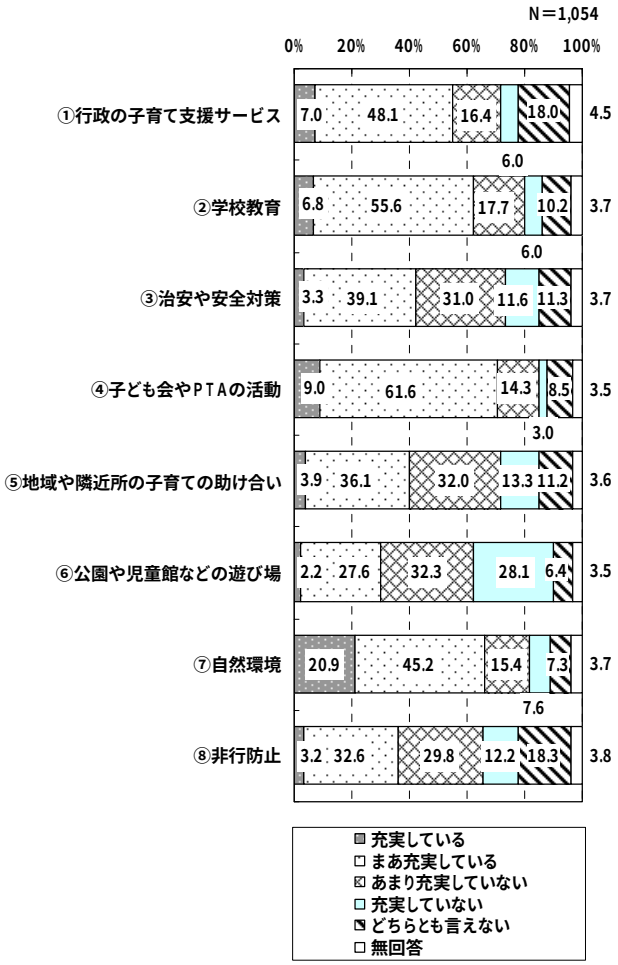
９－３　豊田市は子育てしやすいまちか、３年前との比較

（１）豊田市について

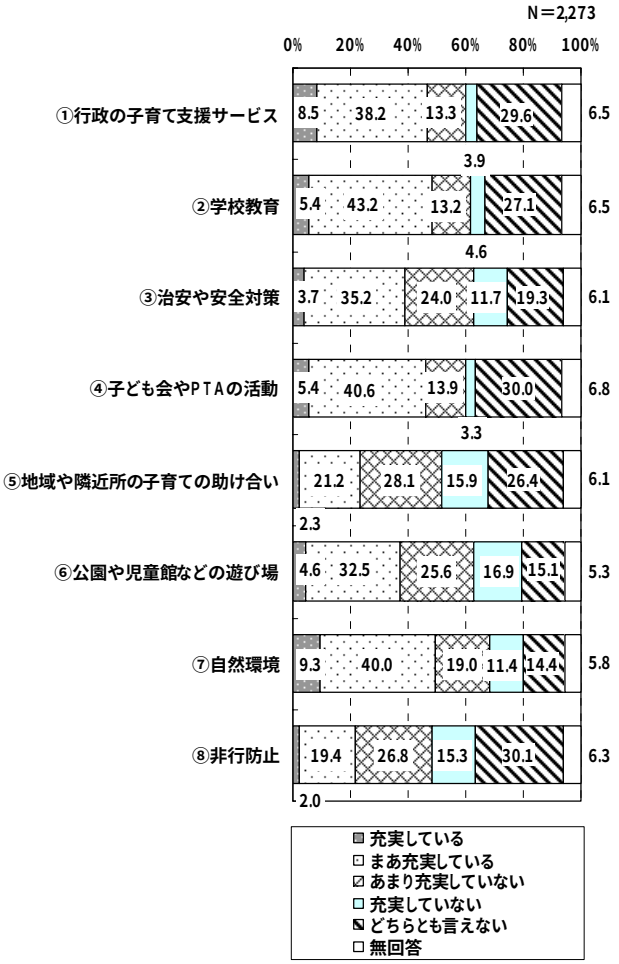
【小学生保護者】



【中学生保護者】



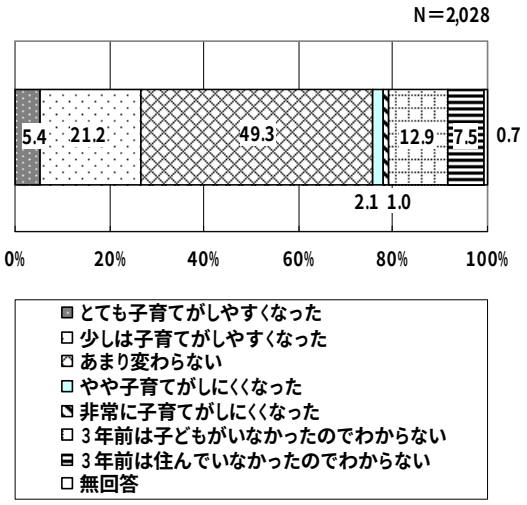
【一般市民】

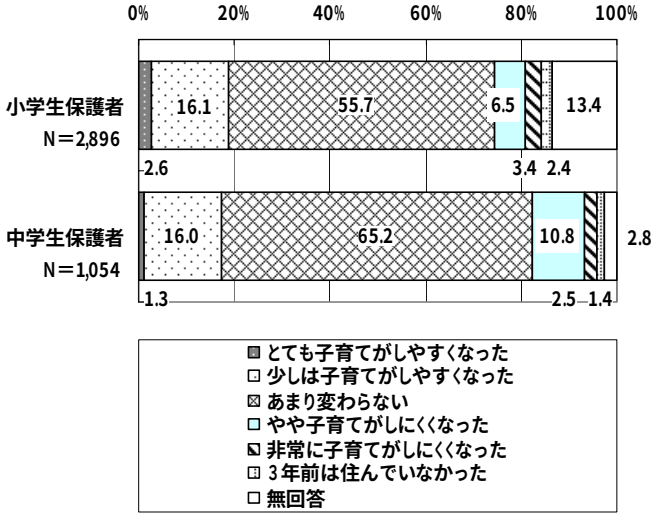


（２）豊田市は子どもが暮らしやすいまちか（３年前との比較）

どの対象属性においても、「あまり変わらない」が最も多いが、「とても子育てがしやすくなった」と「少しは子育てがしやすくなった」という肯定的な評価が２割前後となっており、「とよた子どもスマイルプラン」及び「とよた子どもスマイルプラン青少年編」の政策や事業の成果がうかがえる。

【就学前児童保護者】





Ⅲ 就学前児童保育サービス、放課後児童クラブ等の利用状況・利用希望等

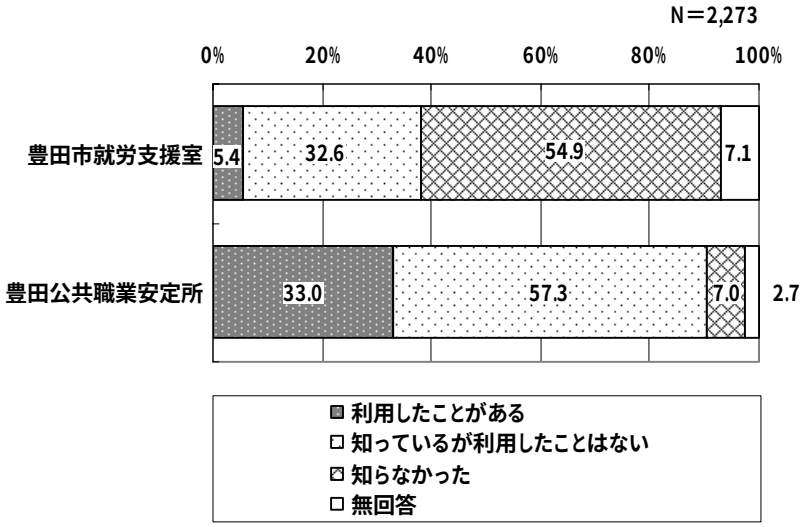
１　就学前児童保育サービス等の利用状況・利用希望等

１－１　就労希望、就労支援機関の利用

（１）就労支援機関の利用

豊田市就労支援室の利用・周知度は、職業安定所よりかなり低い。支援室の活動内容のさらなる周知が望まれる。

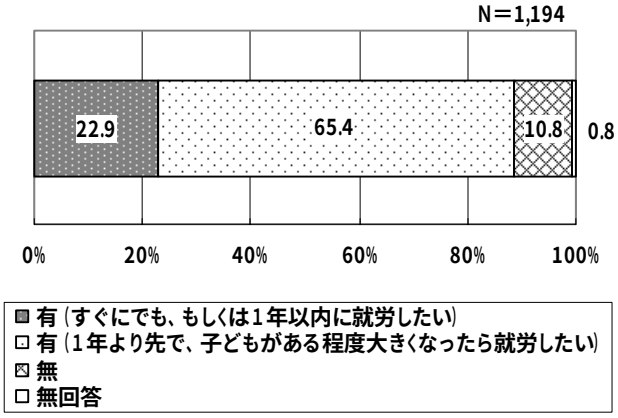
【一般市民】



（２）母親の就労希望

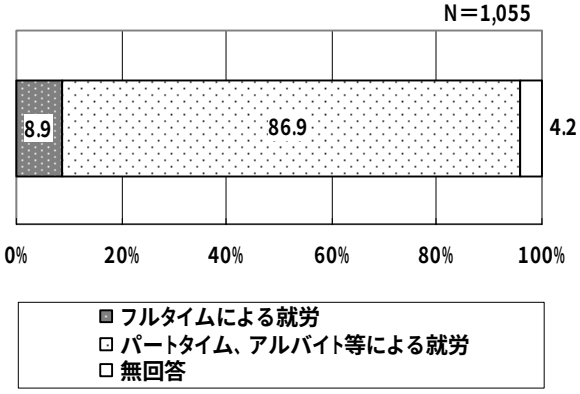
①【就労希望がある人のみ回答】就労希望

【就学前児童保護者】



②【就労希望がある人のみ回答】希望する就労形態

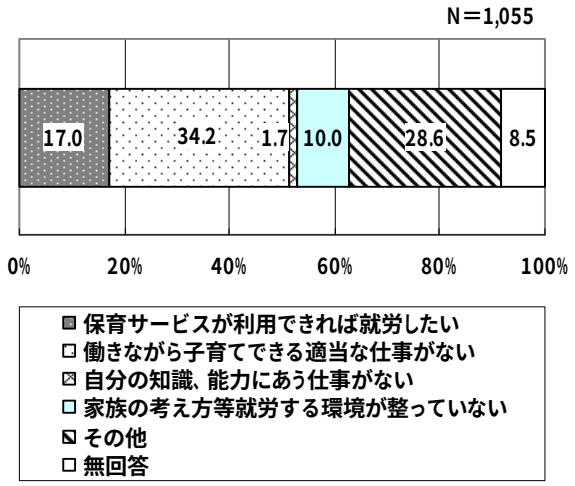
【就学前児童保護者】



③【就労希望がある人のみ回答】就労希望はあるが働いていない理由

「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が 3 分の 1 を占め、最も多かった。「保育サービスが利用できれば就労したい」は 17.0%であった。

【就学前児童保護者】

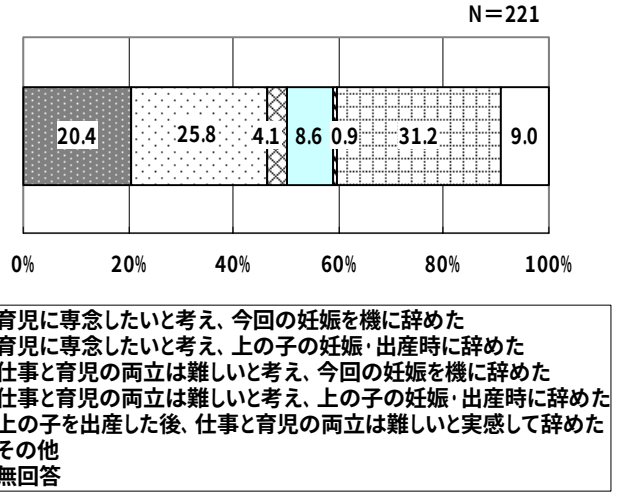


④【出産前後に離職をした人のみ回答】仕事を辞めた理由・きっかけ

「育児に専念したい」という理由が合計で半数近くに上り、最も多い。

「仕事と育児の両立は難しい」は 13.6%にとどまるが、これは仕事を辞めた（辞められた）人の間での割合であり、両立に苦労しながら仕事を続けている人が大勢いるのが現実であると思われる。

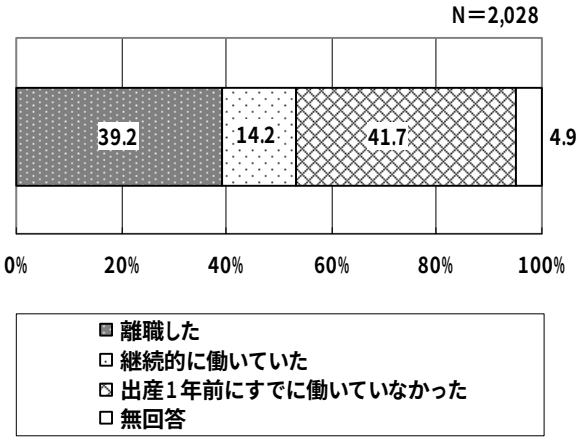
【母子手帳交付被交付者】



⑤出産前後の離職

「出産 1 年前にすでに働いていなかった」という人を除くと、出産前後に「離職した」人と「継続的に働いていた」との比率は 73：27 である。

【就学前児童保護者】

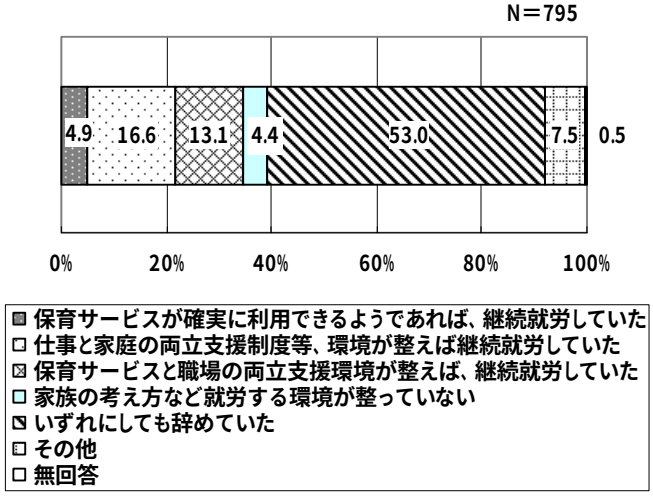


⑥【出産前後に離職をした人のみ回答】保育サービスの環境による就労継続

「いずれにしても辞めていた」という回答が半数超で最も多い。

一方、環境が整備されていれば「継続就労していた」という人も 4 割ほどおり、その環境としては「保育サービス」もさることながら「仕事と家庭の両立支援」を挙げる声が多い。

【就学前児童保護者】

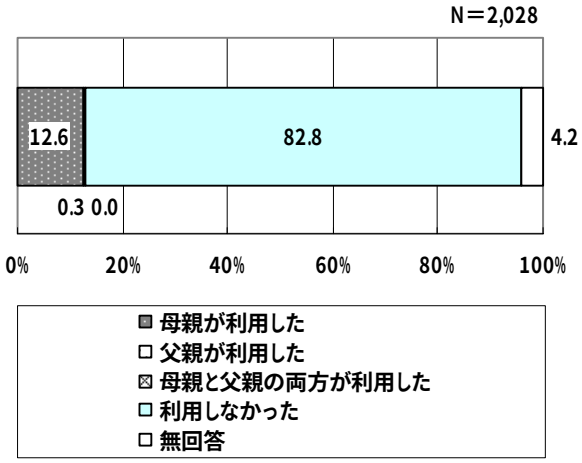


１－２　育児休業の取得状況

①育児休業の利用

育児休業を利用したケースは全体の１割強であり、利用者のほとんどは母親であった。

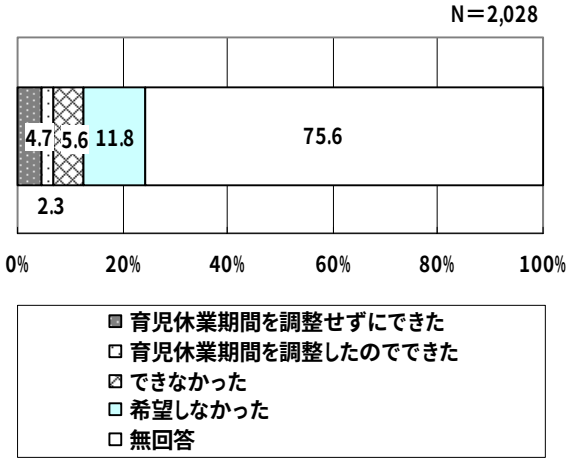
【就学前児童保護者】



②育児休業明けに希望する保育サービスを利用できたか

「希望しなかった」および無回答を除くと、「育児休業期間を調整せずに利用できた」が 4 割弱、「育児休業期間を調整したので利用できた」が 2 割弱、「利用できなかった」が 4 割強であった。

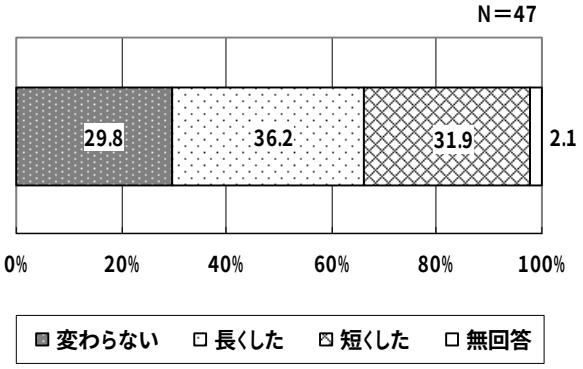
【就学前児童保護者】



③【育児休業期間を調整したので、希望する保育サービスを利用できた人のみ回答】保育サービスの利用可否による育児休業期間の変更

育児休業期間を「長くした」人は 36.2%、「短くした」人は 31.9%で、合わせて 7 割近くの人が期間を変更していた。

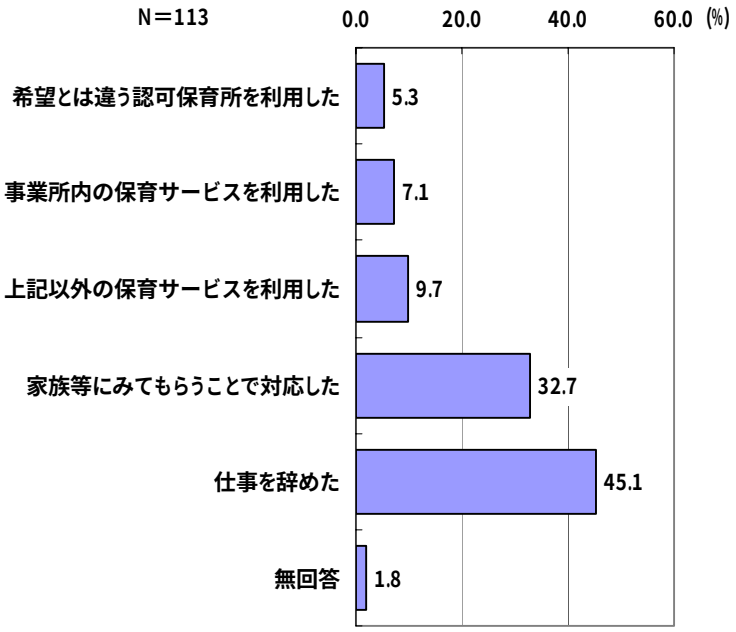
【就学前児童保護者】



④【希望する保育サービスを利用できなかった人のみ回答】希望する保育サービスが利用できなかった時の対応

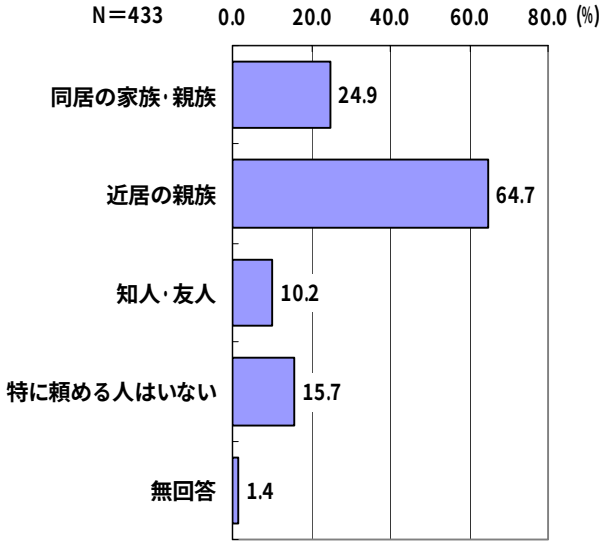
希望する保育サービスが利用できなかった場合、他のサービスを利用して対応できた人は少数であり、「仕事を辞めた」人の 45.1%、「家族等にみてもらうことで対応した」人の 32.7%が圧倒的に多かった。

【就学前児童保護者】



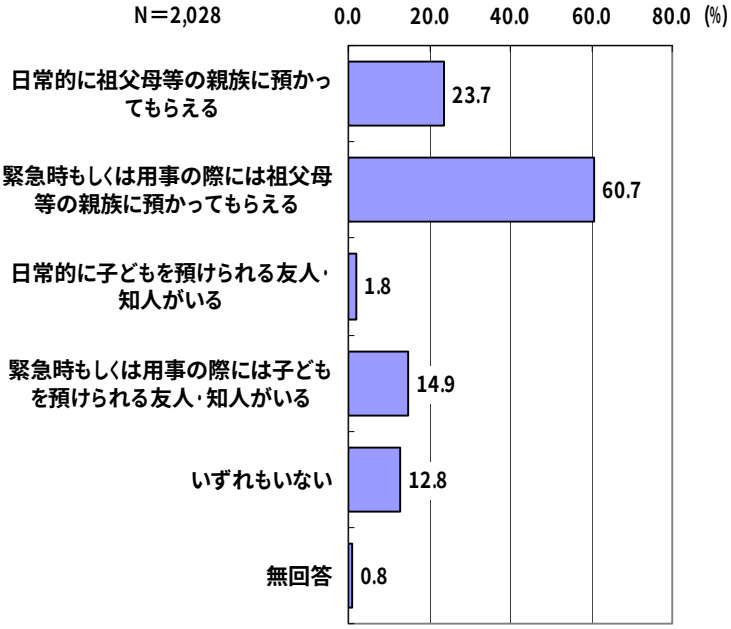
⑤子どもの世話を頼めそうな人

【母子手帳交付被交付者】



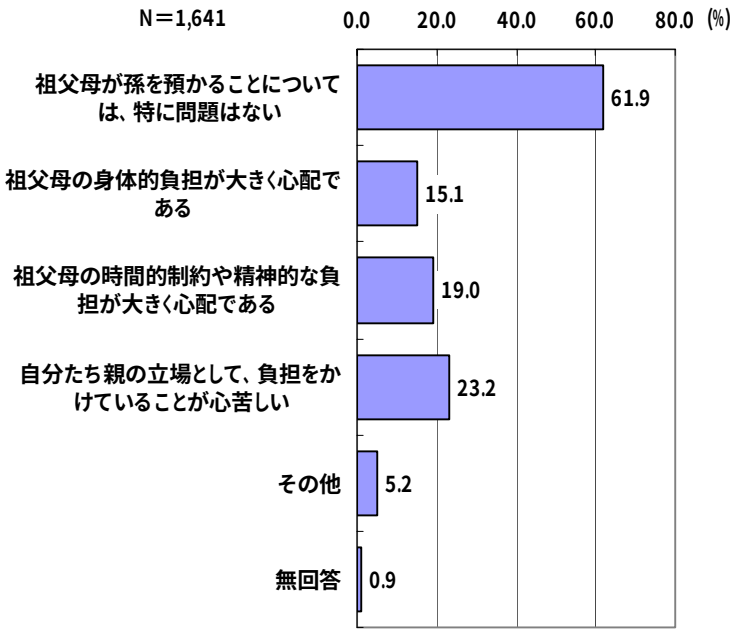
⑥日頃、子どもを預かってもらえる人

【就学前児童保護者】



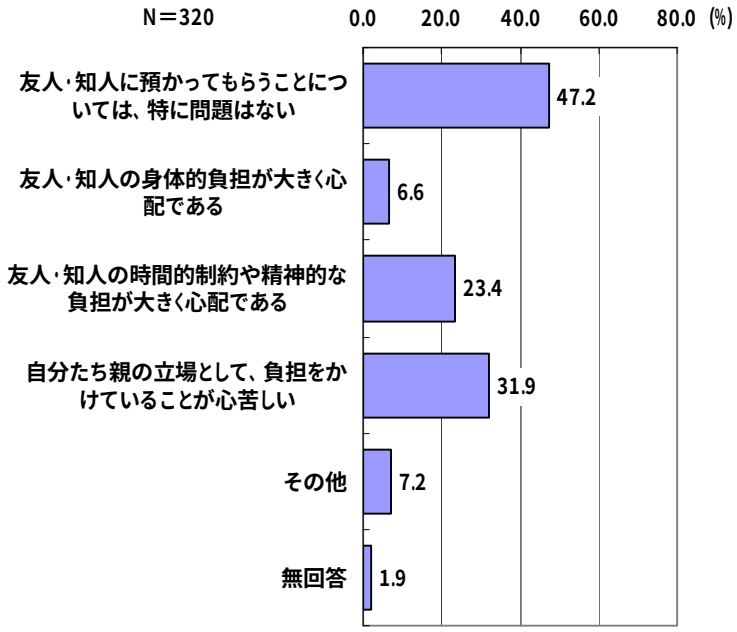
⑦【祖父母等の親族に預かってもらえる人のみ回答】祖父母に預かってもらっている状況

【就学前児童保護者】



⑧【子どもを預けられる友人・知人がいる人のみ回答】友人や知人に預かってもらっている状況

【就学前児童保護者】

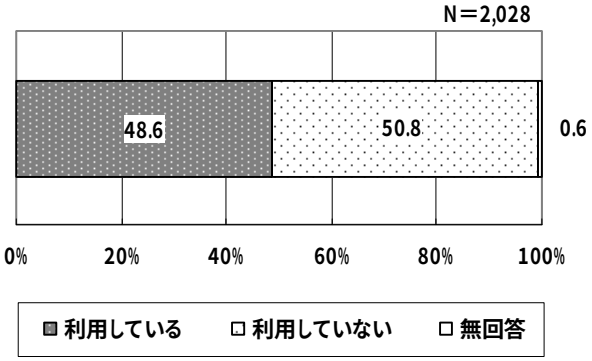


１－３　就学前児童保育サービスの利用ニーズ

（１）保育サービスの利用状況

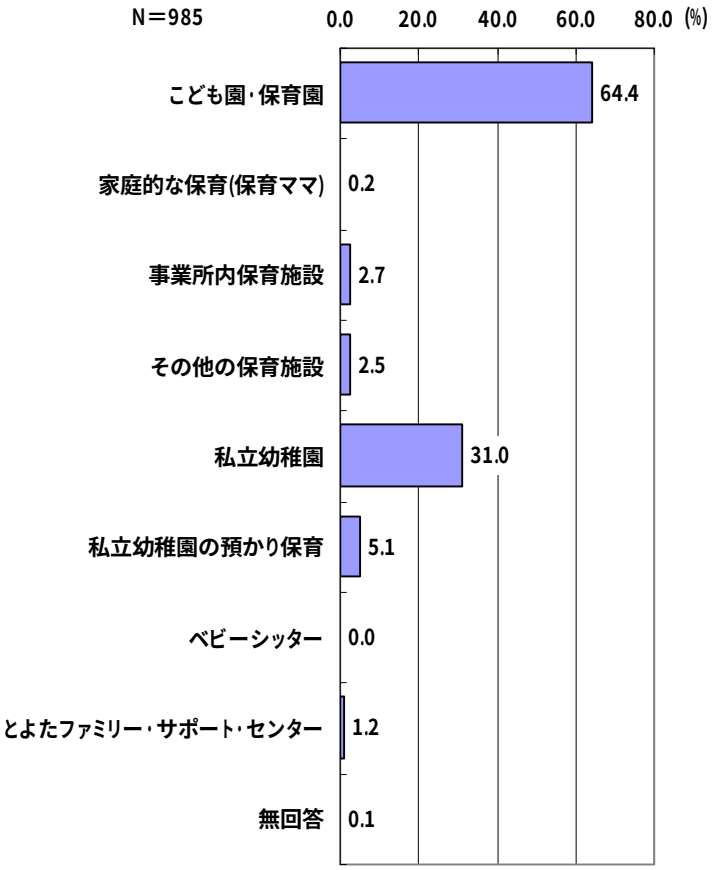
①現在の保育サービスの利用の有無

【就学前児童保護者】



②【保育サービスを利用している人のみ回答】現在利用している子育て支援サービス

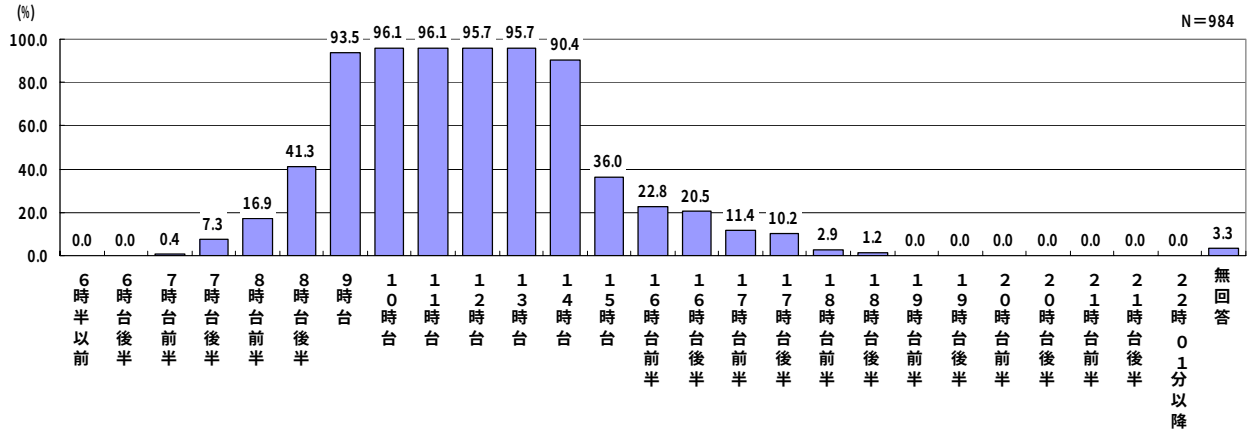
【就学前児童保護者】



③【保育サービスを利用している人のみ回答】保育サービス利用時間

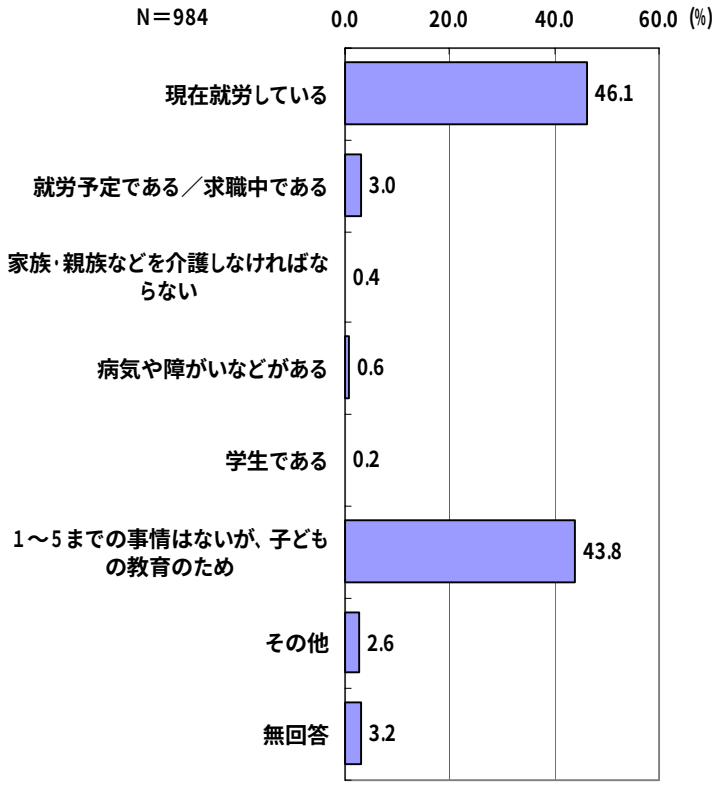
サービス利用率 10%以上の時間帯は 8:00～18:00、5%以上の時間帯は 7:30～18:00、すべての利用時間帯は 7:00～19:00 であった。

【就学前児童保護者】



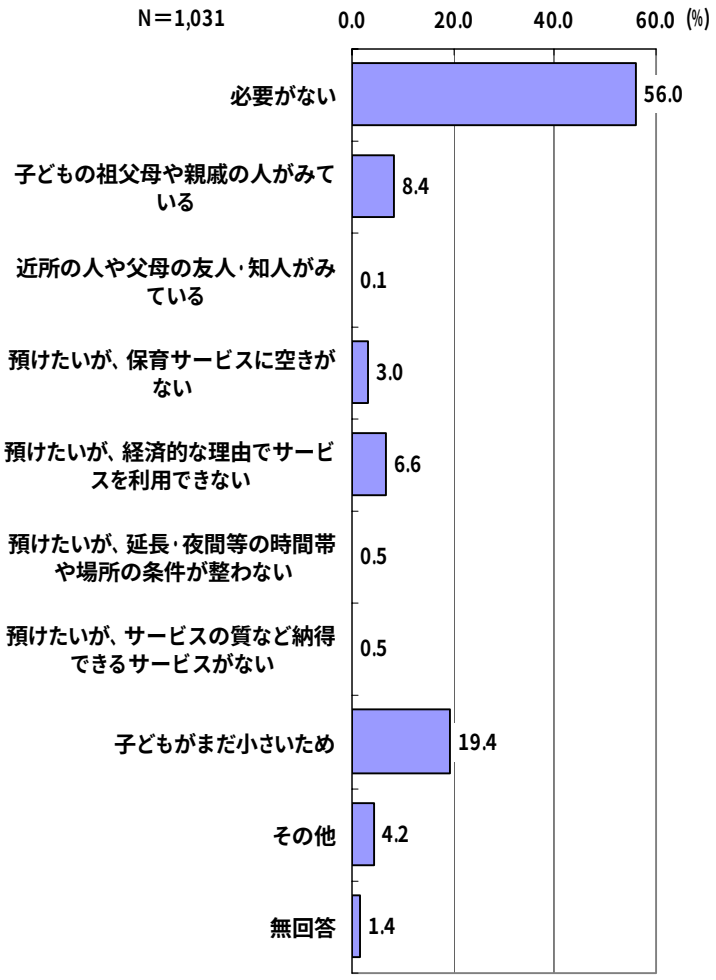
④【保育サービスを利用している人のみ回答】保育サービスを利用している理由

【就学前児童保護者】



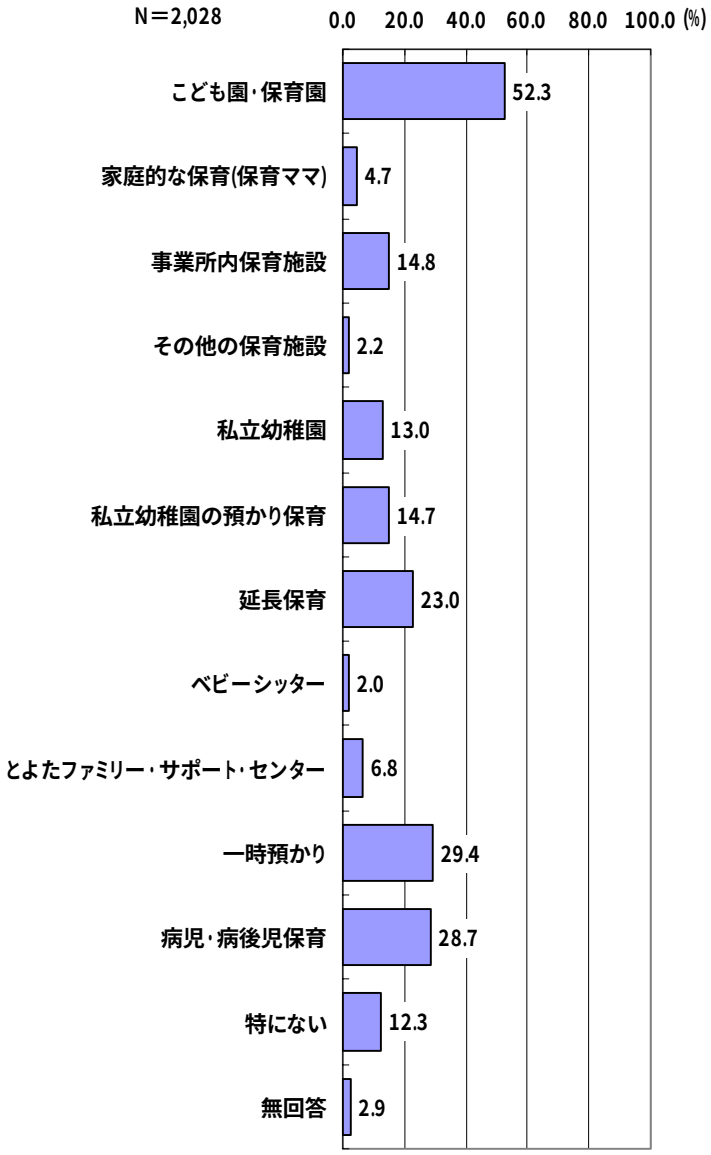
⑤【保育サービスを利用していない人のみ回答】保育サービスを利用していない理由

【就学前児童保護者】



⑥今後利用したい、充実してほしい保育サービス

「こども園・保育園」を挙げた人が半数超と突出した多かった。次いで、「一時預かり」が29.4%、「病児・病後児保育」が28.7%、「延長保育」が23.0%と2割を超えた。

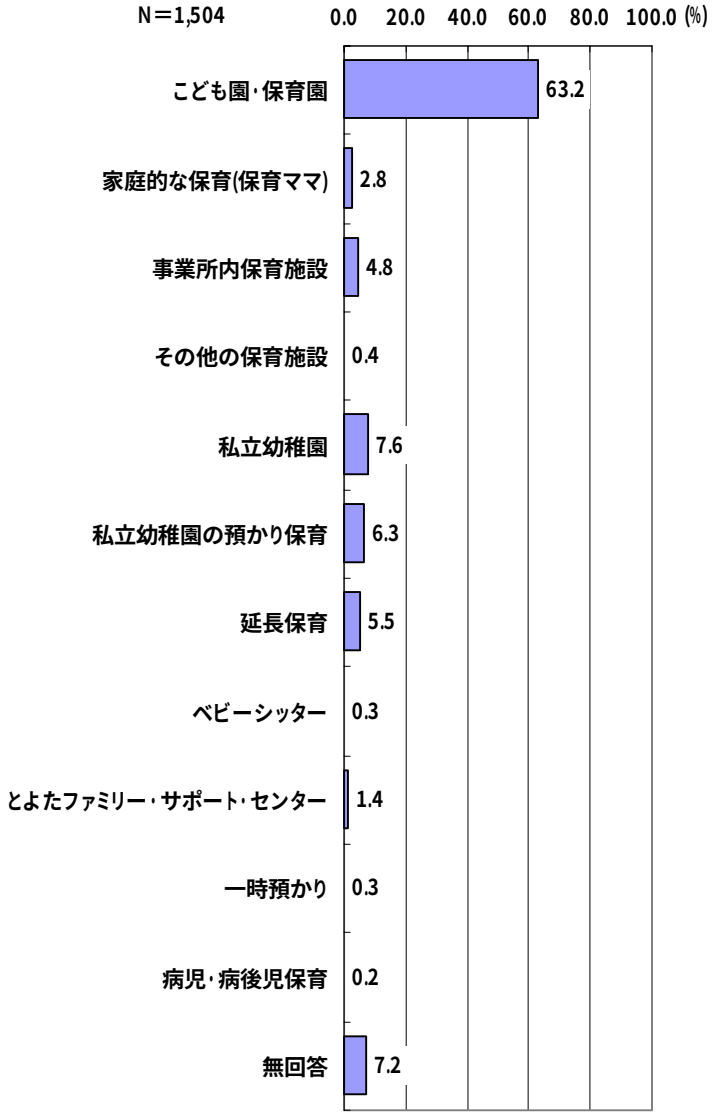


（２）保育サービスの利用意向

①【日中の定期的保育を利用したい、あるいは充実してほしいと思う人のみ回答】利用を希望するサービス

「こども園・保育園」が 63.2%で突出した多かった。次いで、「私立幼稚園」が 7.6%、「私立幼稚園の預かり保育」が 6.3%、「延長保育」が 5.5%であった。

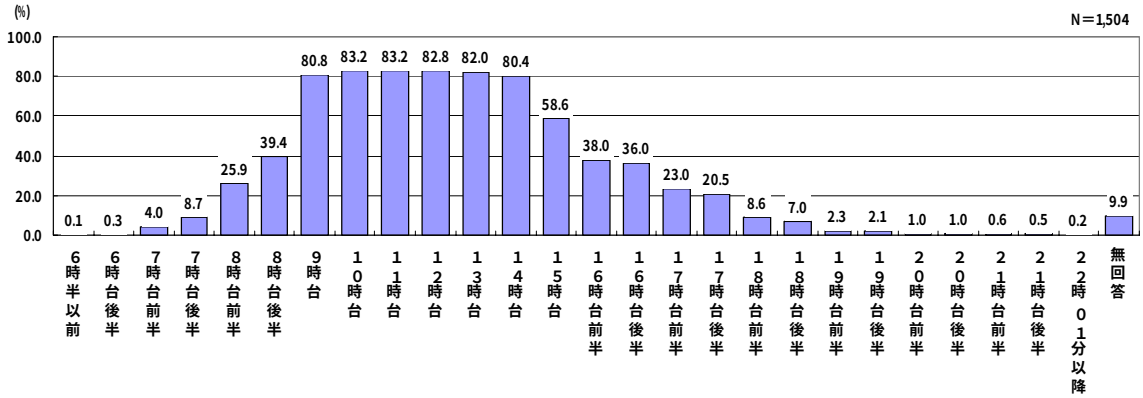
【就学前児童保護者】



②【日中の定期的保育を利用したい、あるいは充実してほしいと思う人のみ回答】利用希望時間

サービス利用希望率 10%以上をカバーする保育時間は 8:00～18:00、5%以上をカバーするのは 7:30～19:00、1%以上をカバーするのは 7:00～21:00 であった。上述した現状の利用時間（サービス利用率 5%以上の時間帯は 7:30～18:00、すべての利用時間帯は 7:00～19:00）と比べると、18:00 以降の延長保育の要望が強いことがわかる。

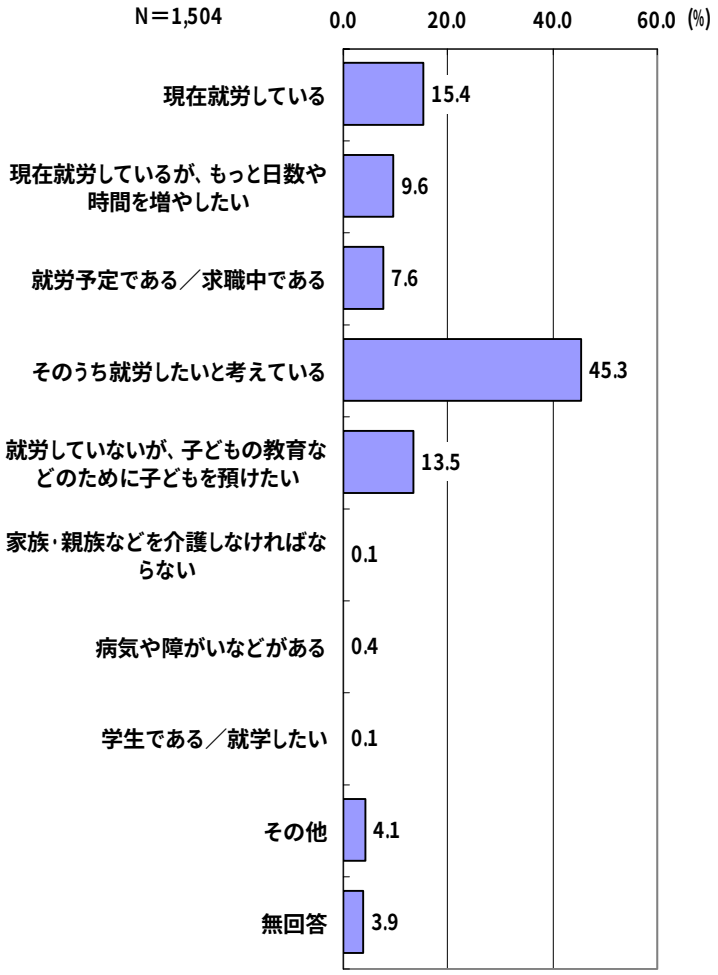
【就学前児童保護者】



③【日中の定期的保育を利用したい、あるいは充実してほしいと思う人のみ回答】サービスを利用したい理由

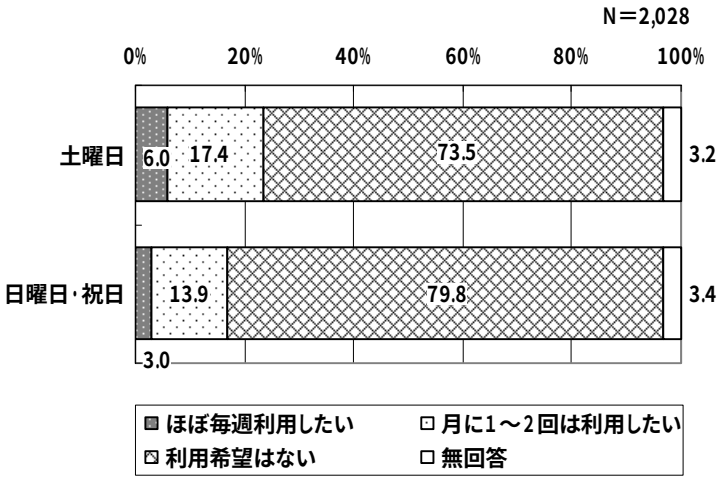
「そのうち就労したいと考えている」が 45.3%で最も多かった。また、「現在就労している」が 15.4%、「現在就労しているが、もっと日数や時間を増やしたい」が 9.6%、「就労予定である／求職中である」が 7.6%であった。

【就学前児童保護者】

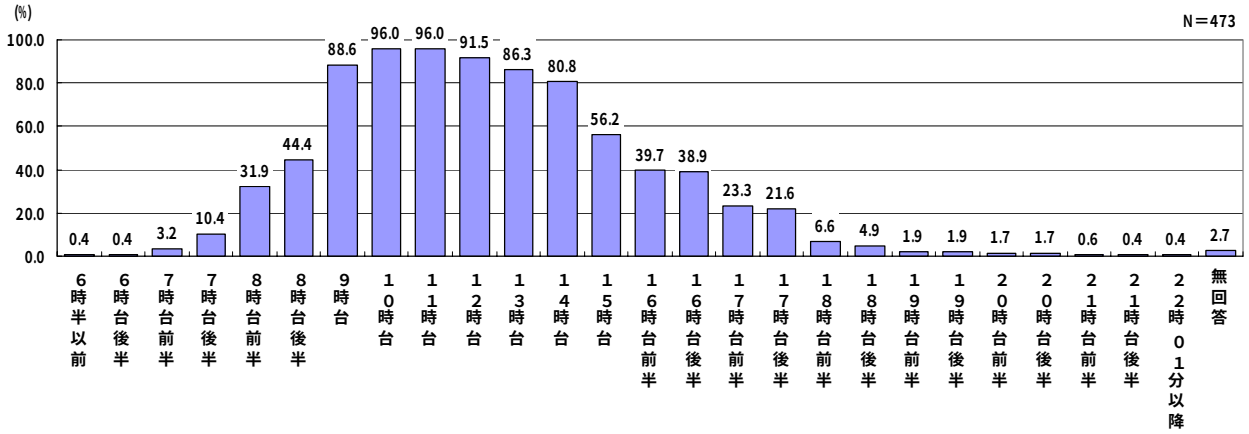


④土日・祝日の利用希望

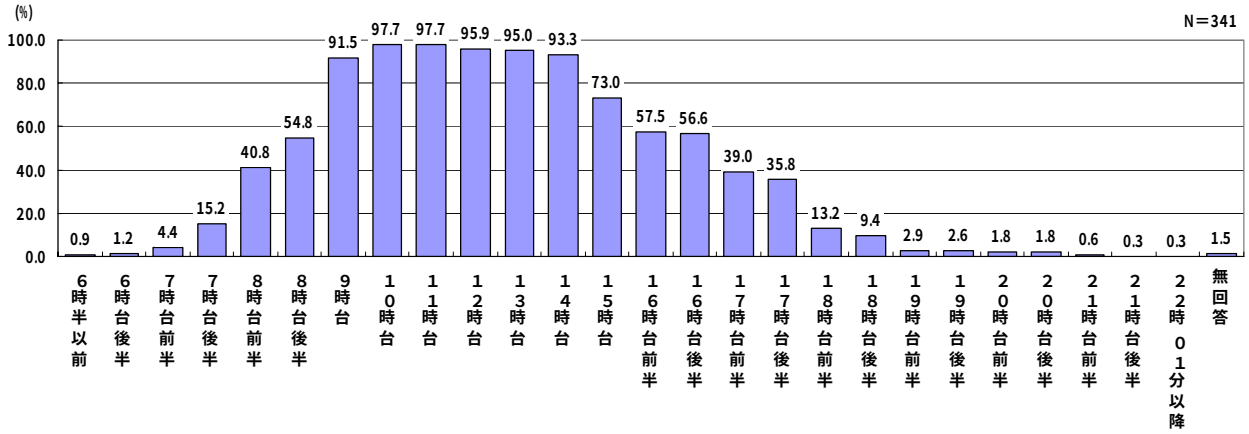
【就学前児童保護者】



●【土・日・祝日に保育サービスなどの利用希望がある人のみ回答】土曜日の希望時間帯

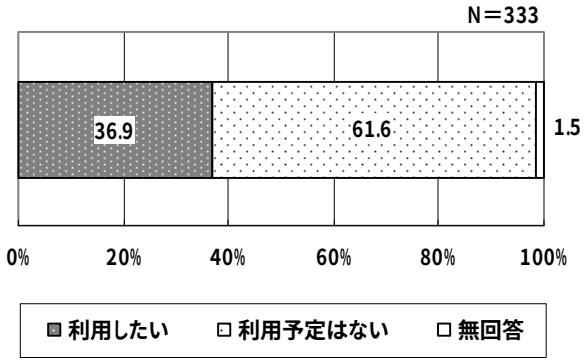


●【土・日・祝日に保育サービスなどの利用希望がある人のみ回答】日曜日の希望時間帯



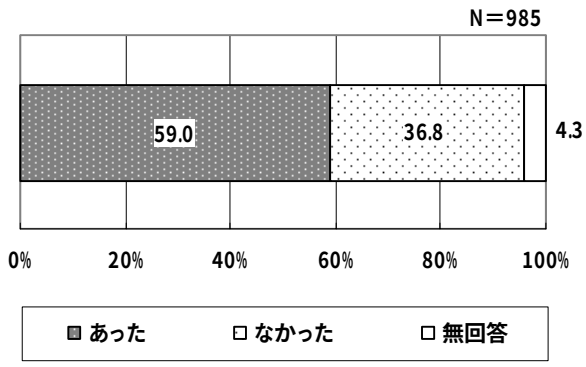
⑤【平成 21 年 4 月に小学校へ入学する予定の子どもを持つ保護者のみ回答】放課後児童クラブの利用意向

【就学前児童保護者】

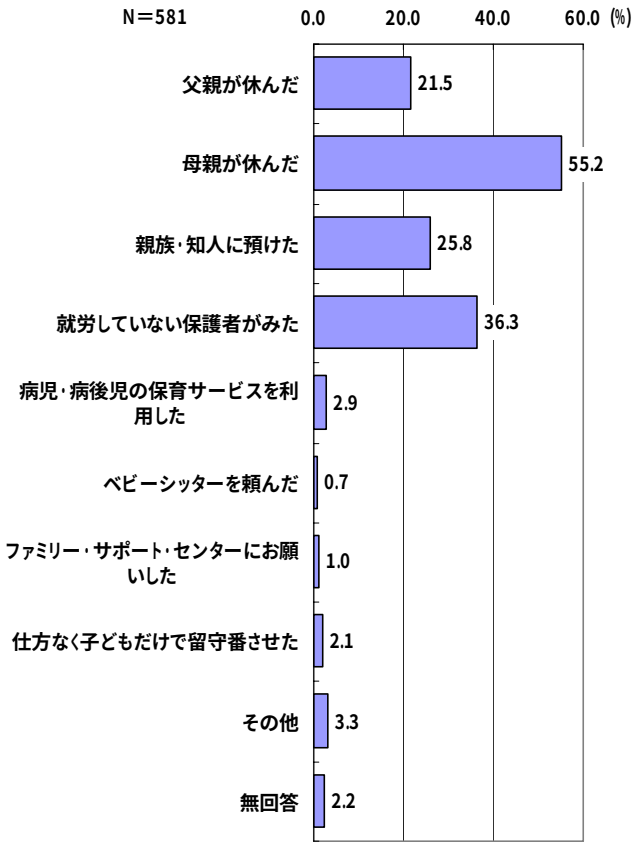


⑥【保育サービスを利用している人のみ回答】病気やケガで通常の保育サービスを利用できなかったこと、あった場合の対処方法

【就学前児童保護者】

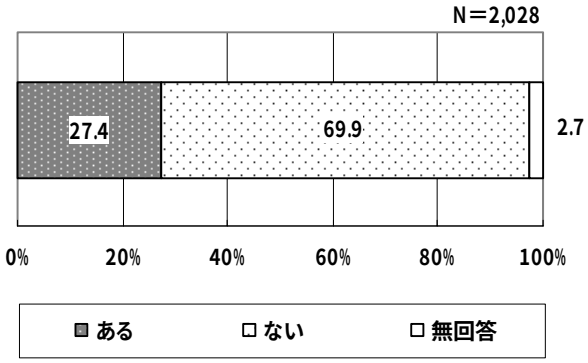


対処方法



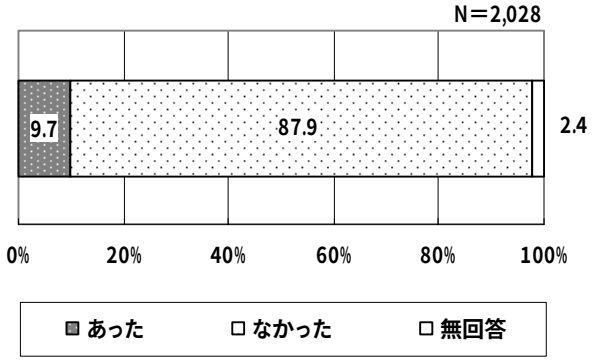
⑦私用等で家族以外に一時的に預けたこと

【就学前児童保護者】

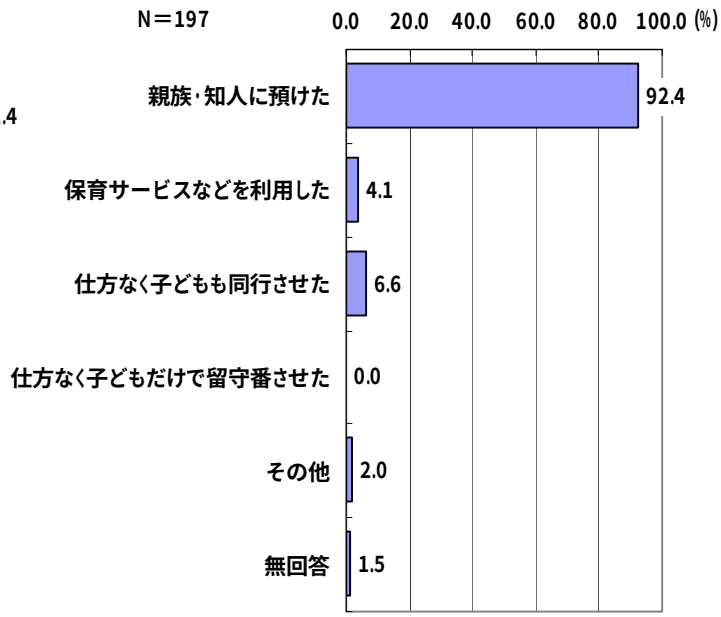


⑧泊りがけで家族以外に預けなければならなかったこと、あった場合の対処方法、親族・知人に預けた場合の困難度

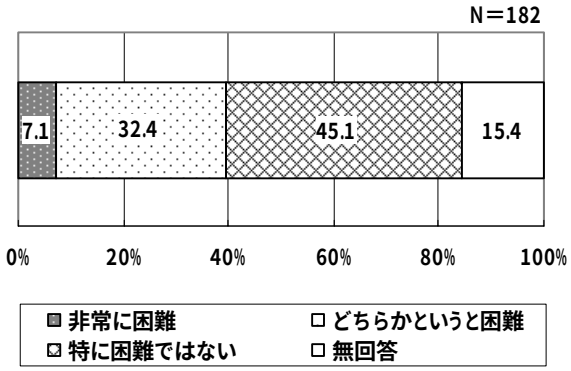
【就学前児童保護者】



対処方法



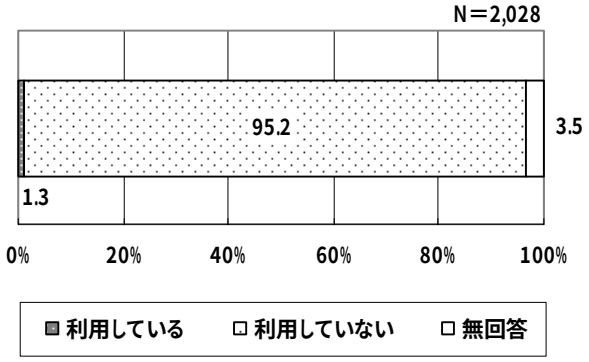
親族・知人に預けた場合の困難度



１－４　ファミリーサポートの利用ニーズ

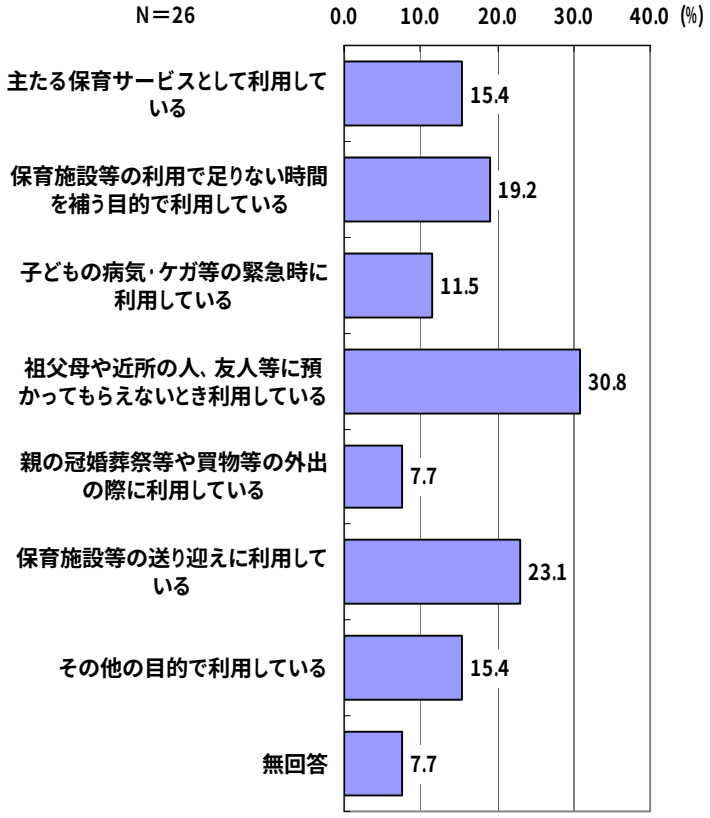
①ファミリー・サポート・センターの利用状況

【就学前児童保護者】



②【利用している人のみ回答】ファミリー・サポート・センターの利用目的

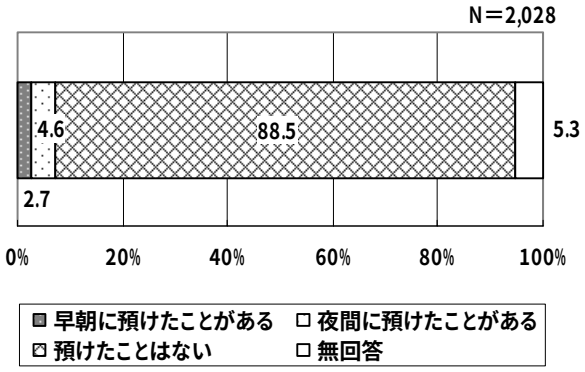
【就学前児童保護者】



１－５　早朝、夜間保育

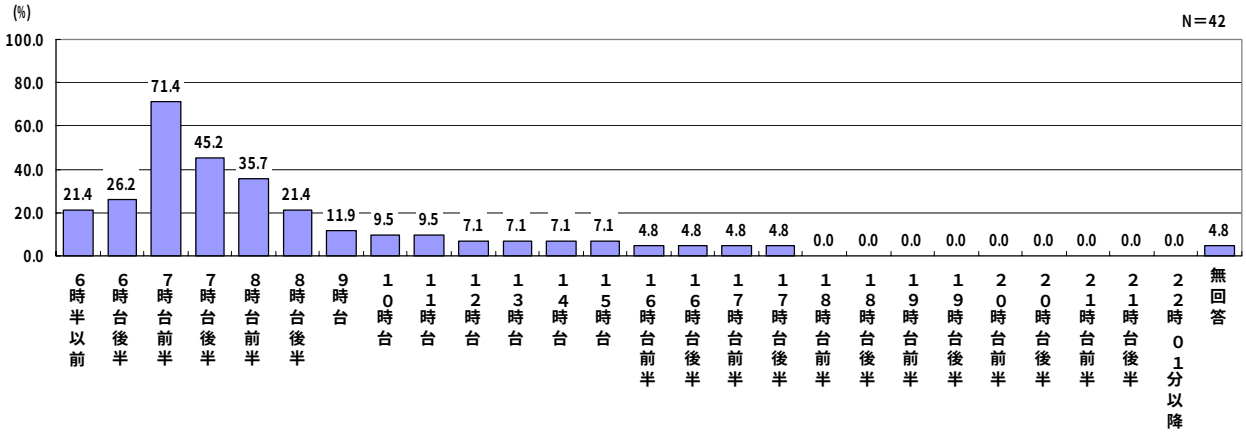
①早朝、夜間保育の利用状況

【就学前児童保護者】



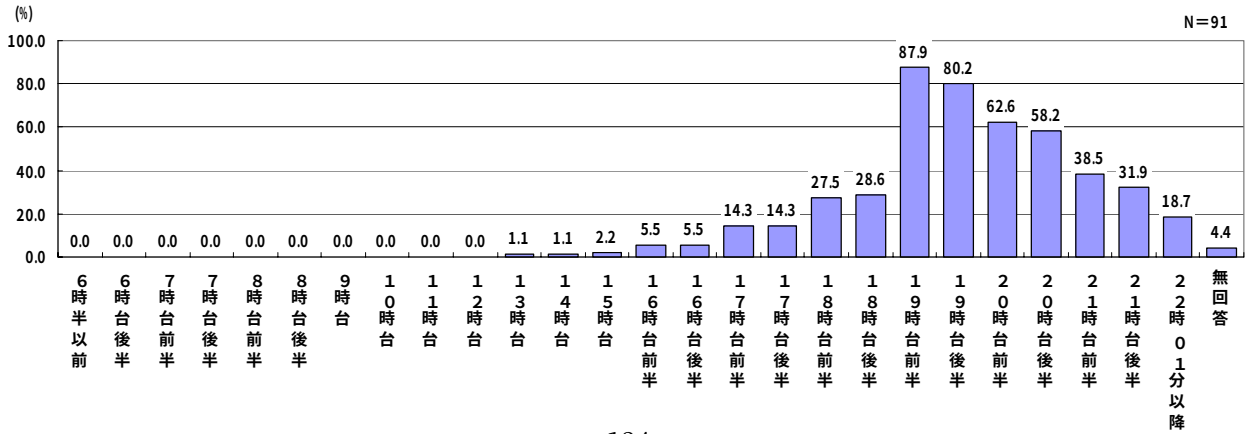
②【早朝に預けたことがある人のみ回答】早朝の利用時間

【就学前児童保護者】



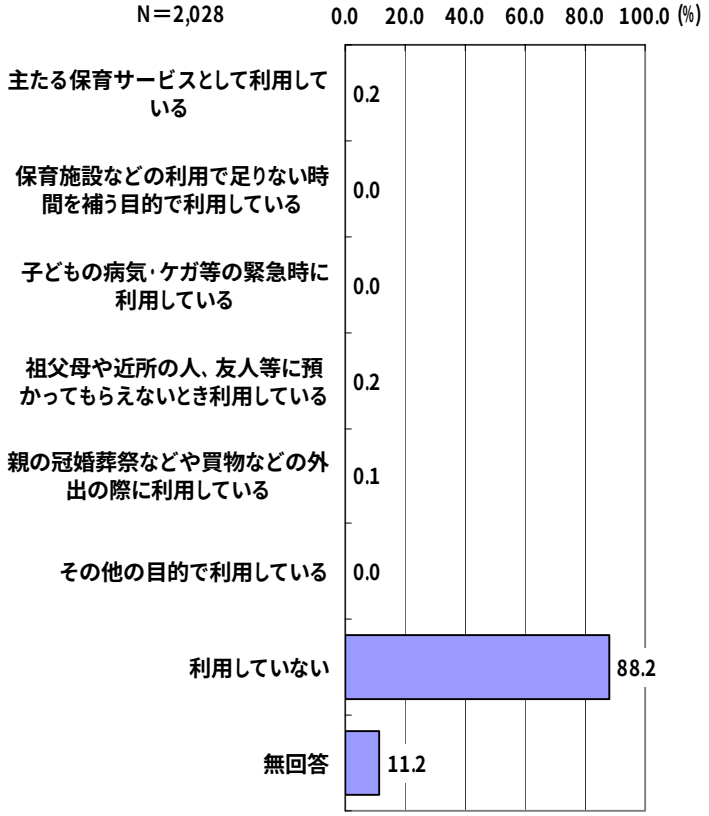
③【夜間に預けたことがある人のみ回答】夜間の利用時間

【就学前児童保護者】



１－６　ベビーシッターの利用状況

【就学前児童保護者】



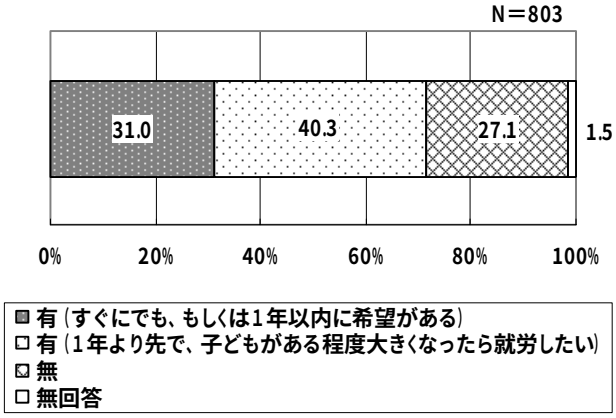
２　放課後児童クラブ等の利用状況・利用希望等

２－１　就労希望、就労支援機関の利用

（１）母親の就労希望

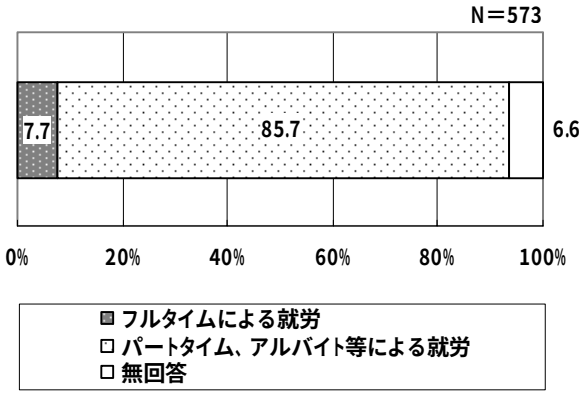
①【以前は就労していたが現在は就労していない、または、これまでに就労したことがない人のみ回答】就労希望

【小学生児童保護者】



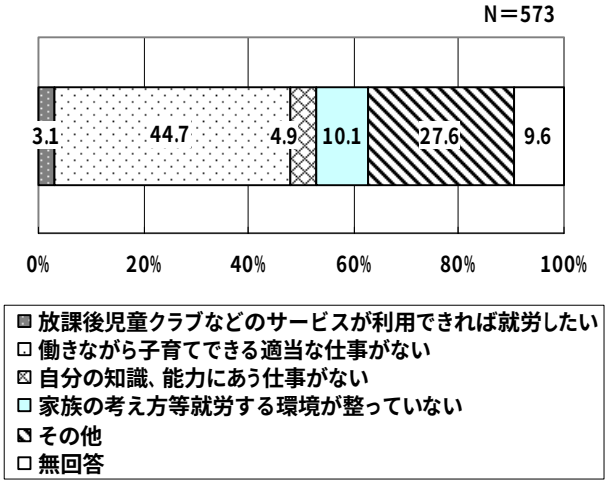
②【就労希望がある人のみ回答】希望する就労形態

【小学生児童保護者】



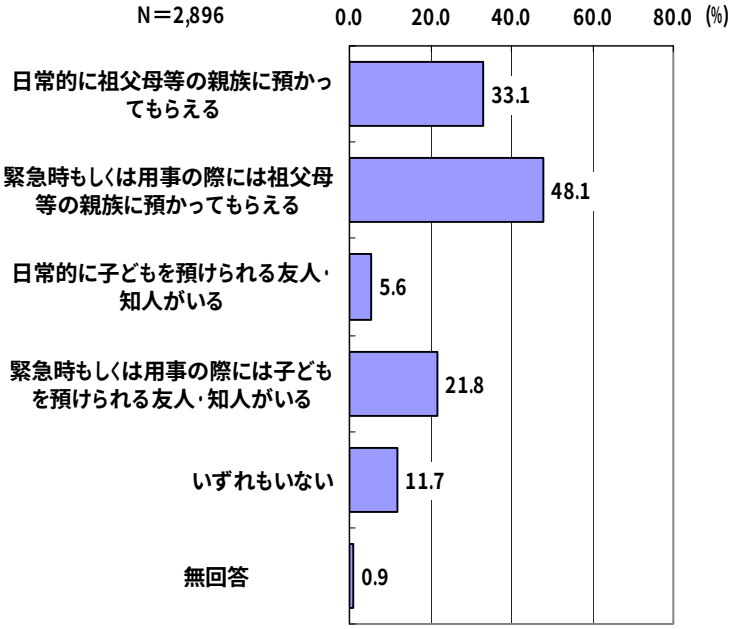
③【就労希望がある人のみ回答】就労希望はあるが働いていない理由

【小学生児童保護者】



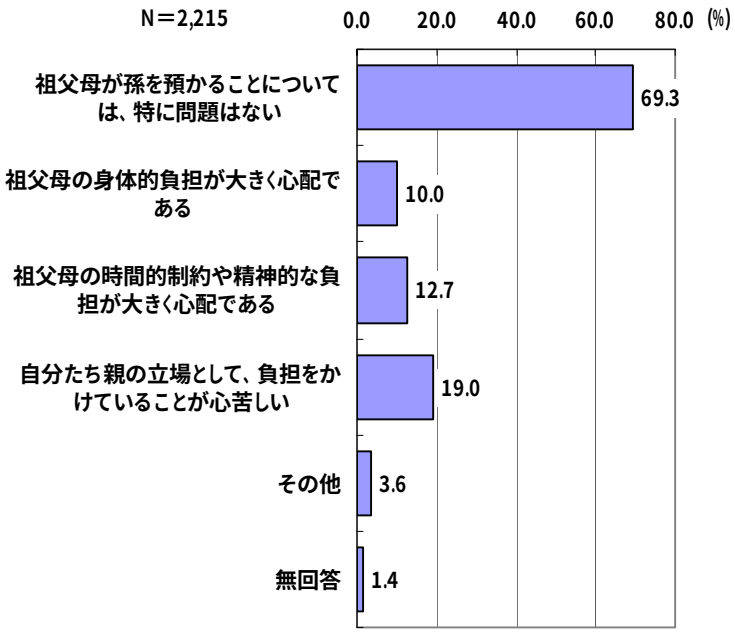
④日頃、子どもを預かってもらえる人

【小学生児童保護者】



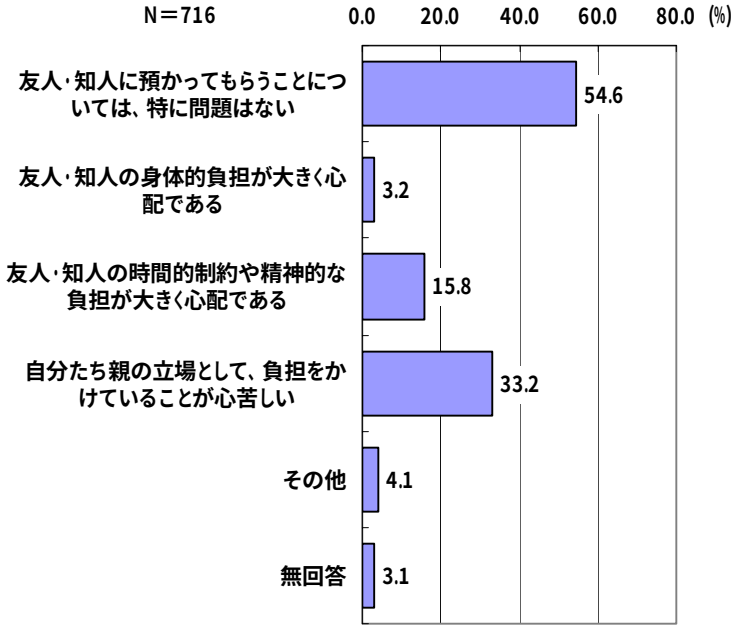
⑤【祖父母に預かってもらえる人のみ回答】祖父母に預かってもらっている状況

【小学生児童保護者】



⑥【子どもを預けられる友人・知人がいる人のみ回答】友人や知人に預かってもらっている状況

【小学生児童保護者】

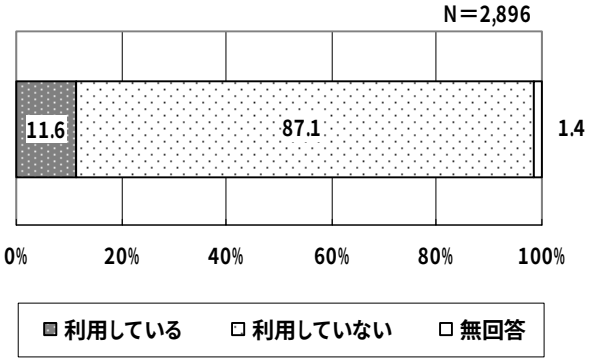


２－２　放課後児童クラブの利用ニーズ

（１）放課後児童クラブの利用状況

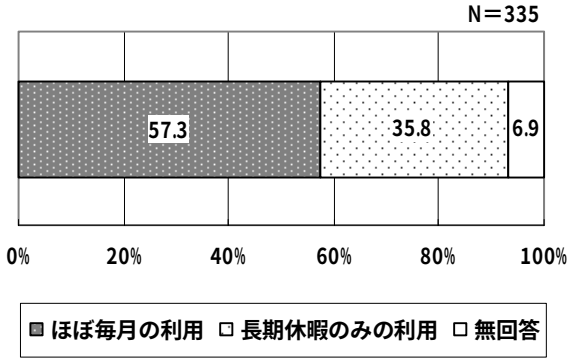
①放課後児童クラブの利用の有無

【小学生児童保護者】



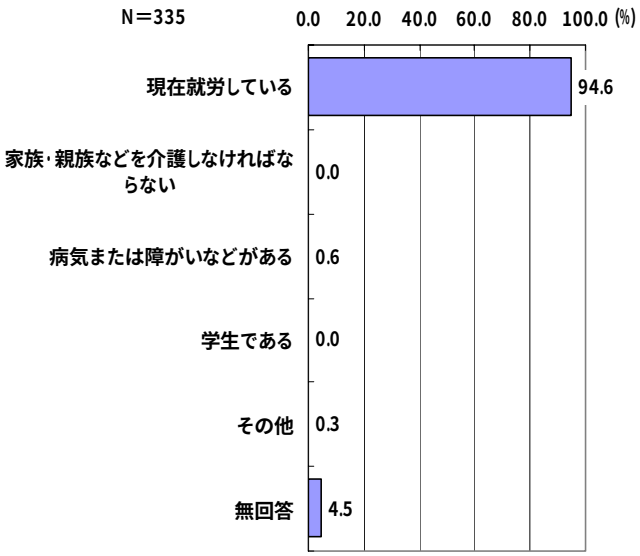
②【利用している人のみ回答】利用日数

【小学生児童保護者】



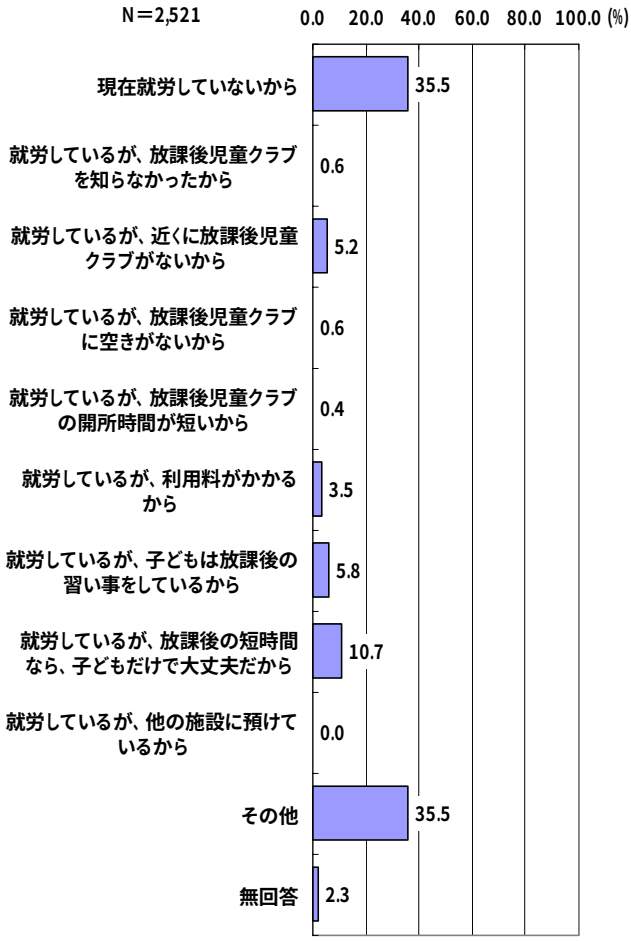
③【利用している人のみ回答】利用している理由

【小学生児童保護者】



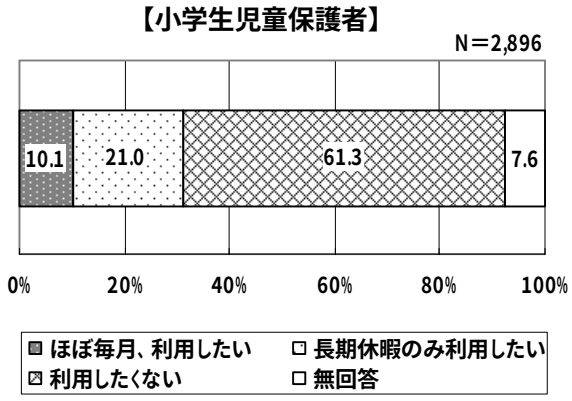
④【利用していない人のみ回答】利用していない理由

【小学生児童保護者】

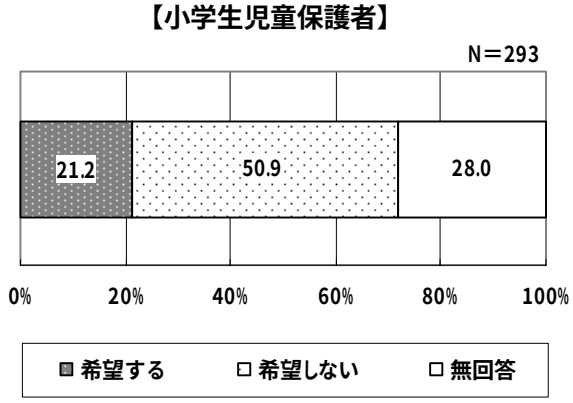


（２）放課後児童クラブの利用意向

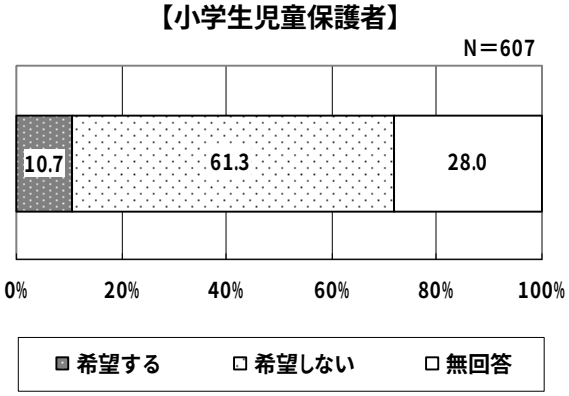
①放課後児童クラブの利用希望



②【ほぼ毎月、利用したい人のみ回答】土日の利用希望

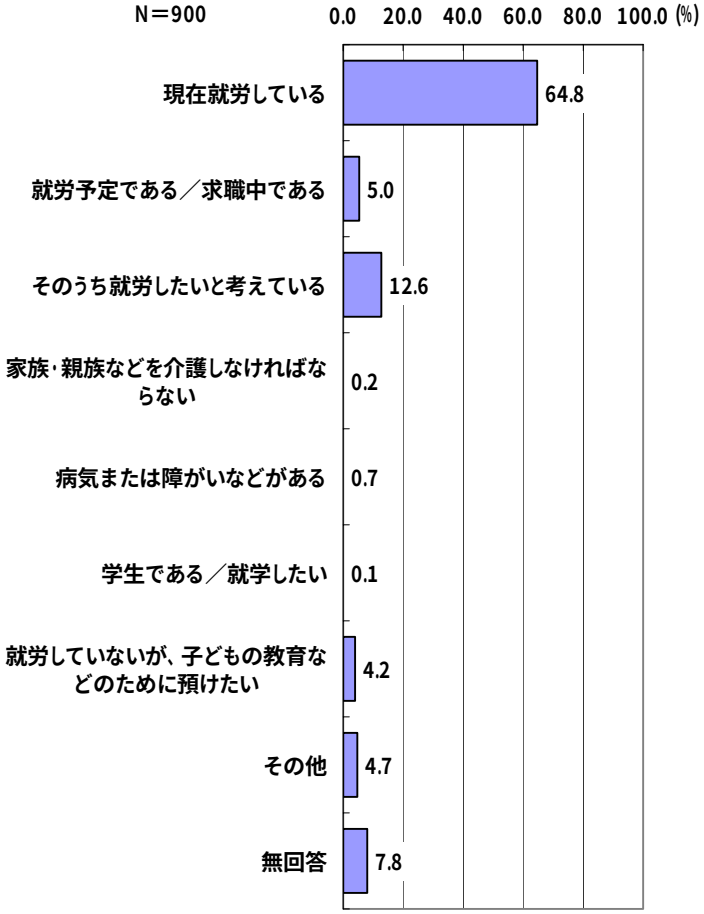


③【長期休暇だけ利用したい人のみ回答】土日の利用希望



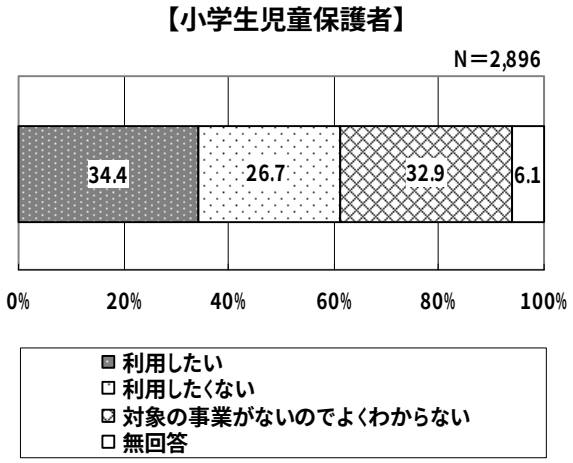
④【利用したい人のみ回答】利用したい理由

【小学生児童保護者】

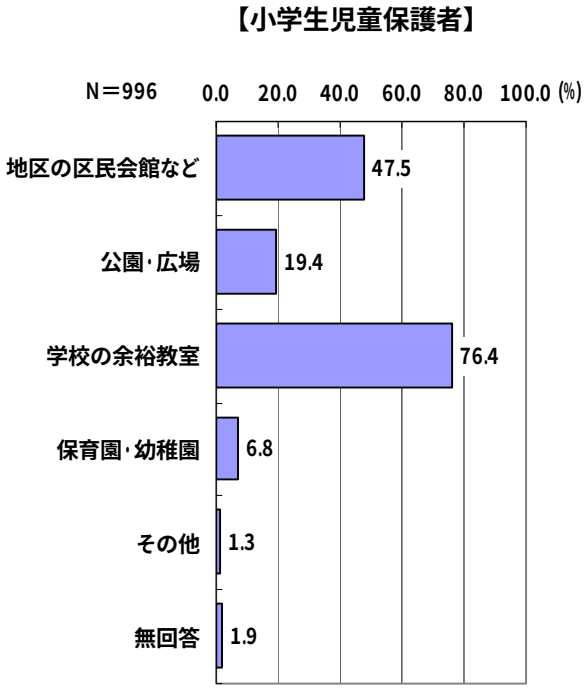


（３）放課後子ども教室の利用希望

①放課後子ども教室の利用希望



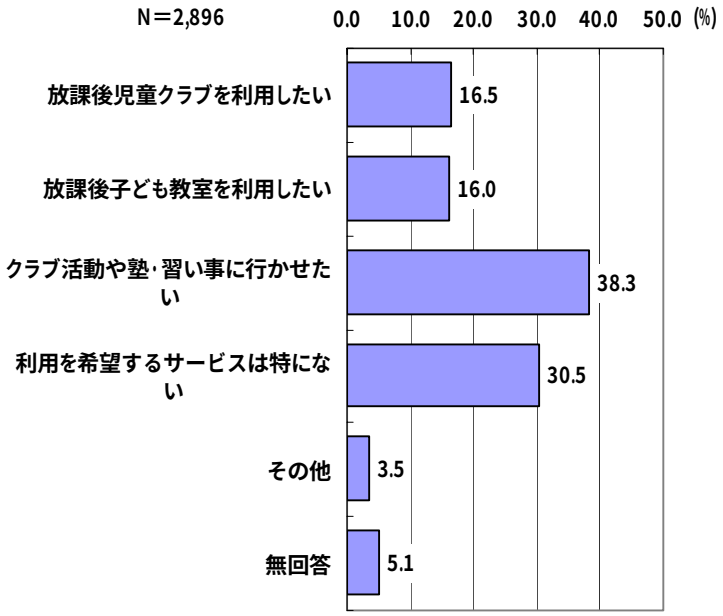
②【利用したい人のみ回答】希望する場所



（４）放課後の過ごした方

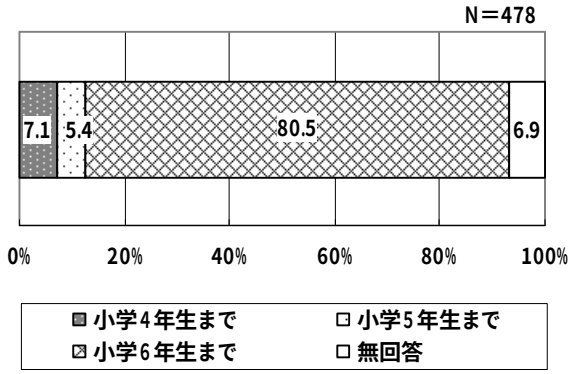
①小学４年生以降の放課後の過ごし方

【小学生児童保護者】



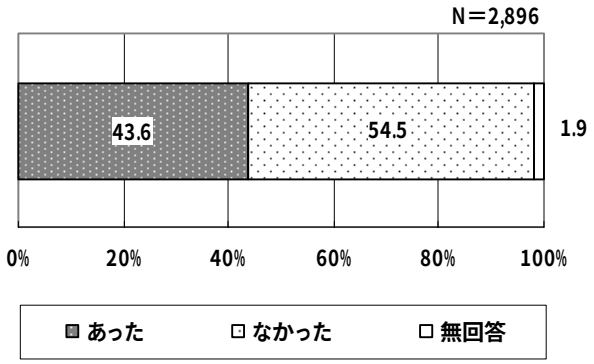
②【放課後児童クラブを利用したい人のみ回答】利用したい学年

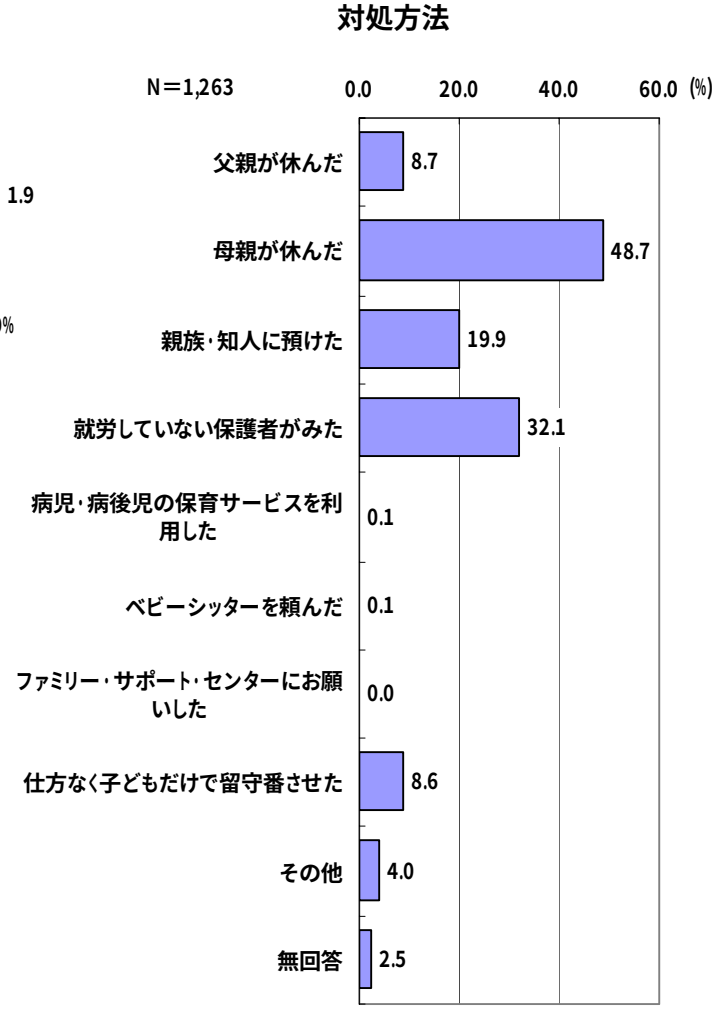
【小学生児童保護者】



③病気やケガで通常の保育サービスを利用できなかったこと、あった場合の対処方法

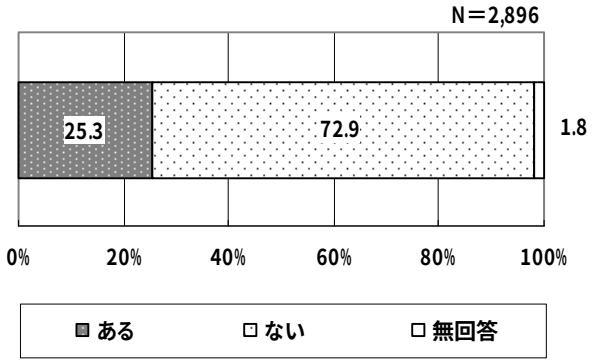
【小学生児童保護者】





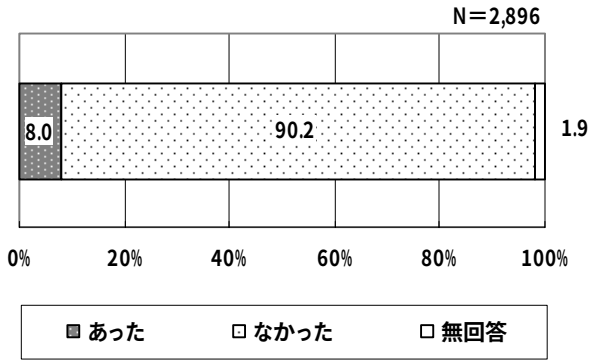
④私用等で家族以外に一時的に預けたこと

【小学生児童保護者】

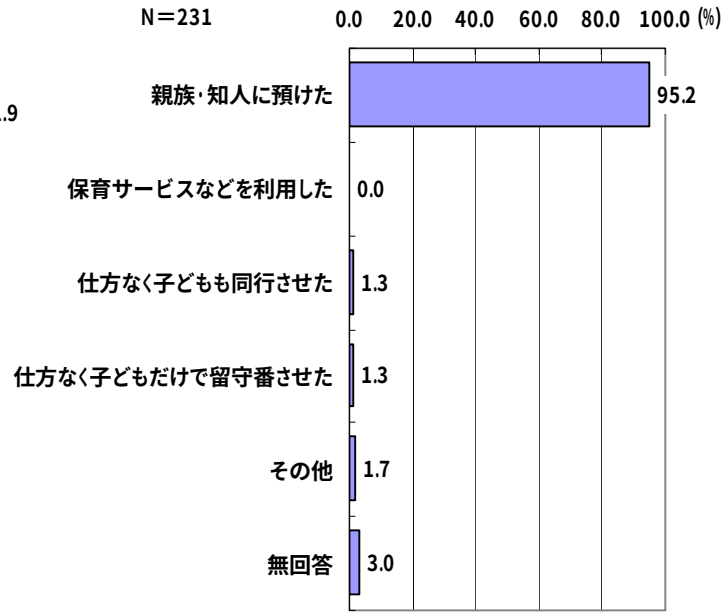


⑤泊りがけで家族以外に預けなければならないこと、あった場合の対処方法、親族・知人に預けた場合の困難度

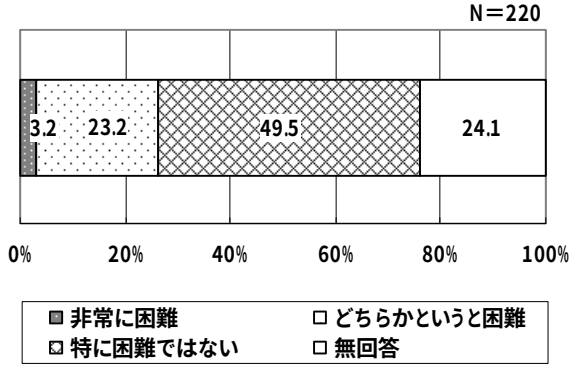
【小学生児童保護者】



対処方法



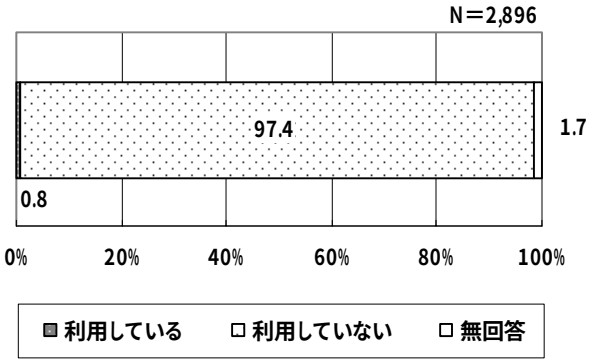
親族・知人に預けた場合の困難度



２－３　ファミリーサポートの利用ニーズ

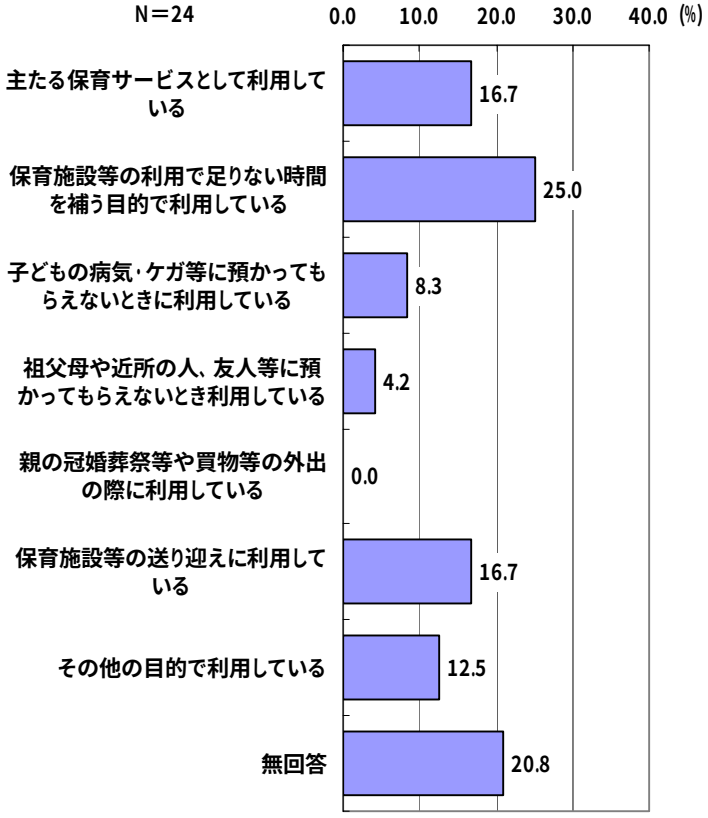
①ファミリー・サポート・センターの利用状況

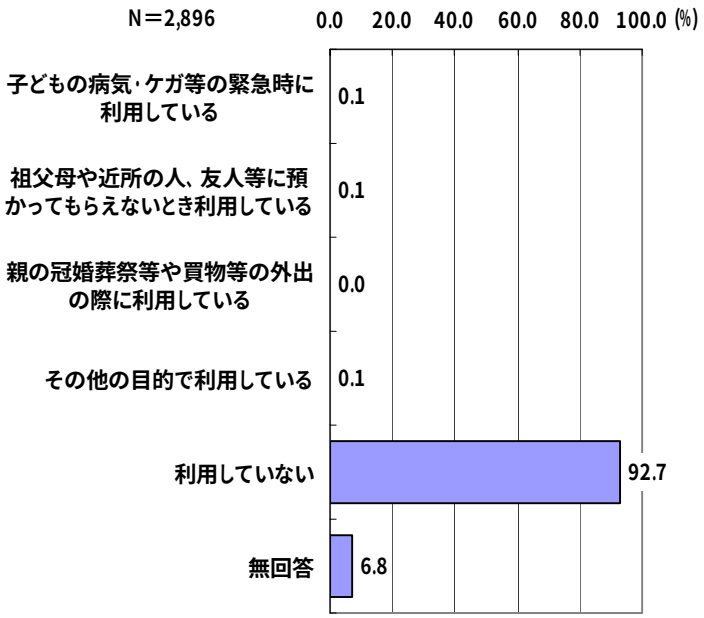
【小学生児童保護者】



②【利用している人のみ回答】ファミリー・サポート・センターの利用目的

【小学生児童保護者】



２－４　ベビーシッターの利用状況・利用希望

【小学生児童保護者】